

31
2

第五回内國
勸業博覽會

審査報告

第二部卷之一

326



第五回内國勸業博覽會審查報告

第二部

卷之一

林業

第一編

總說

第二編

建築土木其他工業用ノ木竹材

第三編

機械器具及製作用ノ加工木竹材

第四編

皮、蔓、染料、塗料其他工業用ノ原料

第五編

菌草類其他食料、藥料

第六編

炭、灰其他林產製品

第七編

皮、毛、羽、角、牙等

第八編

種子、苗

第九編

動植物ノ標本及圖畫

明治
37 5 16
内交

凡例

- 一 本報告書ハ各報告員ノ提出ニ係リシモノニ依リテ之ヲ編纂セリ報告員ハ審査各分掌主任審査官之ニ任セリ
- 一 本報告書ハ部類中ノ毎項ヲ以テ一編トナセリ故ニ毎編長短不同アルヲ免レス
- 一 一編中ニ於テハ報告員ノ異ナル毎ニ評薦ノ標題ヲ更メ其一標題中又各品種ノ順序ヲ逐フテ記述スルノ例トナセリ
- 一 評薦ノ體ハ先ツ出品物ニ關スル林業上ノ性質效用及ヒ需給ノ關係等ヲ記述シ之ヲ毎項ノ總評トナシ附スルニ出品點數及授賞數表ヲ以テシ然ル後其主モノナル出品ニ對シ府縣別ニ依リテ細評ヲ試ミ尙ホ官廳出品ノ細評ヲ添フルヲ以テ例トセリ
- 一 細評中ニハ參照トシテ出品物ニ於ケル解説書又ハ其出品物タル簿冊等其主ナルモノヲ務メテ抄録セリ
- 一 抄録拔萃等トシテ特ニ掲クルヲ要セスト認メタル場合ハ細評文中ニ其要點ヲ記シ産額沿革方法等出品物ニ關スル業況ヲ遺洩ナク世ニ紹介スルヲ努メタリ
- 一 解説書ノ抄録拔萃トモ字句文書等ハ一字ヲモ改刪セス努メテ原文ノ儘ヲ以テセリ
- 一 品名等ハ努メテ普通用フル處ニ從ヒタリト雖トモ往々方言若クハ學名等ヲ併用シタル場合アリ又之ニハ多ク漢字ヲ用ヒシト雖トモ特ニ假名ヲ以テセシモアリ一様ナラス要

ハ其解シ易カラントヲ期セリ

一 報告書中ニ挿入ノ寫真ハ出品物陳列光景及ヒ出品ニ係ル林相其他出品寫真ヲ複寫セルモノ三種ニシテ何レモ其特殊ナルモノヲ撰撮セリ而シテ特ニ林相寫真ノ多キ所以ハ本邦樹林ノ光景ヲ成ルヘク多ク世ニ紹介セントスルノ意ニ外ナラス其他出品物及ヒ陳列光景ノ如キハ尙ホ他ニ撮影ヲ要スルモノアリシト雖トモ之ヲ寫真トナシテ能ク現ハシ難キモノ又ハ光線位置等ノ關係上全ク撮影シ能ハサリシヲ以テ之ヲ省畧セリ

一 寫真ハ成ルヘク編中其該當セル部分ニ之ヲ挿入スヘシト雖トモ亦其然ラサル場合モアリ看者宜ク寫真ノ附記ニ就テ對照參看センコトヲ要ス

一 圖畫ハ特ニ現品ノ色彩配合等ヲ表顯スルヲ要スルモノニ限リテ寫生シ主トシテ海外輸出上等ニ關係ヲ有スル品類ニ止メ其他ニ及ホス能ハサリシハ遺憾ナリトス

一 本報告書ニハ努メテ専門學上ノ術語ヲ避ケタリト雖トモ他ニ適切ナル文字ナキモノハ已ムヲ得ス之ニ據レリ

一 該編纂ハ事匆卒ノ間ニ成リシヲ以テ往々杜撰遺洩ノ點ナシトセス看者幸ニ之ヲ諒セヨ

第五回内國勸業博覽會審查報告

第二部 林業

目錄

上卷

第一編 總說

- 林業概論附出品總評
- 官廳出品總評
- 出品ノ趣旨及陳列
- 審査之經過
- 分科表
- 分擔表
- 部類別出品點數出品人員及授賞數

第二編 建築土木其他工用ノ木竹材

- 杉材
- 扁柏松材
- 竹材

第二部 目次

其他ノ材

第三編 機械器具及製作用ノ加工木竹材

燐寸軸木及經木

其他ノ加工木竹材

第四編 皮、蔓、染料、塗料其他工業用ノ原料

皮、蔓

其他ノ染料、塗料、工業用ノ原料

第五編 菌、草類其他食料、藥料

菌、草類其他食料

藥料

第六編 炭、灰其他林産製品

炭、灰其他林産製品

第七編 皮、毛、羽、角、牙等

皮、毛、羽、角、牙等

第八編 種子、苗

杉、扁柏種子、苗

其他ノ種子、苗

第九編 動植物ノ標本及圖畫

森林有害及有益動植物并被害狀態ノ標本及圖畫

動物ニ關スルモノ

植物ニ關スルモノ

下卷

第十編 森林ノ經理、測量、測樹等ノ施業ノ方法及成績

技術ニ關スル事項

管理ニ關スル事項

第十一編 造林及森林保護ノ方法及成績

造林ニ關スル事項

森林保護ニ關スル事項

第十二編 伐木、造材、運輸、林産製造等森林利用ノ方法及成績

伐木及造材ニ關スル事項

運輸ニ關スル事項

林産製造ニ關スル事項

第十三編 竹林ノ施業造林保護并利用ノ方法及成績

竹林ノ施業造林保護并利用ノ方法及成績

第十四編 林業器具

森林植伐及運搬等ノ器具

林産製造器具

測量測樹ノ器具

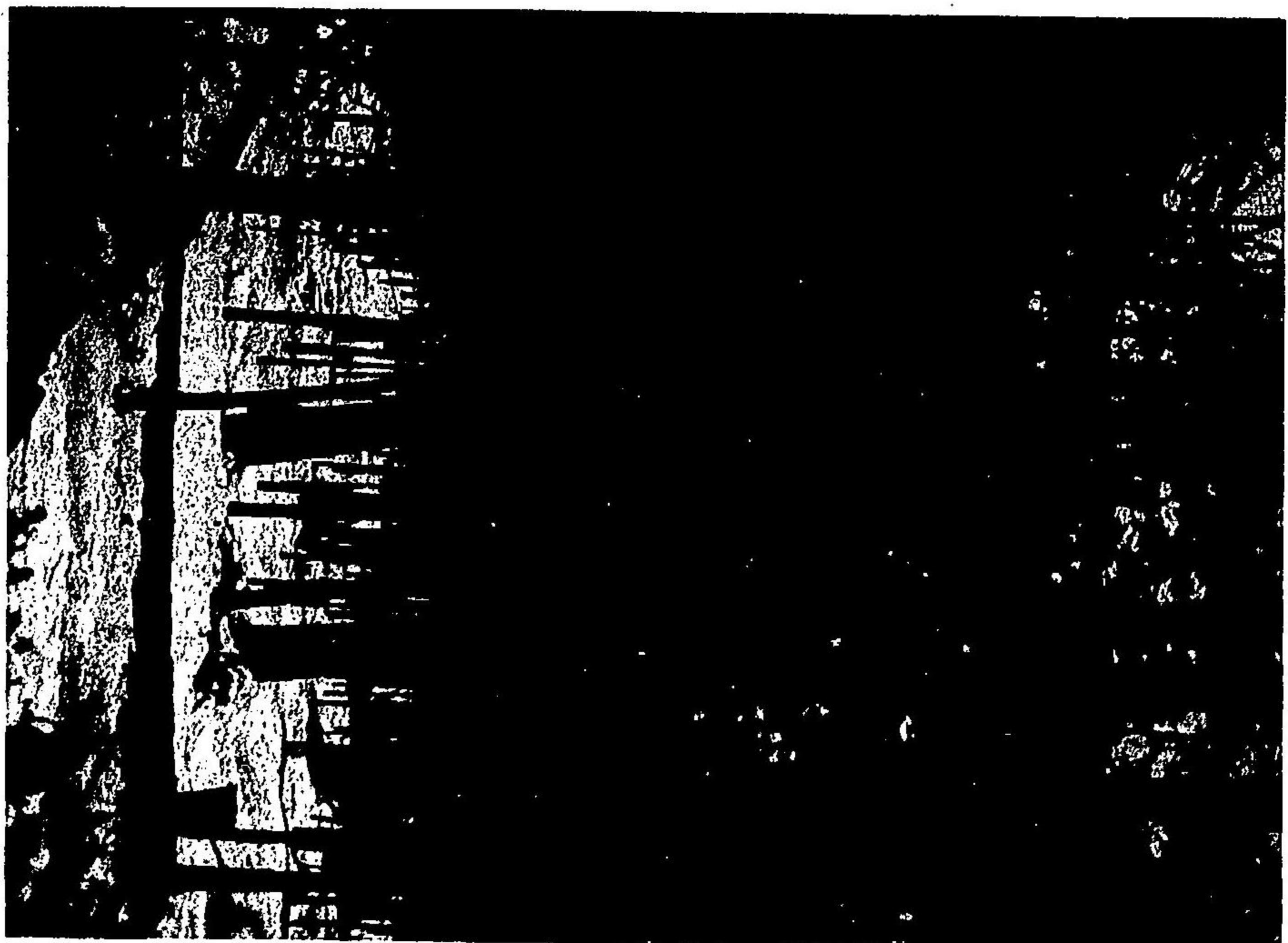
狩獵及有害動物驅除捕獲器具

第十五編 參考館其他外國陳列館出品

以上



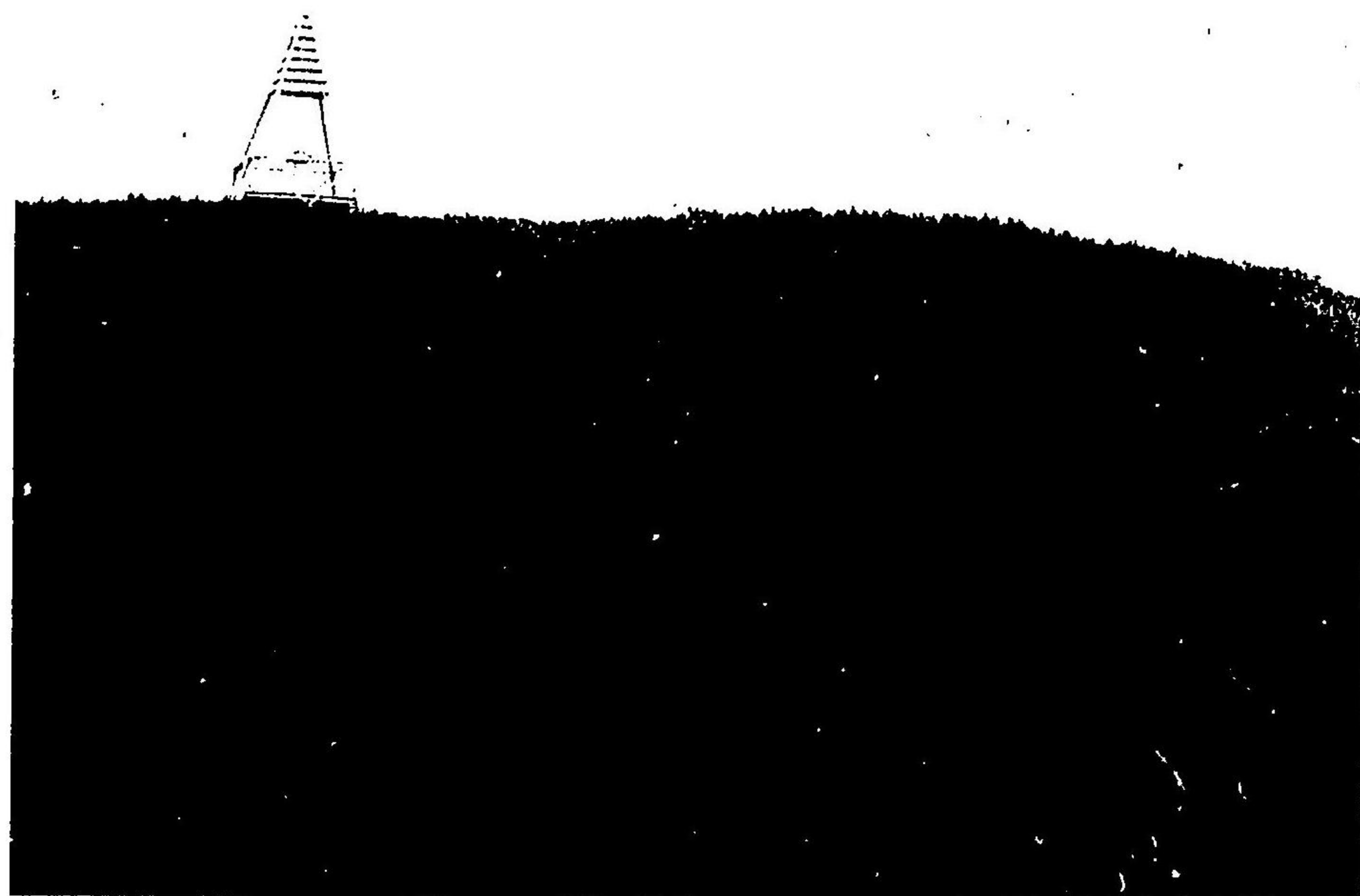
相 林 松 丹 色



(林料御歳千郡拂勇國振膽)相林松夷蝦



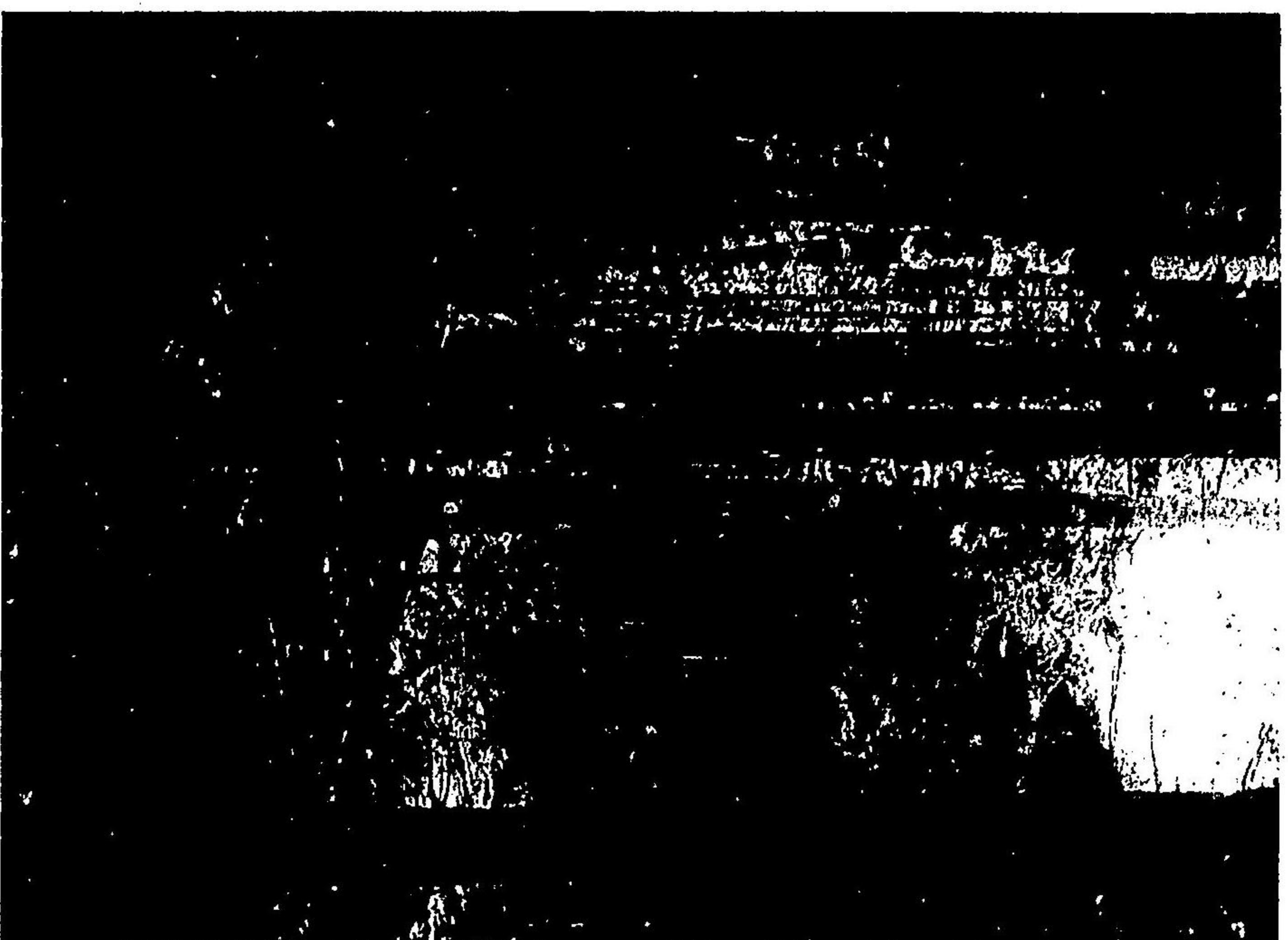
(林有國ヲヤシ國見北)相林松假、松根



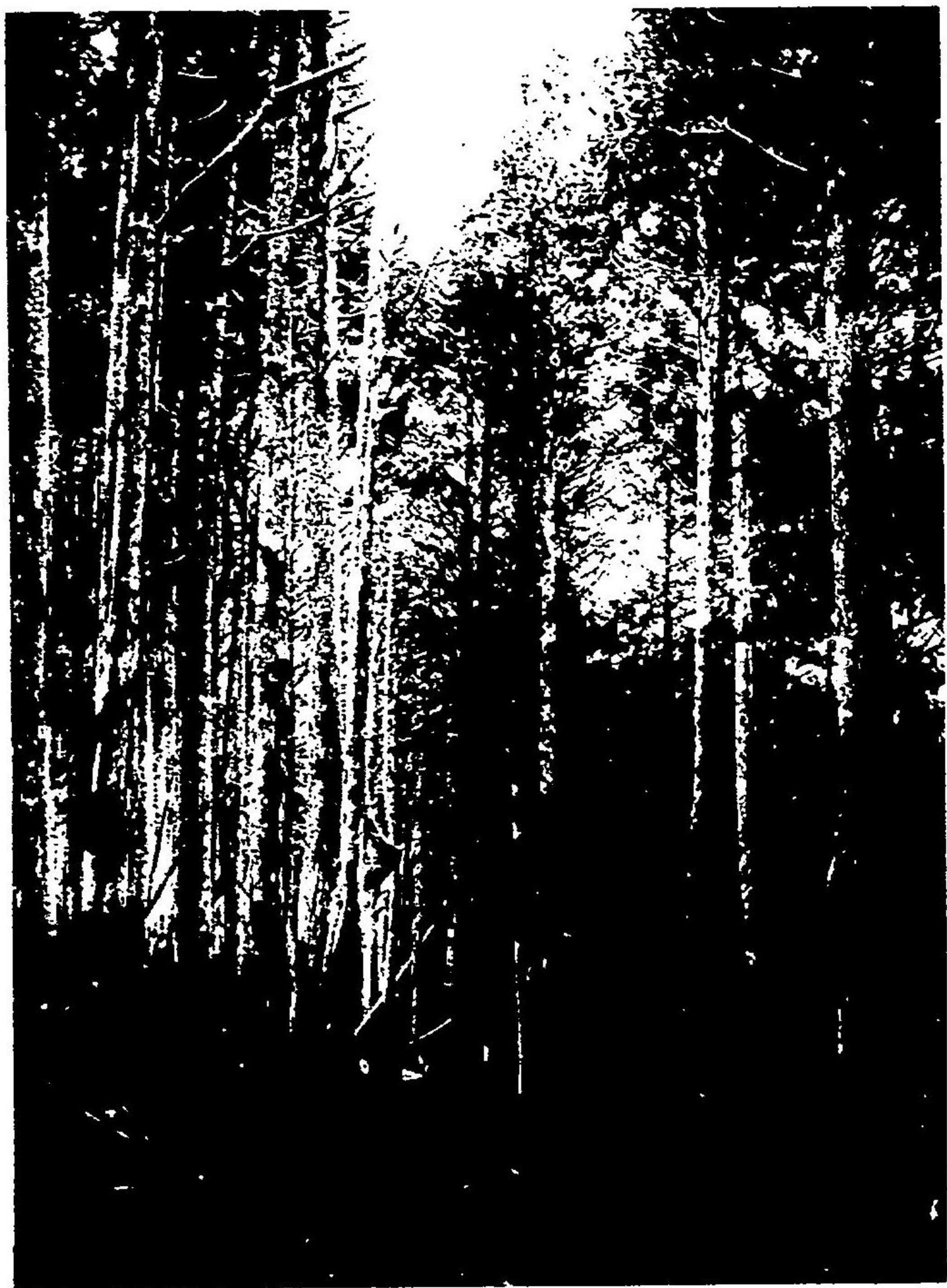
(林有國山田甲八國奧陸)相林松假



(ケンペ字村警社郡珠有國振膽)相林桂



(林料御歳千郡拂勇國振膽)相林松夷蝦赤



相 林 柏 漢 羅



相 林 樺 白



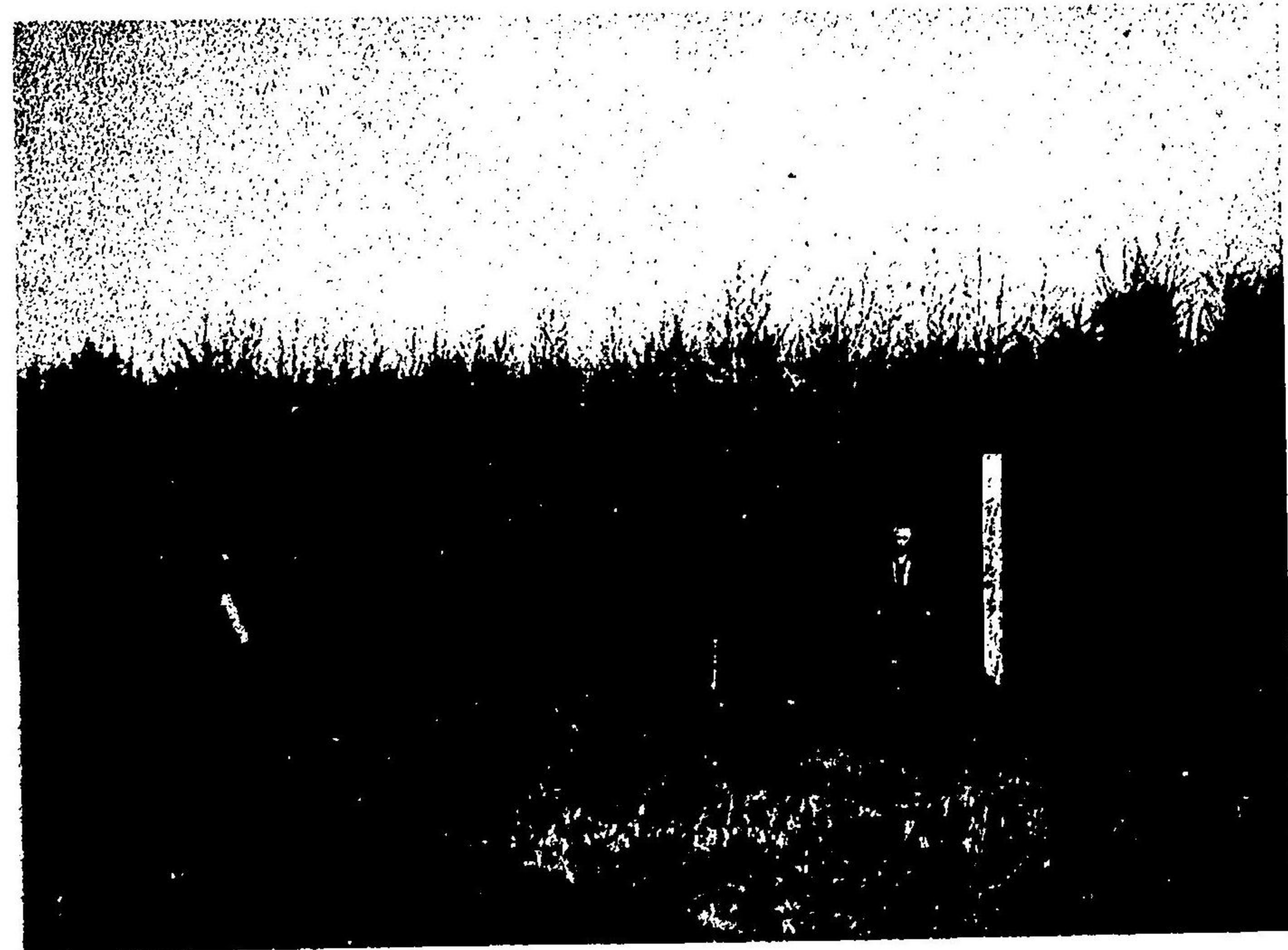
山毛櫸林相



(赤松林相中陸國鶴ヶ峰有齡林三十三年)



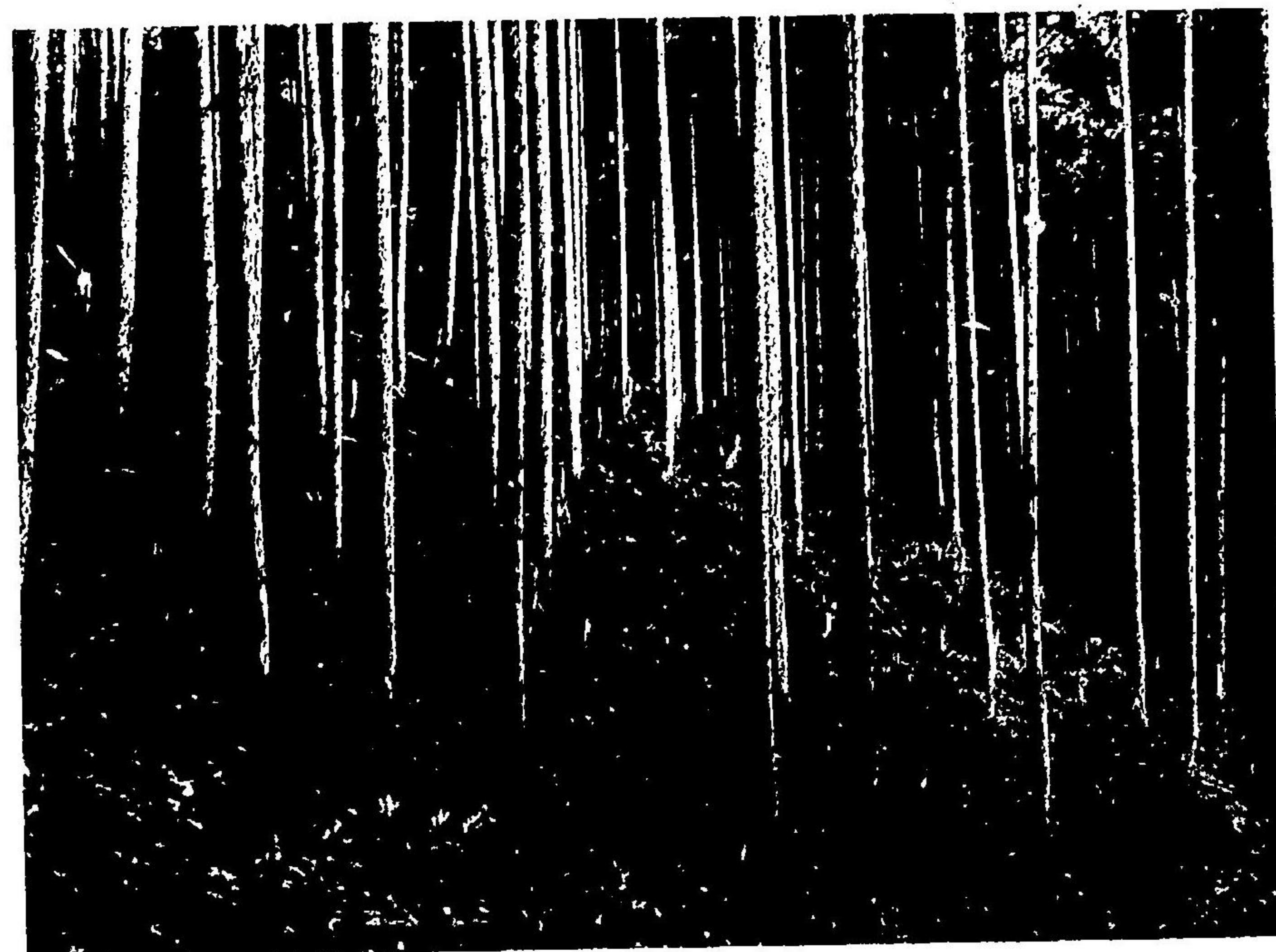
品出署區林大野長 (生年五十四)和林松葉落



品出上同 (生年七)和林松葉落



(近附里ノ覺鶴川曾木園濃信)相林林料御曾木



(年十五齡林村門龍郡野吉國和大)林潘混柏扁杉

品出郎次仙本阪縣良奈



(年五十八齡林村門龍郡野吉國和大)林滑混柏扁杉
品出郎次仙本阪縣良奈



(年十二齡林林有國山處古國前筑)林樹楊黃
品出署區林大岡福



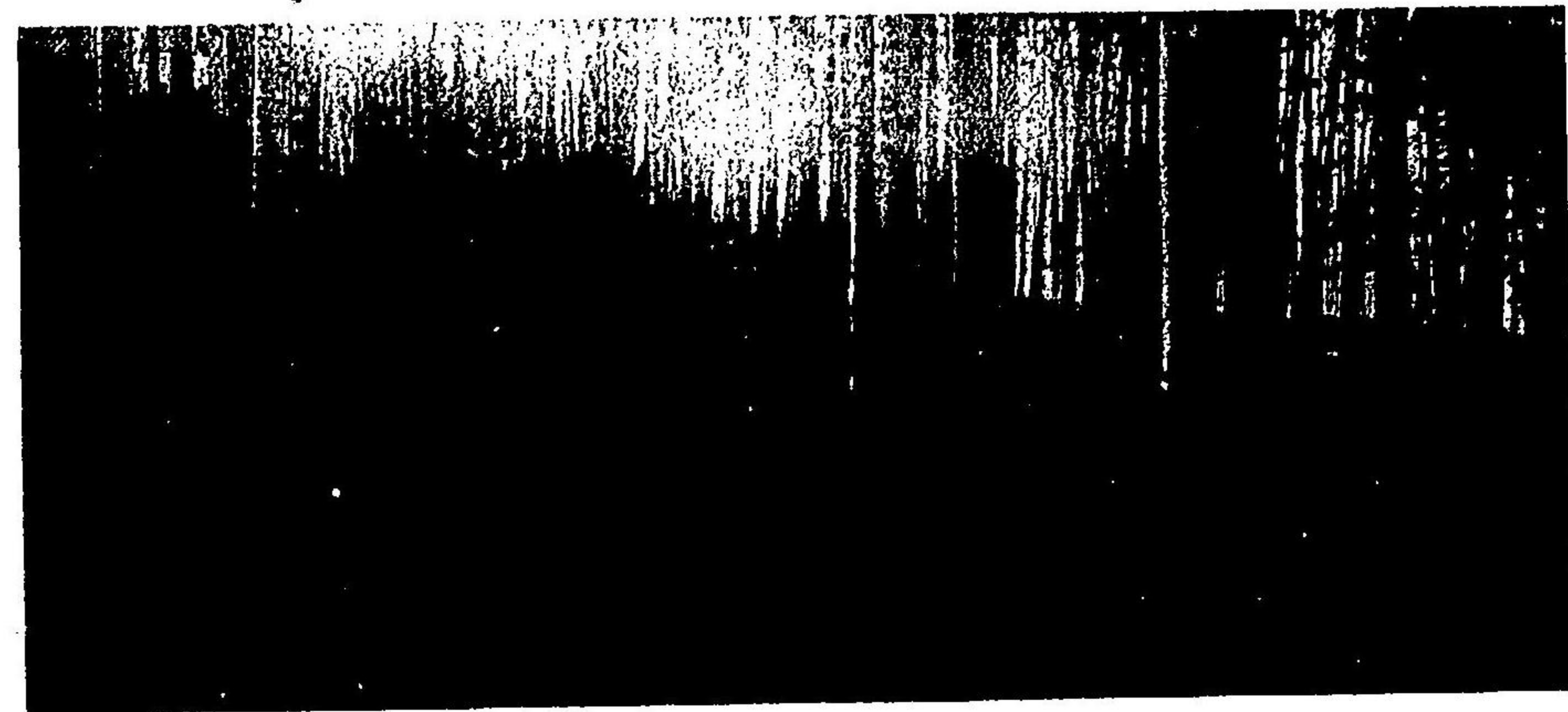
(上以年百三齡林林有國山處古國前筑)相林楊黃
品出署區林大岡福



(坂杉字村鄉野小郡野葛府都京)相林杉
品出ルヒ原松院洞西市都京



(林有民郡訓乙國城山)相林竹黑
品出署區林大阪大



(町鷺尾郡婁牟北國伊紀)相林竹宗孟
品出衛兵郎太井土縣重三

樟林相(筑前國立花山國有林林齡十五年)



福岡大林区署出品

臺灣榕樹林林相

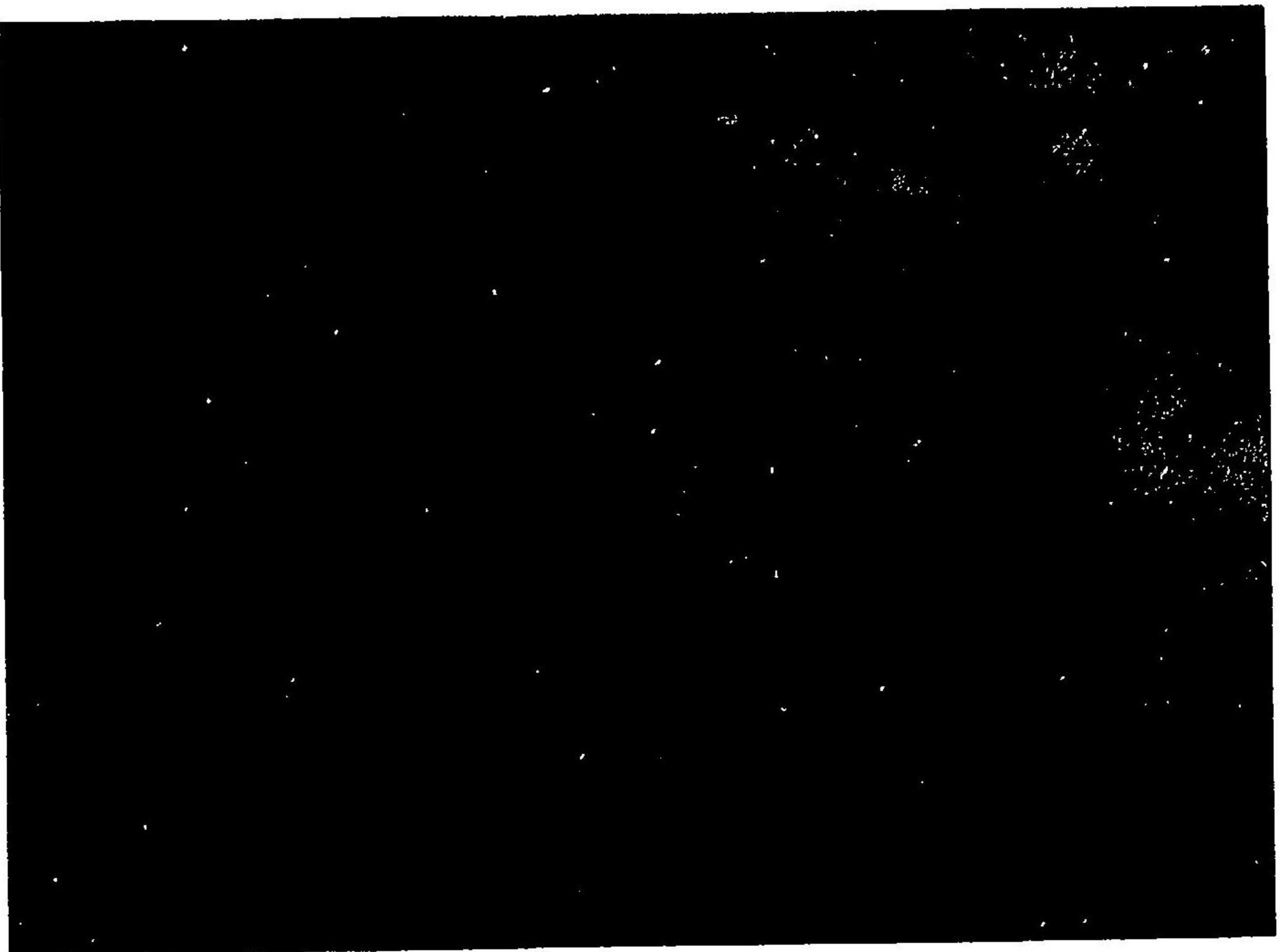


臺灣總督府出品

(林齡老)林樹葉潤灣臺
品出府督總灣臺



林齡壯相林樹葉針灣臺
品出府督總灣臺





品出上同

相林樹葉潤灣臺



品出府督總灣臺

相林樹葉針灣臺

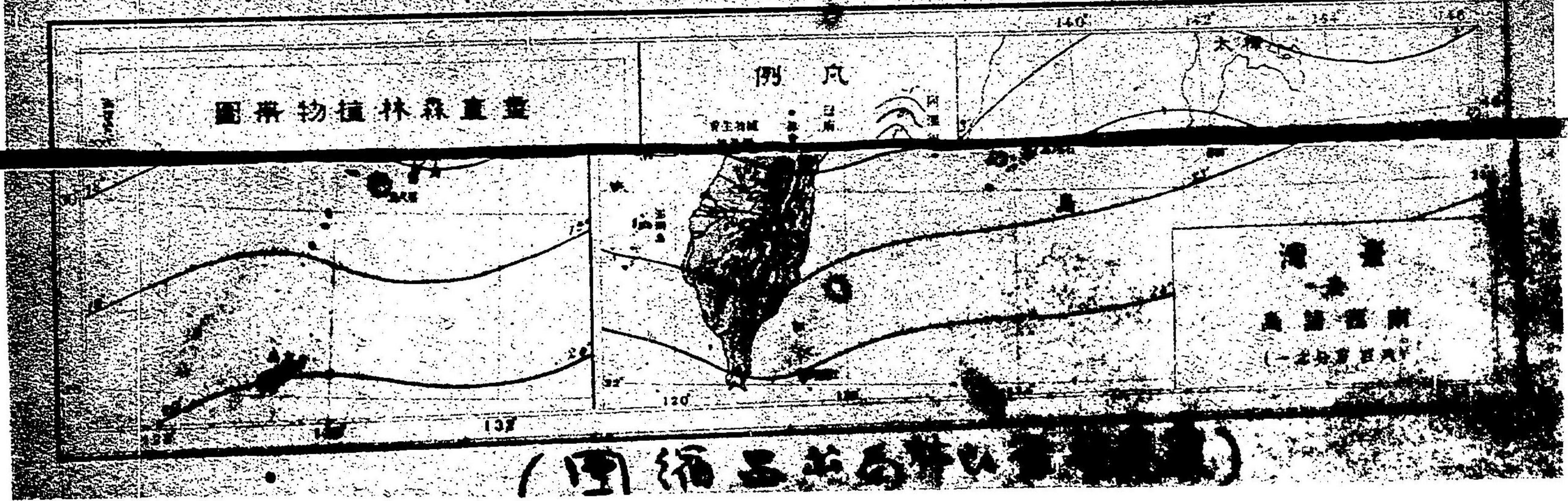


相林林竹桂灣臺
品出府督總灣臺



相林樹榔檳灣臺
品出府督總灣臺

圖帶物植林森南日內



第五回内國勸業博覽會第二部審査報告

林業

審査第二部長 武井守正報告

第一編 總說

林業概論附出品總評

内國勸業博覽會ニ於テ林業カ一ノ部トシテ獨立シタルハ今回ヲ以テ實ニ其嚆矢トナシ前回は於テハ第三部農業林業及園藝ノ部中ニ含マレ其林業ニ屬スルモノトシテハ第二十九類木竹材其他ノ產物トシテ五項ニ分チ第三十類森林ノ用具第三十一類林業ノ方案トシテ各二項ニ別チ即チ三類九項ニ過キサリシト雖モ今回ハ前回ニ於テ農業ニ屬セシモノ、中及第一部工業ニ屬セシモノ、中ノ或部ヲモ割キテ本部ニ併屬セシメ即チ第九類林產物ニ於テ九項ニ分レ第十類林業ノ方法及第十一類林業器具ニ於テ各四項ニ別レ其類別ニ於テハ前回ト等シク三類ナルモ項ニ於テハ十七項ナルカ故約其倍數ヲ増加シ加之各項ニ於ケル目ノ細別ニ於テ更ニ幾段ノ詳細ナル揭示ヲ悉クシタルヲ以テ當然當部ニ屬スヘキ品種ノ範圍ヲ明ニセシト同時ニ著シク其擴張ヲ見ルニ至レリ而シテ今回當部ノ出品數ハ實ニ一萬一千四百點ノ多キニ達シ授賞人數名譽金牌賞一點同銀牌賞四點ヲ初メトシテ一等賞二十點二等賞七十三點三等賞二百四十點褒狀九百六十七點總計一千三百五點ノ好績ヲ表ハセリ之ヲ前回ノ林業ニ關スル出品數一千六百四十五點ニシテ授賞數總ニ進歩二等賞一點ヲ最優等トシテ有功二等

第二部 林業總說

賞四點有功三等賞十四點褒狀八十八點合計一百七點ナルニ比スレハ出品數ニ於テ幾ント六倍餘ノ増加ヲ見授賞數ニ於テ實ニ十二倍餘ノ多キニ達セルナリ且其出品區域ノ如キモ出品點數ノ最多數ナル大阪府ノ九百四十八點ヲ始トシテ最少數タル佐賀縣ノ五點ニ至ルマテ臺灣北海道及各府縣ヲ通シテ一トシテ本部所屬ノ出品ヲ見サル地方ナシ此ノ如キノ擴張ト好績トヲ見ルニ至レル今回ノ當部出品ハ是果シテ本邦林業ノ面目ヲ表顯シテ遺憾ナキヲ得タルモノトスヘキ歟由來森林ノモノタル極メテ宏大深遠ニシテ隨テ亦林業カ殖産界ニ一大潛勢力ヲ有シ隨テ其事業ノ複雜ニシテ多端ナル決シテ纔ニ萬點許ノ出品ト類項ノ増加ノ如キヲ以テ其全斑ヲ表出シ得ヘキニアラス否寧ロ其真相ノ一端タモ之ヲ披瀝シ得サリシニアラサルカラ憾マスンハアラサルナリ忠フニ今回ノ出品ハ林業ナルモノカ從來極メテ世ノ冷視スル所トナリテ我殖産界ノ裏面ニ潛伏シタリシニ博覽會ナルモノ、動機ニ由リテ聊カ其曙光ヲ發現シタルニ過キサルナルヘシ今回ノ出品ニ對スル幾多仔細ノ評說ニ先タチ請フ少シク我邦林業ニ就テ説ク所アラシメヨ

本邦ノ森林ハ實ニ國土ノ三分ノ二以上ヲ占有スル所ニシテ之ヲ歐米諸州ニ比スルモ多ク其例ヲ見サル所ナリ然ルニ由來本邦ノ位置タル太平洋上孤在ノ島土ニシテ其地勢峰嶺峽々トシテ國ノ頭尾ニ連亘シ其間高嶺アリ支山脈アリ重疊起伏寔ニ端睨スヘカラサルモノアリ故ニ是等ノ間ニ介マレル田圃ノ如キニ於テスラモ猶ホ且ツ大陸的ニ施農スルコト難ク又他ノ工業等ニ於ケルモ運輸交通上等ニ幾多ノ不便ト支障トヲ有スルコト鮮シトセス矧ンヤ其山

岳ヲ拓キチ田圃トナシ峰嶺ヲ整テ鐵路ヲ通スルカ如キ豈ニ容易ノコトナランヤ加之本邦ハ其島土タルノ位置トシテ寒暖潮流ノ關係及雨量温度氣壓風向等氣象上ノ關係ニ於テ特殊ナルノ點アリテ或ハ暴風大雨頻々トシテ襲來シ或ハ積雪降霜遽カニ來リ時ニ或ハ連旬旱魃ノ憂アリ或ハ陰晴ノ序ヲ失スルコト多キ等幾多氣象上ノ災厄ヲ免レサルモノアルカ故ニ之ヲ調和シテ以テ人生ノ安寧ヲ保ツカ爲メ森林ノ存在ヲ必要トスルコトヤ甚タ切ナリ又水源ヲ涵養シ田圃ノ灌溉ニ資シ或ハ工業上ニ要スル動力ノ泉源タル水力ヲ供給シ或ハ森林ノ綠蔭ハ魚群ヲ招致シテ本邦無限ノ財源タル水産ノ收獲ヲ豊カナラシメ或ハ土地ノ安固ヲ保チテ鑛業上幾多ノ危害ヲ豫防スル等森林ノ生存ニ依賴セサルハナシ故ニ是等農漁工鑛業等ニ對スル必要ヨリスルモ亦本邦ニ於テ多大森林ノ存在ハ決シテ非認スヘキニテラサルナリ是ニ依テ之ヲ考察スルトキハ現今本邦ニ於ケル林地ハ數ニ於テハ多大ナリト雖モ拓テ農耕牧畜ノ用ニ供スヘキ餘地ヲ存セサルハシ否多少ノ餘地アリトスルモ猶ホ且ツ本邦ニ於ケル森林ノ大ニシテ林地ノ廣キハ免レサル所ニシテ是殆ント天分ニ出テ所謂固有林地ニ屬スルモノト稱シテ不可ナキヲ信スルナリ矧ンヤ本邦ニ於ケル森林帶ハ暖帶ヨリ寒帶ニ至ルマテ蜿蜒トシテ長ク亘レルノミナラス高サノ位置ニ於テモ著シキ差別アルヲ以テ樹木ノ種類甚タ多ク林業上所謂主林木ト稱スルモノ、ミニシテ少クトモ五十種ヲ下ラス若シ更ニ有用ナル副林木ノ種類ヲ加フレハ幾ント二百有餘種ニ垂ントシ且大氣ノ湿度ト濕氣トハ植物ノ生育上ニ頗ル良好ノ關係ヲ有シ樹木ノ生長力亦甚ダ強盛ナルニ由リ本邦森林ナルモノ、富源ヤ實

ニ測ルヘカラサルモノアルニ於テオヤ是ニ依テ之ヲ觀レハ本邦ハ寔ニ天與ノ森林國タルコトハ何人モ之ヲ否認スルコト能ハサル所ニシテ林業ノ振興策ヲ講究スルハ單ニ専門家ノ責務ニ止ラスシテ寧ロ國民ノ全體ニ關スル責任ト云ハサルヲ得サルナリ

此ヲ以テ古來我國ニ於ケル森林養護上ノ事蹟ニハ大ニ見ルヘキモノ少ナカラス是素ヨリ近今ニ於ケル學理ヲ應用シタル如キハ絶テ之ナシト雖モ其森林ヲ愛惜保護シタルコトハ國民性格上ノ一美風トシテ恪守シタルモノ、如シ其中古以前ノ古キヲ温ヌルヲ要セス近キ幕政ノ當時ニ在テモ各藩ニ於テ皆之カ制令ト獎勵トヲ併セ行ヒ往々ニシテ一枝ヲ斫ルモノ一指ヲ斫ルヘシト云ヘルカ如キ苛法重刑ニ出テタルモノナキニアラスト雖モ又或ハ土風民情愷切ニシテ趣味アル法度ノ下ニ能ク其養護ノ實ヲ舉ケタルモノ少ナシトセサリシ所ナリ然レニ維新ノ前後百事其慣習ノ更革ニ際シ森林ノ事亦一時世ノ注目ヲ缺キ之カ爲メ所謂濫伐漫採ノ事頓ニ行ハレ殖養護ノ業漸ク弛廢セントスルニ至リシカ幸ニシテ未タ其甚シキニ至ラスシテ森林存續ノ必要ヲ唱導スルモノ輩出シ今ヤ林業ハ産業界ノ表面ニ立ントスルノ氣運ニ達スルヲ得タリ然レトモ現下民間ニ於ケル林業ノ狀況ヲ察スルニ甚タ懽焉タラサルモノ少ナシト殊ニ本邦人ノ習癖トシテ一時ノ熱中ニ豫後ノ考案ニ遑アラサルカ如キヲ多シトス如此ハ將來林業上誤ル所ナキヲ必スヘカラス聊カ林業ノ性質ト我林業ノ現状トヲ畧述シテ當業者及當局者ノ留意ヲ請ハント欲ス

林業モ亦他ノ生産業ト同シク最少費最多獲ノ原則ニ據ルヘキハ言ヲ俟タスト雖モ其間多少

趣ヲ異ニスルノ點少カラスト即チ一林業ハ天然力ヲ資スルコト甚タ多シ二林業ハ長期作業ニシテ其收穫時期ハ永年ノ後ニ來ルモノトス三存在スル森林材量即チ蓄積ハ資本ニシテ收穫ハ其利息ノ性質ヲ有ス四收穫即チ伐木ハ次期ノ殖養ニ當ル作業トナルモノトス是等ノ諸點ハ林業ノ特性トモ稱スヘキモノニシテ他ノ産業ニ比シ截然區別シ得ヘキ所ナリトス且ツ森林ハ其收穫セル產物ヲ世ニ供用スヘキモノナルノミナラス兼テ又其存在ニ依テ國土ノ保安水源ノ涵養氣候ノ調和等ニ資スヘキコト前キニ説述セルカ如キモノナルカ故常ニ收穫ノ計上ニ於テ多大ニ又每收穫ノ均一ヲ計ラサルヘカラスナルノ外現存森林即チ林相モ亦常ニ適當ニシテ均衡ヲ保ツヲ要セサルヘカラス此ニ於テカ林業ノ事益々複雑ニシテ愈々其精覈ナランコトヲ要シ決シテ其疎漫姑息ヲ以テ能クスヘキニアラサルナリ必スヤ收穫ノ整定、更新ノ順序及其方法ニ於テ適切ナルヲ期セサルヘカラスナルリ故ニ林業ノ原則トシテ其管理及施業ノ上ニ於テ規畫ノ適當ナルヲ要件トシ其面積多大ナルモノハ適宜之ヲ區劃シ數箇ノ業區ヲ作り狭小ナルモノハ併合シテ連合ノ作業ヲナサ、ルヘカラスナルナリ爰ヲ以テ森林區劃ノコトハ施業ノ先決問題ニシテ彼ノ組合林業ノ如キモノ、必要モ亦此理ニ基クニ外ナラス以上ハ林業ノ特性ト施業ノ要領ニ就テ畧述セシニ過キスト雖モ此原理ヲ離レテハ所謂保續的ノ合理ナル林業ハ之ヲ營ムコト能ハサルナリ然リト雖モ是一朝ニシテ其完備ヲ望ムヘキニアラス之カ普及方法順序等如何ノ問題ハ即チ識者ノ常ニ最モ憂慮ニ堪ヘストナス所ナ

本邦現在ノ林業界ニ於ケル狀況ヲ見ルニ實ハ是等ニ關スル進境若シクハ成績ノ見ルヘキモノナキノミナラス稍々其開發ノ緒ニ就ケリト稱スル植伐ノ如キモ漸ク其真相ヲ細觀スルトキハ多クハ唯區々タル脚下ノ小利ニ拘泥スルモノニシテ幾ント其國利ノ發展國產ノ増殖トシテ見ルヘキモノ、如キハ寥トシテ晨星モ當ナラサルナリ現ニ利用セラレツ、アリト云ヘル森林ノ如キモ伐採法ニ更新ノ理想ナク收穫ニ保續ノ主義ナク只伐木運搬ヲ以テ事業トナスニ過キス又造林ニ好成绩ヲ呈シタリト稱スル森林ノ如キモ多クハ植ユルニ計畫ナク伐ルニ保續ノ豫定ナク只一時ノ風潮ニ動かサレテ植栽シタルモノ甚タシキハ其新植ノ稚林ヲ賣却スルヲ目的トスルモノアリテ殆ント經理ヲ基礎トシ保護ヲ旨トシタル眞ノ林業ナルモノハ殆ント之ヲ見ルコトヲ得サルナリ其未タ利用ノ途ニ就カサル所謂原生林ノ如キ到處甚タ廣大ナルモノヲ存有スルニ拘ハラス之ヲ利用スルニ其業ノ稍々容易ナラサルニ辟易シテ亦顧ミルモノナク又造林ニ於ケルモ林地トシテ荒廢不毛ニ歸セルモノ若シクハ徒ラニ荆棘蔓草ノ叢生ニ委シタル所謂未立本地ノ如キ又ハ野火盜採ノ爲メニ其發育ヲ戕害セラル、所謂荒廢林野ノ到處村里附近ニ甚タ多キニモ拘ハラス亦其事業稍々困難ナルヲ以テ之カ恢復造林ヲ圖ルモノ少ナキノミナラス今尙ホ火入ノ惡習ヲ改ムルコト能ハスシテ恬トシテ其弊ヲ知ラサルモノ比々皆然リトス如此ハ果シテ本邦ノ如キ木材林産ヲ消費スルコトノ最モ多キ國ノ光景トシテ晏然坐視スヘキモノナルカ抑々又本邦ノ如キ森林ニ富ミ良材ニ富メル國ニ於テ茫然傍觀スヘキノモノナルヘキヤ思フテ茲ニ至レハ本邦林業改善ノコトハ亦難事ト云

ハサルヘカラス當事者ノ須ラク此ニ猛省留意センコトヲ要ス然リト雖モ今回ノ出品ニ就テ今其著シキモノヲ舉クレハ一管理上ニ將タ施業上ニ漸ク其績ノ見ルヘキアリ又其方策ノ稍々可ニ近キモノ數點アリ二人造林ニ就テモ其好績ヲ効セルモノ亦數點アリ三利用上ニ於ケルモ漸ク海外輸出品トシテ或ハ其額ヲ増進シ或ハ其販路ヲ擴張セルモノアリ又彼ノ深山ニ於ケル好良材ニシテ會テ未タ利用セラレサリモノヲ爰ニ採造産出スルニ至リシモノアリ四林産製造加工木材副産物利用等亦漸ク舊態ヲ脱シ新機創始ニ屬スルモノ、出品若干點アリ其品質ニ於テ事蹟ニ於テ優賞ヲ博セルモノ尠ナカラサリシハ稍々人意ヲ強フスルニ足ルモノナキニアラスト雖モ翻テ少シク其内容ヲ查察スルトキハ一其管理若シクハ施業ノ稍々見ルヘキモノアリト云フモ要スルニ只時流ノ輕浮ナルニ似スシテ二十餘年間孜々トシテ勵精シ能ク數萬圓ノ資ヲ投シテ漸ク其績ノ見ルヘキモノアリト云フカ如キ若シクハ施業ノ要素タル調査又ハ獎勵ニ著手シ或ハ造林普及ノ端緒トシテ育苗事業ヲ勵行セリト云ヘルカ如キノ類ニシテ其最モ優賞ニ値ヒセシモノ、如キモ父祖以來綿々トシテ斯業ニ從事シ其規模ト熱誠トニ於テ大ニ他ニ卓絶セルモノアリト云フニ過キサ

ルナリ二人造林ニ於ケル利用上ノ成績ノ如キモ可ハ即チ可ナリ然レトモ是亦古來因習ノ仕立法ニ精熟ヲ加ヘタルニ過キス其方法ニ於テ將タ其産材ノ利用ニ於テ特ニ著シキ進歩ノ蹟アルニアラス依然トシテ磨キ丸太材ナリ柱材ナリ椀材ナリ桶材ナリト云フカ如キニ過キス三若シ夫レ新ニ利用ノ途ニ就キシモノ四更ニ加工材トシテ表ハレシモノ若シクハ販路産額

栗	七、七八〇	○	草木	三、七五四
銀	四、〇一四		苗	
吳	一、四七四		根	
山	一、〇七八			
棧	八九七			
桂	一四二			
鹿	七、七二四、〇四七			
計				一九、六七九、七七九

此ノ如ク近來大ニ其輸出額ヲ増進シ又其種類ニ於テモ多少ハ増加セリト雖モ若シ夫レ純然タル林産物トシテハ表中寔ニ算フルニ足ラサルナリ是果シテ邦土ノ三分ノ二以上ヲ占有スル帝國森林ノ産物輸出額トシテ差色ナキヲ得ヘキカ加之林産物中種々ノ製品トナシ將タ原料ノ儘ヲ以テ海外ヘ輸出シ得ヘキモノ甚タ少ナカラス而カモ其販路ヲ開發スヘキ範圍ハ殆ント無限ナルカ上ニ其原料材質ハ反テ彼ノ我ニ劣レルニモ拘ハラズ製紙ノ如キ製紙原料ノ如キ塞子ノ如キ其他種々ノ木製品ニ至ル迄之ヲ歐米ノ輸入ニ仰クモノ甚タ少ナカラサルハ慨歎ニ堪ヘサル所ナリ現ニ今回參考館出品中是等ノ出品并ニ鋸器械、燐寸製造器械、經木製造器械等ヲ見テ其事業ノ宏大ナルト進歩ノ著大ナルヲ想思シ彼國林業ノ今日アルハ偶然ニアラサルヲ知了セリ

嗚呼林業ノ振興ハ寔ニ刻下ノ急要ナルコトハ恐クハ何人モ之ニ異議ヲ容ル、ノ餘地ナキヲ信ス而シテ之カ振作ヲ期スル上ニ於テ亦他ノ産業ト等シク先ツ其學識ノ普及、學理ノ應用、技

術ノ熟練等ヲ必要トシ是ト同時ニ事業ノ著實ナルト熱誠ナルコトヲ貴フニアリ故ニ今日ノ要ハ林業當事者ハ官トナク將タ民トナク森林教育就中實業家及勞力者ノ養成及其技術ノ熟練ヲ努メ一面ニハ悠久確的ノ計畫ニ據リ著實ト熱誠トヲ以テ之ヲ遂行スルニ在リ希クハ當事者ノ最モ爰ニ留意シテ發奮盡瘁センコトヲ切望ニ堪ヘサルナリ

猶ホ終ニ臨ンテ林産物價格ノ點ニ於テ一言セサルヘカラサルコトアリ他ナシ由來林産物モ亦他ノ産物ト等シク其價格低廉ニシテ需要ニ容易ナラシムルハ其用途ノ發達及販路ノ擴張上極メテ緊要ナルハ言フ俟タサル所ニシテ就中製作品原料ノ如キ他ニ之ニ代用シ得ヘキモノアル場合等ニ於テハ極メテ其價格ノ低廉ナルニアラサルヨリハ得テ其優勝ヲ期シ難ク殊ニ輸出品ノ如キニ於テハ大ニ此點ニ就テ反省ヲ要スヘキナリ要スルニ或ル一種ノ特用品ニアラサル限リ又或ル專賣品ノ如キニアラサル限リハ苟モ之カ競争品アル以上ハ又其競争者アル以上ハ價格ハ常ニ其低廉ナルコトヲ以テ販路擴張上ノ第一要義トナサ、ルヘカラサルナリ

然レトモ木材ノ如キハ其價格ニ就テ特ニ一種ノ複雑ナル性質ヲ有スルモノニシテ其著シキ點ヲ掲クレハ一木材市價ニ於ケル其十分ノ六七乃至八九マテハ多クハ其伐採費及運搬費并ニ其他ノ費途ニ捧クルモノニシテ僅ニ其十分ノ一二乃至三四ヲ以テ木材其物ノ原價トスル所ナリ歐洲諸邦ノ如キニ於テモ亦此例ニ漏レサルモノ甚タ多シ即チ木材ノ山元價ナルモノハ極メテ低廉ニシテ且其高低スヘキ範圍ハ亦極メテ狹隘ナルモノナリト認メサルヘカラサ

ルナリ二故ニ其市價ニ於テハ僅ニ一割ノ高低ニ依テ或ハ其原價ヲ皆無ニ歸セシメ或ハ全ク販路ヲ失フコトアリ然ルニ從來木材ノ産出ニ就テハ動モスレハ其原價ノ極メテ低廉ナルモノニアラサレハ之カ伐採ニ著手セサルナリ是事業者トシテ寔ニ止ムヲ得サル所ナルヘシト雖モ其既ニ低廉ニシテ高低範圍極メテ狭キ木材原價ニ向ツテ尙ホ其低カラントラ期スルハ林業經濟上ニ於テ耐ユヘキ所ナルヤ否詳言スレハ買受ントスル木材價カ森林收穫上ノ算法ニ適合スヘキモノタルヤ否ヤハ講究ヲ要スル點ナリ若シ森林收穫上ノ算法ニ合ハサル低價ナルニ於テハ到底合理的ノ林業ハ成立スヘキモノニアラサレハナリ尤モ森林更新ノ場合ノ如キ事業上ノ得策トシテ急速ニ伐リ出サントスルカ如キハ素ヨリ特殊ノ場合ニ屬シ又原生林ノ如キハ林價算法上ノ木材價ヲ知ルニ由ナシト雖モ然レトモ之ヲ無價視スルカ如キハ頗ル穩當ヲ缺クモノト云ハサルヘカラス之ヲ要スルニ市場ニ於ケル木材價格ノ大部分ハ伐木運搬造材其他ノ費用ヲ含ムモノナルヲ以テ是等費用節約ノ點ニ慎重ナル工夫ヲ凝ラスハ經濟ノ原則ニモ協ヒタル適當ノ方法ニシテ林業ノ發達ニモ將タ商業トシテ販路ノ擴張ニモ大ニ企圖セサルヘカラサルコトニシテ特ニ木材取引ノ營業者ノ反省ヲ促サントスル所ナリ又木材ノ如キハ既ニ其山元ニ於テ伐採造材シタル後ハ直ニ最早一ノ木材價ナルモノヲ有スルモノニシテ之ヨリ順次搬出中ニ於テ土場相場若クハ附近市場ノ價格港著價格若クハ大市場ニ於ケル所謂市價ナルモノ等種々ノ場合ニ於ケル價格ヲ有スルモノナリ且ツ木材ハ或ル複數ニ於テ始メテ其價格ヲ付スヘキモノアリ或ル複數トナシテ始メテ賣買ニ上ホシ得ヘキ

モノアリ故ニ若シ其單數ナルトキ若シクハ更ニ單數例ヘハ板一坪若シクハ桶一束ノ如シヲ割キタルモノニ於ケル價格ノ如キハ之ヲ以テ直チニ產物全體ノ標準價ト目スヘカラサルモノナリ然ルニ今回ノ出品中ニハ何レノ場所ニ於ケル價格ナルヤ或ハ僅少ニシテ市場ニ上ホシ得サル程ノ出品ニ對スル價格ヲ附シテ其特定價ナルヤ將タ單價ナルヤヲ知ルコトヲ得サルモノアリテ劇ニ其當否及比較ヲ斷シ得ヘカラサルモノ少ナカラストス評臨ニ當テ敢テ其價格ノ事ニ及ハサリシハ即チ之カ爲メナリト諒セラレシコトヲ望ム

以上林業全般ニ對シ并ニ其出品ニ就テ聊カ所感ヲ記述セル所以ナリ

官廳出品總評

官廳出品ハ其數實ニ一千餘點ノ多キニ達シ之ヲ前回ニ於テ森林ニ關スル官廳出品カ僅カニ二三地方廳ヨリ數點ヲ出品セシニ過キサリシニ比スレハ眞ニ霄壤モ霄ナラサル大差ナルノミナラス更ニ之ヲ今回ノ出品總數ニ比シ實ニ其十分一弱ノ多數ヲ占ムルモノニシテ數ニ於テ既ニ是カ當部出品ノ一大要素タルヲ失ハサルト共ニ亦其出品種類カ洽ク林業ノ各般ニ關聯シテ幾ント遺ス所アラサルカ故當部ノ出品中優ニ其貢獻スル所ノ大ナルモノアルヲ信セサル可カラサルナリ

今回ノ官廳出品ニハ其意義上自カラ二箇ノ區別アルコトヲ視認セサルヘカラス一ハ即一般森林ニ關スル管理者トシテノ出品ニシテ他ハ或ル森林ノ經理施設等總テニ關スル當事者トシテノ出品之ナリ前者ハ農商務省山林局及同省農務局并ニ地方廳ノ出品ニ多ク後者ハ宮内

省御料局同省内匠寮及各大林區署ノ出品ニ於テ其大部ハ幾ント皆是ナリ故ニ一ハ主トシテ
 斯業上ニ對スル廣キ意義ノ試驗成績統計圖畫材鑑其他ノ標本類等ニアリテ管理應トシテ如
 何ニ其用意ノ存スルモノアルカヲ知ルヘク他ハ國有林若シクハ御料林ニ關スル經理施設ノ
 如何造林保護利用ノ實績及所産ノ實物等ヲ出品シテ廣ク之ヲ紹介シ其間自カラ佳否優劣ノ
 比較ニ俟テ益々改善進歩ヲ企圖スヘキノ點ニ於テハ之ヲ一般ノ出品者ニ比シ其趣旨敢テ逕
 庭ナキコトヲ知ラサル可カラサルナリ故ニ國有林及御料林ナルモノハ山來必スシモ一般森
 林ノ模範トシテ設定セラレタルモノニアラサルハ言フ俟タサルト同時ニ其出品カ亦必ラス
 シモ一般林業ノ模範ノ趣旨ニ出タルモノニアラサルコトハ諒トセサルヘカラスト雖モ國有
 林及御料林ハ其面積數百萬町步ニ涉リ其所在全國ニ普ク其林相亦實ニ本邦森林ノ精髓ヲ占
 ムル所ナリト謂フヘキカ故之カ經理施設ノ如何植伐作業ノ進歩及産物ノ品質如何等ハ直チ
 ニ一般林業者ノ教訓的ノ參考品トシテ目セラル、コトヲ拒ムヘカラサルナリ此點ニ據リテ
 之ヲ論スルトキハ今回ノ官廳出品カ負フ所ノ責務ヤ實ニ廣大ニシテ豈管ニ一千餘點ノ多數
 ヲ以テ足レリトセンヤ其出品上尙ホ未タ幾多ノ不備缺漏アルヲ憾マスンハアラサルナリ然
 レトモ幸ニシテ茲ニ彼ノ施業按ニ關スル出品アリテ本部出品上ニ異彩ヲ放ツヲ得タルハ太
 タ多トスヘキ所ナリ

抑適切ナル森林經理上ノ施業按ナルモノヲ編成スルコトハ最モ緊急ナル要務トナサ、ルヘ
 カラスト然ルニ本邦ニ於ケル森林學ノ開始年未タ久シカラス技術上ノ習熟其他諸般ハ機關備

具スルノ邊アラサリシヲ以テ此緊急ナル要務モ亦其開始ニ至ルヲ得サリシナリ然ルニ數年
 前ニ於テ初メテ御料林ニ向テ施業按編成ノ著手ヲ見國有林ニ於テモ亦特別經營ノ實施ト共
 ニ施業按編成ノ業著々其歩ヲ進メ漸ク其功果ノ見ルヘキモノアルニ至リシハ實ニ斯業上顯
 著ナル一大進歩ニシテ即チ今回其之ニ關スル出品數點ヲ見ルニ至リタルハ蓋シ前回博覽會
 ニ其例アラサルヤ言フ迄モナク當部出品中無比ノ新現象ナリト云ハサル可カラサルナリ後
 段ニ於テ更ニ之ヲ詳説スル所アルヘシト雖モ茲ニ先ツ其注意ヲ要スル所以ヲ畧説スルモノ
 ナリ

其他化學的林産製品ノ如キ是又今回出品中特ニ注視ヲ要スヘキモノニシテ製紙原料タル木
 纖維藥料單仁及油染料并ニ繩類ノ五種類ニ就テ其原料木トシテ從來本邦ニ於テ利用セラル
 、所ノモノハ勿論近頃歐羅巴諸州ニ於テ資用セラル、樹種并ニ新タニ實驗上其之ニ適當ナ
 リト認メラル、モノ數十種ノ出品ハ斯業上極メテ有益ナルモノトナサ、ルヘカラサルナリ
 然レトモ憾ムラクハ是一種ノ試驗的製品ニシテ即チ一ノ標本出品ニ過キサカ故ニ之カ事
 業トシテ果シテ如何ナル組織規模ヲ要スヘキヤ及收支勘定ノ如何等ハ窺フコトヲ得サルナ
 リ

標本圖畫統計模型等ノ出品ハ最モ多數ニシテ有益ナルモノ亦甚タ少ナカラスト雖モ各區
 タニシテ表示ニ深淺疎密アリ故ヲ以テ之カ通觀ニ便ナラス國有林御料林ノ如キニ於ケルモ
 其狀態至極ヲ知悉スルノ料ヲ缺キタルト是等諸調査ノ未タ完備ノ域ニ達セサルトハ斯業進

歩ノ程度未タ高カラサルモノアルヲ證シテ甚タ遺憾トナサ、ルヘカラスル所ナリ
 木材ハ御料林國有林ニ於ケル主要ナルモノハ幾ント之ヲ網羅シテ遺サス即チ亦本邦ニ於ケ
 ル木材供給上最モ大ナル勢力ヲ有スルモノハ盡ク之ヲ見ルヲ得タルハ實ニ空前ノ壯觀ニシ
 テ斯業者無比ノ好參考材料タリトナサ、ルヘカラス然レトモ是等木材ノ出品ハ其解説ニ依
 ルトキハ主トシテ材質ノ如何及用途ノ一斑ヲ示シ併セテ其蓄積并ニ年伐量等ヲ紹介シテ利
 用上ノ促進ニ資スル所アラシメントスルニ在ルカ故其材様ノ如キハ必スシモ常ニ此ノ如ク
 シテ産材セラル、處ナリト云ヘル趣旨ニハアラス更ラニ詳言スレハ御料林國有林ノ如キニ
 在テハ多クハ立木ノ儘ヲ以テ賣拂フヲ常トシ偶々伐採事業ヲ直營スルコトアリト雖モ普通
 粗大ノ材様ヲ以テ賣拂フニ止マリ未タ曾テ製材加工材ヲ以テ供給スルカ如キハ之アラサル
 ナリ故ニ官廳出品木材ニ對シテハ材様ノ巧拙良否等ハ深ク稽査スヘキ所ニアラストナサ、
 ルヘカラス又其材質ノ如キモ唯一端ヲ示スニ過キスシテ敢テ全斑ニ於ケル標準品質ヲ掲ケ
 タルニアラサルカ故是又須ラク觀者ノ誤解ヲ防カサルナリ之ヲ要スルニ出品上若シクハ陳
 列上ニ於テ寔ニ已ムヲ得サル種々ノ事由ニ因ルモノナルヘシト雖モ其出品ノ性質趣旨ニ於
 テ錯雜混交ヲ免レス或ハ明割判別ヲ缺キタルモノ等アリテ一見其要ヲ領シ難キ恐レアルハ
 宜シク當局者ノ猛省熟慮ヲ要スヘキ處ナリトス

出品ノ主旨及陳列ノ方法

前回ニ於テ林業ニ關スル出品カ大ニ其主旨ヲ誤リタルハ出品人カ博覽會開設ノ主旨ヲ了解

セサルニ由ルナラントシ審査報告ニ於テ切ニ之ヲ戒告スル所アリシカ今回ハ從來ノ弊ヲ一
 洗シ大ニ面目ヲ改メタルハ賀スヘキコトナリ然レトモ尙ホ仔細ニ觀察スルトキハ未タ出品
 主旨ノ何レニアルカヲ知ルニ苦ムカ如キモノナキニアラス又陳列ノ方法ニ於テ改善ヲ圖ル
 ノ餘地アルヲ信ス今聊カ將來ニ對スル希望ヲ列絮シテ當局者及出品人ノ參考ニ資セントス
 一商品トシテ或ハ販路ヲ擴張シ或ハ新タニ需要ヲ招致スルノ目的ヲ以テ出品スルモノハ努
 メテ其產品ノ標準タルヘキ品質ノ物及之ニ適當ノ數量ヲ出品スルヲ要ス
 二前項ノ出品ニハ各品種毎ニ價格ヲ表示スルハ勿論ニシテ其價格ハ何レノ土地ノ相場ナル
 カヲ明ラカニスルヲ要シ若シ多數ノ出品ヲナス者ハ價格表ヲ調査シ印刷シテ希望者ニ之
 ヲ交附スルカ如キハ最モ望ム所ナリ
 海外輸出品ニ係ルモノ又ハ將來輸出ノ望ミアルモノハ價格表ニハ英譯文ヲ附スル如キハ
 更ニ佳ナリ
 三前項ノ出品ハ結束荷造ノ如キ將タ商號記號ノ如キ努メテ出品ト共ニ表示スルコトニ注意
 スルヲ要ス
 四前項ノ出品ハ各產物ヲ通シ且種類品等ヲ網羅シテ遺漏ナカラシムルヲ希望スルカ故ニ將
 來ニ於テハ可成各地方ニ於テ狀況同一ナル範圍ニテ組合又ハ團體ニテ出品セシムルヲ可
 トス是徒ラニ陳列場ヲ狹隘ナラシムルカ如キ弊ヲ避クルノミナラス出品ノ撰擇ニ注意ス
 ルヲ以テ畢竟出品人ノ爲メニモ利益アレハナリ

五新タナル効用ヲ示シ廣ク用途ヲ求メントスルカ如キ目的ノ出品ナルトキハ出品材ニ其加工品ヲモ添ヘテ公衆ヲシテ一目瞭然ニ用途及加工上ノ價值ヲ知ラシムルノ工夫ヲ爲スベシ

例之ヘハ参考館出品ノ木材ニハ多クハ「ワニス」ヲ塗布シタルモノヲ添附シ又加奈太館ニハ製紙原料ノ木材ヲ出品シ其加工ノ順序ヲ系統的ニ表示シタル如キハ好例ナリ

六模型寫真圖畫其他ノ標本類ニハ特ニ平易ナル文章ノ説明ヲ表示シ公衆ヲシテ觀覽ノ間ニ知ラス識ラス知識ヲ得セシムルノ工夫ヲ爲スヘシ今回ハ概シテ説明ヲ缺キタルモノ多ク又説明書ヲ表示シタルモノト雖モ平易通俗ナラサルモノアリタリ

七陳列臺若シクハ飾戸棚ノ如キハ林業ニ關スル出品物ニ對シテハ努メテ之ニ適スヘキ形狀ニ製作セサルヘカラス今回ハ他ノ工業品若シクハ農業品ニ於ケルモノニ模擬シテ纒カニ陳列ヲ了シタルノ觀アリ蓋シ林業ニ於テハ從來餘リ經驗ナカリシカ爲メニシテ深ク尤ムヘキニアラスト雖モ將來ニ於テハ此點ニ於テ大ニ意匠ヲ凝ラシ林業ノ特質ヲ表スルニ足ル出品用具ヲ案出センコトヲ望ム

八徒ラニ珍材奇木ヲ出品シテ其稀有ニ誇ラントスルカ如キ或ハ漫リニ低廉ナル價格ヲ表示シテ人目ヲ惹カントスルカ如キ弊ハ從來ヨリ屢々當局者ノ警告ス所ナルニ拘ハラヌ今回本部ニ於ケル出品中未タ全ク其跡ヲ絶ツニ至ラサルハ慨嘆ニ耐ヘサル所ナリ希クハ當局者及出品人ノ深ク此點ニ留意シ次回ニハ斯ノ如キ出品ノ形影ヲモ見ルコト能ハサルニ至

ラシコトヲ

審査ノ經過

三月二日各審査官始メテ會合シ引續キ三月四日迄一般出品ニ對スル審査ノ分掌分擔及審査上一定ノ方針又ハ手續上ニ就キ順次協議セリ

官廳出品ニ對シテハ三月四日ヨリ其調査ニ著手シ同七日マテ之ニ從事シ大畧調了ノ上審査官一同出發任地ニ歸著セリ

一般出品ニ對スル審査ハ杉、扁柏、松材、木炭ノ類ハ最先三月七日ニ著手シ其他ハ同月十一日乃至二十五日ニ著手シ五月二十二日ヲ以テ全部完済セリ而シテ其結了ノ最モ早キモノハ三月二十九日ニシテ皮毛羽角牙ノ類トシ最終ノモノハ藥料、皮、菌、菌等ナリトス

寫等澱粉、食料用樹實、染料、樹皮、生漆ハ第一部、第三部若シクハ第五部ト共同審査シ漆液ハ大阪高等工業學校分析室ニ於テ分析試驗ヲナセリ然シテ之ニ要スル器械器具類ハ悉ク同校設備ノモノヲ充用シ本會ニ於テハ僅カニ二三點ノ消耗品ヲ購入セシニ止マレリ

木炭ノ審査ハ其一片ハ燃燒シ一片ハ之ヲ粉碎シ分析試驗ヲナシタルモノニシテ其分析ハ東京帝國農科大學ニ於テ同校設備ノ器械器具類ヲ充用試驗ヲナセリ又粉碎ニ要セシ器具類ハ大畧左ノ如シ

炭切鋸

十二挺

茶臼

二箇

鐵乳鉢 三箇
 グラム秤 二箇
 玻璃製グラム樹 十箇
 篩 二箇
 金盞 二箇

審査上實地臨檢ヲナセシモノ左ノ如シ

兵庫縣 燐寸軸木經木
 東京府 銃砲及獵具
 大阪府 同
 神奈川縣 同
 愛知縣 コルク塞子
 岐阜縣 同

左ノ各類ニ就テハ概テ現品ヲ一定ノ審査室ニ搬入セシメ其他多クハ陳列現場ニ就テ審査セリ

九類 其三四五六
 十類 其三
 十一類 其一二三四

審査ハ主任審査官ト列座審査官ト同時ニ之ヲナシ各自採點スルノ方針トナセトモ各審査官ノ分擔ハ各分掌ニ跨リ多キハ二十分掌少ナキモ四分掌ナルヲ各分掌一時ニ審査シ得ヘカラスアルニヨリ關係者間協議シ其緩急ニ應ジ之ヲ數回ニ區別シ各官一齊ニ審査ヲナセリ

出品目錄ニ記載ナキモノト雖モ現ニ出品アルモノハ之ヲ審査シ若シ解説書ノ提出洩レトナリタルモノハ期日ヲ定メ更ニ之ヲ提出セシメ苟モ出品人ヲシテ遺憾ナカラシメンコトヲ期セリ

分科表

科	物	名	部	類	出品點數	審査ノ方法	審査官人員	審査補助人員
第一	杉	材	第九類	其一	四五五	肉眼鑑定及寸間檢知	審査官四人	審査補助三人
第二	扁柏	材	同	同	一六五	肉眼鑑定	審査官四人	審査補助二人
第三	竹	材	同	同	四一五	肉眼鑑定及實地臨檢	審査官四人	審査補助三人
第四	其他ノ材	材	同	同	四八九	肉眼鑑定	審査官四人	審査補助三人
第五	燐寸軸木及經木	材	第九類	其二	一九五	同上及實地臨檢	審査官四人	審査補助四人
第六	其他ノ加工木材	材	同	同	六一九	肉眼鑑定	審査官四人	審査補助二人
第七	皮	蔓	第九類	其三	四九八	同上	審査官四人	審査補助四人
第八	染料、塗料其他工業用原料	料	同	同	四二七	肉眼鑑定若シクハ檢定及實地臨檢分析嗅味試驗	審査官九人	審査補助六人
第九	菌、蘗其他食料	料	第九類	其四	一五五九	肉眼鑑定若シクハ嗅味試驗	審査官八人	審査補助三人
第十	藥	料	同	同	八九	肉眼鑑定若シクハ嗅味試驗	審査官五人	審査補助二人
第十一	炭、灰其他林産製品	品	第九類	其五	一、二二三	肉眼鑑定并ニ分析及使用檢	審査官四人	審査補助六人

第二部 林業總説

第十二	皮、毛、羽、角、牙	第九類其六	一一八	肉	鑑定	審査官四人	審査補助二人
第十三	杉、扁柏、種、種子	第九類其七	四八九	肉 <small>肉眼鑑定若シクハ眼鏡検査及秤量試験</small>	鑑定	審査官四人	審査補助三人
第十四	其他ノ苗、種子	同	三〇四	同	上	審査官四人	審査補助三人
第十五	動物ノ標本及圖書	第九類其八	二二五	肉	鑑定	審査官四人	審査補助三人
第十六	植物ノ標本及圖書	同	二二三	同	上	審査官四人	審査補助二人
第十七	森林ノ有害及有益動物并ニ被食ノ状態ノ標本及圖書	第九類其九	同	同	上	審査官四人	審査補助三人
第十八	森林ノ有害及有益植物并ニ被害ノ状態ノ標本及圖書	同	同	同	上	審査官四人	審査補助二人
第十九	技術ニ關スル事	第十類其一	一一〇	考	鑑定	審査官四人	審査補助二人
第二十	管理ニ關スル事	同	四六	同	上	審査官四人	審査補助三人
第二十一	造	第十類其二	二二三	同	上	審査官四人	審査補助二人
第二十二	人為ノ害	同	〇	〇	上	審査官四人	審査補助二人
第二十三	動物ノ害	同	〇	〇	上	審査官四人	審査補助二人
第二十四	其他ノ害	同	二	同	上	審査官四人	審査補助二人
第二十五	伐木及造林	第十類其三	三	考	鑑定	審査官四人	審査補助二人
第二十六	運	同	九	同	上	審査官四人	審査補助二人
第二十七	林産製造	同	六	同	上	審査官四人	審査補助二人
第二十八	竹林産、造林保護及利用ノ方法	第十類其四	一	同	上	審査官四人	審査補助二人
第二十九	森林植伐及運搬等ノ器具	第十一類其一	六三四	肉眼并ニ考査鑑定	鑑定	審査官四人	審査補助二人
第三十	林産製造器具	第十一類其二	一五	同	上	審査官四人	審査補助二人
第三十一	測量ノ器具附測量ノ器機符號及有害動物驅除捕獲器具	第十一類其三	二	同	上	審査官四人	審査補助二人
第三十二	同	第十一類其四	二六七	同上及實地臨檢	上	審査官五人	審査補助二人

三三

八、三〇一

一五人

七人

二五人

四人

四人

備考 表中ノ出品點數ハ凡ソ審査ヲナシタル實數ニ據ル故ニ出品目錄若シクハ陳列點數トモ多少ノ差アルヘシ○表中ノ審査官審査補助等ハ各科互ニ兼ヌルモノアリ而シテ表末ノ合計ハ實際ノ人員ヲ示ス故ニ表中ト表末トハ其數同シカラス○第八中ノ漆液ハ第五部ト染料樹皮ハ第三部ト又第九中葛粉其他ハ澱粉及食料用樹實ハ第一部ト共同審査ヲナセリ

分擔表

部長 武井 守正 書記 大山 琢雄
 審査事務總括審査官 梶山 清利

第一	第二	物	名	審	査	官	審査補助、品評人、審査手傳
杉材	扁柏松材	川瀬善太郎	川瀬善太郎	磯山廣居	磯山廣居	同	審査補助 上村勝爾 同 宮崎辰之允 同 樺島 同 宮崎辰之允 同 樺島

第二部 林業總説

三三

第 三	第 四	第 五	第 六
竹材	其他ノ材	燐寸軸木及經木	其他ノ加工木竹材
同 審查囑託 相山清利 本多静六 白澤保美 三村鐘三郎 坪井伊助 長田大介	松波秀實 川瀬善太郎 江崎政忠 白澤保美	楢山清利 白澤保美 磯山廣居郎 三村鐘三郎	同 審查囑託 白澤保美 村澤重治 松波秀實 楢山清利 原田兵衛 吉岡三郎
審查補助 宮崎辰之允	同 審查補助 宮崎辰之允	同 審查補助 宮崎辰之允	同 審查補助 宮崎辰之允
品評人 宮崎辰之允	同 品評人 宮崎辰之允	同 品評人 宮崎辰之允	同 品評人 宮崎辰之允

第 七	第 八	第 九
皮 藁	第五部 (漆共同審査) 染料塗料其他工業用原料 第三部 (染料樹皮共同審査)	菌草類其他食料 第一部 (菌草類共同審査) 同 ()
同 審查囑託 江崎政忠 楢山清利 磯山廣居郎 三村鐘三郎	同 審查囑託 ○ 守屋物四郎 ○ 江崎政忠 ○ 白澤保美 ○ 三村鐘三郎 ○ 佐藤振五郎 ○ 吉田彦六郎 ○ 塚本道達郎 ○ 内村達太郎 ○ 岡村典瑞郎 ○ 岡本專助郎 ○ 福島辨次郎	同 審查補助 宮崎辰之允 同 品評人 宮崎辰之允
同 審查補助 宮崎辰之允	同 審查補助 宮崎辰之允	同 審查補助 宮崎辰之允
同 品評人 宮崎辰之允	同 品評人 宮崎辰之允	同 品評人 宮崎辰之允

第 七 十 二	第 八 十 二 第	第 九 十 二 第	第 十 三 第	第 一 十 三 第
林 産 製 造	竹林施業造林保護及利用ノ方法及成績	森林植伐及運搬等ノ器具	林 産 製 造 器 具	測 量 ノ 器 具 附 測 量 器 械
○ 守 屋 物 四 郎 白 澤 保 美 郎 佐 藤 振 五 郎	本 多 静 六 相 山 清 利 白 澤 保 美 郎 佐 藤 振 五 郎	磯 山 廣 居 本 田 静 六 白 澤 保 美 郎 持 田 軍 十 郎	○ 守 屋 物 四 郎 磯 山 廣 居 三 村 鍾 三 郎 持 田 軍 十 郎	持 田 軍 十 郎 三 村 鍾 三 郎 白 澤 保 美 郎 佐 藤 振 五 郎 持 田 軍 十 郎
同 審 査 補 助 植 樺 松 島 健 岬	同 審 査 補 助 宮 崎 辰 之 允 植 樺 松 島 健 岬	同 審 査 補 助 宮 崎 辰 之 允 植 樺 松 島 健 岬	同 審 査 補 助 宮 崎 辰 之 允 植 樺 松 島 健 岬	同 審 査 補 助 宮 崎 辰 之 允 植 樺 松 島 健 岬

二 十 三
狩獵及有害動物驅除捕獲器具
○ 宮 田 太 郎 佐 藤 振 五 郎 江 崎 政 忠 佐 々 木 忠 次 郎
同 同 植 樺 松 島 健 岬

報告員ハ各分掌主任審査官ヲ以テ之ニ充テ外ニ報告事務取扱トシテ左記七名ヲ專任セリ

審査補助
宮崎辰之允
樺島健岬
植松島健岬
西岡享
藤岡浪江
新柄三郎
竹波順之助

備考 表中人名ノ上ニ●ヲ附セルハ事故アリテ實際服務セサルモノ○ハ他部ヨリ兼務ノ人員ニ係ル

杉	木	栗	羅	栗	楸	ヒ	團	烟	柿	棒	下	紡	栗	竹	桐	下	筆	下	樽	樽	酒
木	木	漢	木	金					梅		下	績	屋			歌	歌	底	材	油	樽
羽	羽	柏	羽	松		扇	管		板		齒	用	根		齒	齒	板	電	樽	丸	及
材	材	材	材	材	木	竹	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	柱	丸	杉
材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	腕	及	杉
材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	木	材	材

第二部 林業總說

三九

柿	木	桐	檜	椴	曲	胡	屋	竹	木	張	屋	櫓	椴	茶	茶	樽	樽	酒	酒	燐	經
杉	丸	丸	板	板	桃	根	根	根	付	根	根	茶	茶	茶	茶	丸	丸	樽	樽	寸	經
板	太	太	及	及	銑	床	板	板	板	用	用	函	函	函	函	丸	樽	樽	箱	素	經
及	木	木	木	木	木	木	木	木	板	板	板	板	板	板	板	材	材	材	地	地	地
棟	履	履	履	履	輪	輪	輪	根	綿	材	材	材	材	材	材	丸	材	材	木	木	木
折	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材

其他ノ機械器具及製作用加工材

第二部 林業總說

三八

五	通	通	林	月	林	生	生	染料塗料其他工業用原料	紅	推	割	藤	檜	松	ア	シ	晒	葛	檜	木	板	苧
倍	草	草	投	桃	投	附	織	漆	露	皮	藤	肌			ベ	マ	空			通	葦	
子	草	紙	料	料	料	緯	子	漆	露	皮	藤	繩	繩	皮	皮	皮	皮	蔓	皮	蔓	繩	根

第二部 林業總說

二二

一三四

一二一一一八四

四二

一三九六五一一三二二三一一三一一二二

一三二二二二二五八五一一三二二三一一三一一二二

藤	炭	木	木	竹	コ	檜	兜	黄	榎	鳳	へ	白	ア	コ	杉	竹	皮	竹	胡	鉄	箴	醬
賊				ル	大	櫨	櫨	櫨	櫨	尾	ラ	竹	ア	コ	杉	竹	蔓					油
棕				製	製	樹	樹	樹	樹	蕉			樹	樹	樹	樹	樹	桃				櫨
蔓	繩	葉	賊	皮	品	皮	皮	皮	皮	葉	皮	皮	皮	子	皮	皮	網	材	柄	羽	材	材

第二部 林業總說

二四一二一一二三五 二五 三二一 五九

二四一二一一二三四六一三六一五三二 七

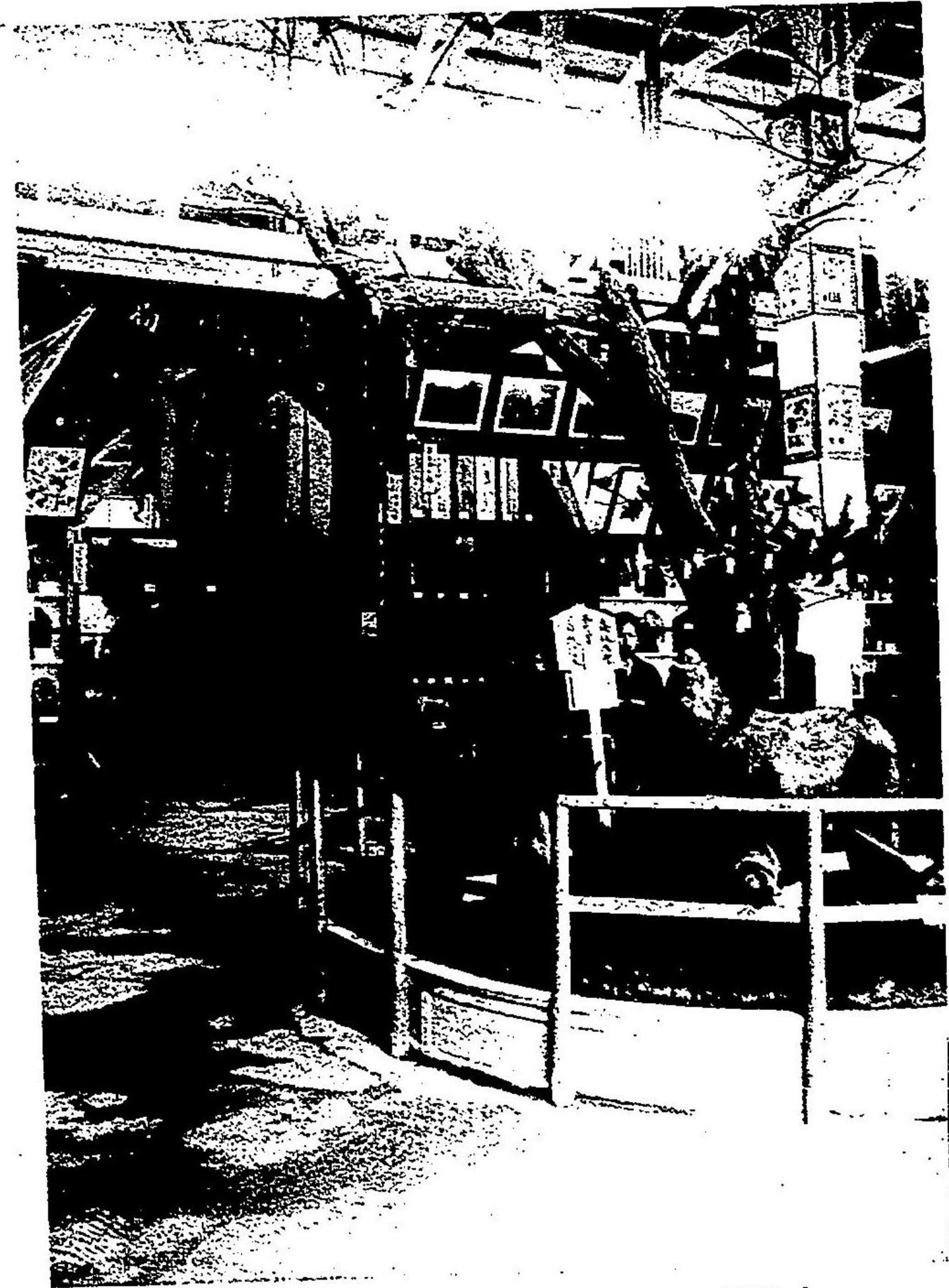
四〇



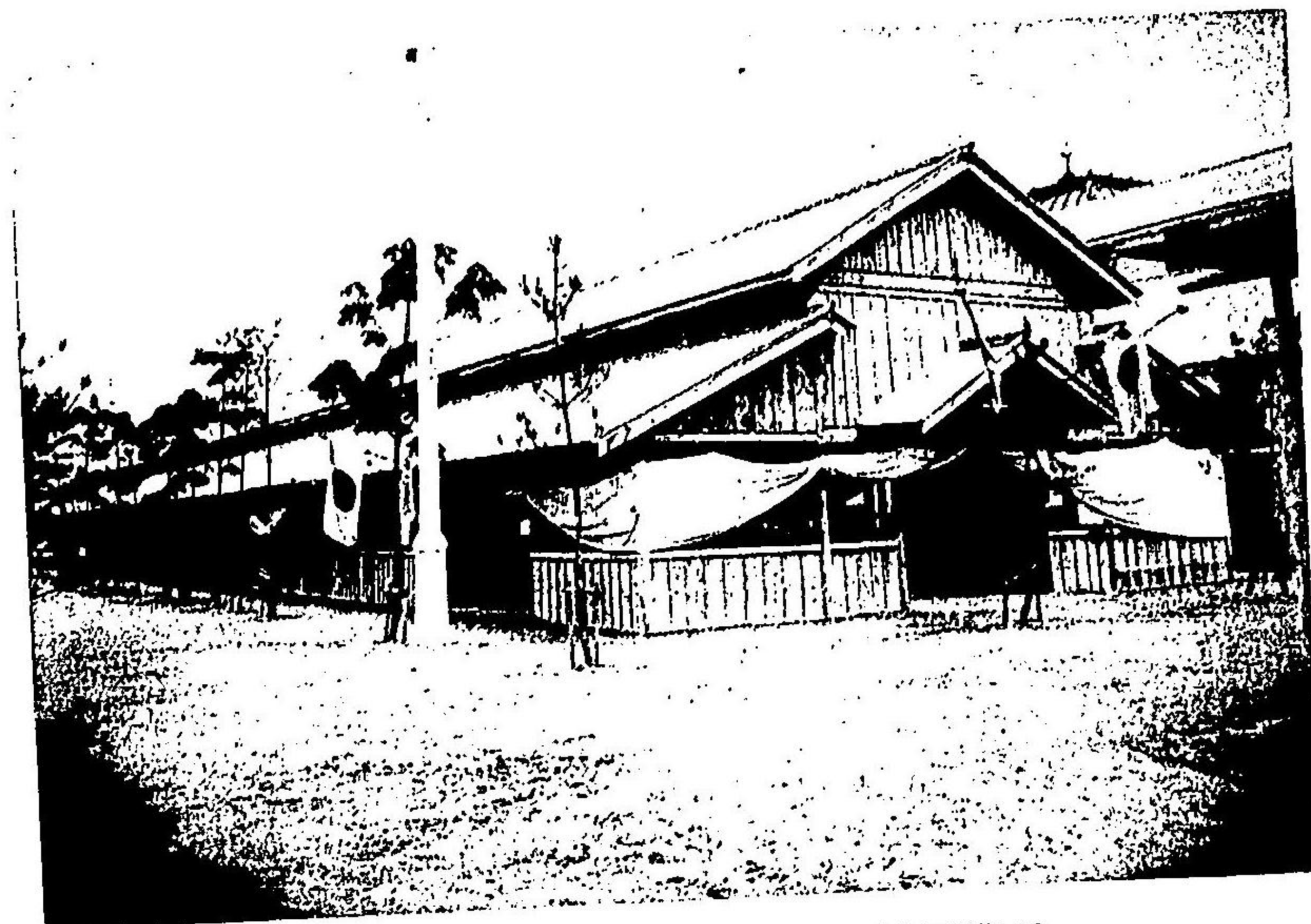
品出局料御 景光ノ屋家本標材木



大林区署出品陳列ノ景光



山林局出品陳列ノ景光(林業館正門内)



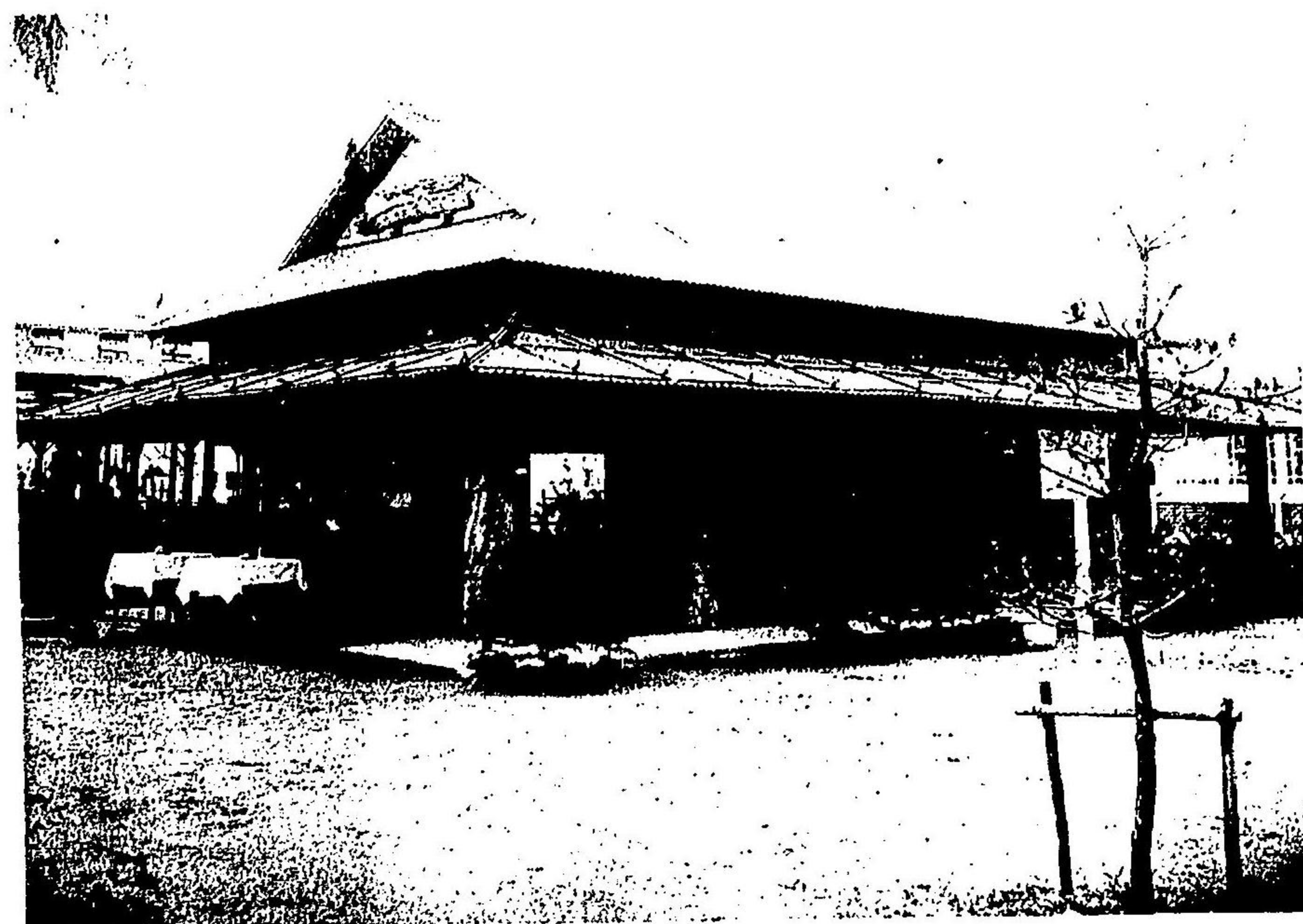
(設建會林山本日大)景光ノ館別業林



(沿ニ路通央中)景光ノ列陳内館別業林
分部ルタフ



宮崎縣林業別館ノ光景

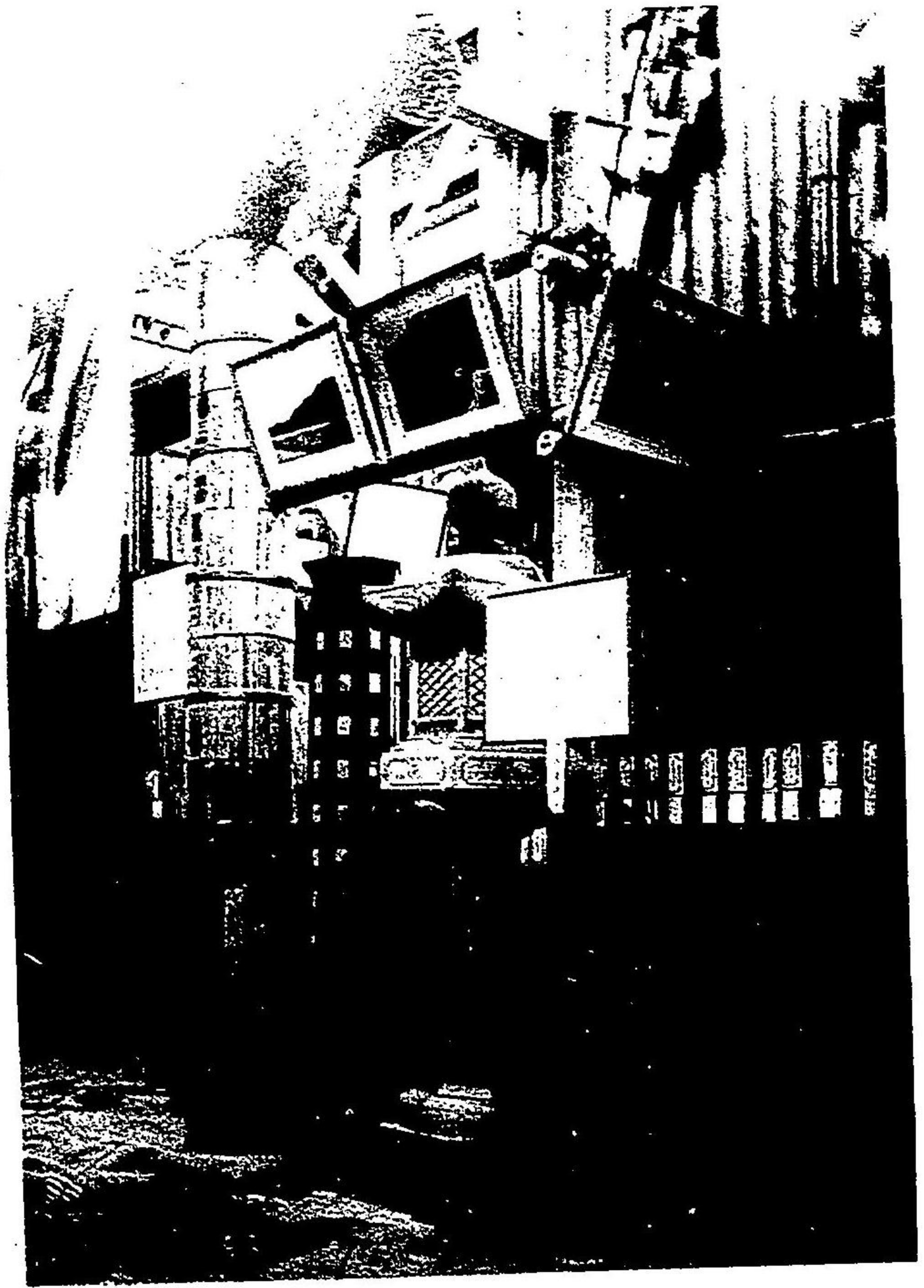


全國林業家休息所(吉野庵)

奈良縣吉野材出品協會建設



景光ノ列陳内館業林



景光ノ列陳品出縣良奈内館業林

第二編 建築土木其他工所用ノ木竹材

審査官林學博士 川瀨善太郎 報告

杉材

杉材ハ我邦ノ林木中最モ重要ナル位置ヲ占メ其用途ノ繁多ナルコト幾ント他ニ比肩スヘキ
リモノナク本邦所産材種幾百十種ニシテ止マラサル中ニ在テ嶄然一頭地ヲ抽出スルモノナ
其然ル所以ハ一ニシテ足ラスト雖モ之ヲ約言スレハ(一)杉材ハ材質輕軟ニシテ鋸、銑、鉋、斧、鑿等
ヲ用フル各種加工ニ能ク耐ヘ造材上及製材上共ニ最モ容易ナルニ由リ(二)空目、柱目等ノ鮮麗
ナルモノヨリ丸太材皮付材等ノ素材ニ至ルマテ夫々ニ適スヘキ多様ナル品質ヲ有スルモノ
ナルカ故ニ用途極メテ廣キニ由リ(三)杉材ハ大材若シクハ長材トシテ能ク之ヲ産出シ得ヘク
又幼材小材ハ手入ニ伴フ間伐收穫トシテ容易ニ産出シ得ルニ由リ(四)産地全國ニ普ク溪澗山
岳何レノ處ニ於テモ適地多ク且ツ造殖容易ニシテ得材期早キニ由ルナリ
以上ノ外種々ナル事由ニ依テ杉材ハ建築土木其他工所用トシテモ將タ器具用及加工材料ト
シテモ其消費額實ニ本邦各種産材中ニ冠絶シ一面ニハ近來其人造林漸次益々盛ンニ行ハル
ニ依リ之カ供給量ニ於テ著シク大ナルモノアリ故ニ將來ニ於テハ杉材ハ其需要ニ於テモ
亦供給ニ於テモ其ニ大ニ増進スヘキ趨勢アルカ故本邦ノ森林經濟上ニハ一層重大ナル勢力
ヲ有スルニ至ルモノト云ハサルヘカラサルナリ

斯ノ如ク杉材ハ種々ノ用途ニ適スルノ性質ヲ有シ造材製材ノ種類極メテ多様ニシテ其産額若シクハ供給力亦太タ饒多ナルニモ拘ハラズ此材ノ需要消費ハ從來只主トシテ内國用ニ止リ未タ多ク之ヲ外國ニ輸出スルニ至ラス即チ今回ノ出品ニ於ケルモ専ラ内地用ノ材種ニ止リ一ノ外國向キノ用材トシテ見ルヘキモノアラサリシハ斯業ノ爲メ甚タ遺憾トスル處ニシテ出品者若シクハ當業者ノ宜シク將來ニ圖ル處アラシキ事ヲ切望スル所ナリ

杉材ハ今回ノ出品木材中最多數ヲ占ムルモノニシテ其出品區域ハ三府二十二縣ニ涉リ殆ント全國ニ普シ今其材種ノ種別ニ依テ之ヲ掲クル時ハ凡ソ左ノ如シ

一、(丸太材)丸太材ノ諸種、玉川丸太、四ッ谷丸太、青梅丸太等ノ諸種、洗丸太、磨丸太ノ諸種、小丸太、錢丸太、細丸太、海布丸太ノ諸種、柱材丸太、床柱材丸太、桁材丸太、長押材丸太ノ諸種、スボ丸太、サビ丸太等ノ諸種、北山丸太、白杉丸太ノ諸種、間伐材丸太、丹礬注丸太、皮付丸太ノ諸種等。

二、(削リ材)寸甫本木(背一、二腹〇、四)寸甫二本木(背一、〇腹〇、二)寸甫四半木(二本木ノ二分ノ一)

(注)寸甫トハ秋田地方ニ於ケル獨特ノ造材法ニシテ普通幹ノ枝節ナク木理通直ナル部

分ヲ長サ七尺毎ニ裁斷シ其末口ヨリ材心ヲ中心トシ鈍ヲ當テカヒ一邊弧三角形ニ削ルモノナリ

三、(角材)辨甲材、柚角材、挽角、大角物、小角、面皮柱材

四、(板材)通常ノ板ニ於テ厚サ別トシテハ四分板、五分板、六分板、八分板等地合トシテハ空、笹、桧、柾目、板目等色合トシテハ赤、白、耳白等品質トシテハ無地、小節、並ミ等ノ諸種、幅別トシテハ尺

幅物、尺幅未滿ノモノ、尺幅已上ノモノ等其他板子、板割、下見板、厚板、盤、幅廣板等ノ諸種、薄板、天井板ノ諸種、燒杉板

五、(横類)大横、一番、二番、中横、上赤、二赤、小横、大木舞、小割等ノ諸種

六、(挽キ材)敷居、鴨居、真去柱、柱柱材、天井竿、緣、天井廻リ緣、落シ掛ケ、床框、長押等

已上ノ如クナルカ故杉材トシテノ各種ハ殆ント之ヲ網羅シ就中板材及丸太材等ノ出品ハ最も多額ニシテ反テ横材割等ノ如ク特ニ杉ノ利用トシテ好適シ且ツ其消費額及用途ノ最モ廣キ材種ニ於テハ其出品數ノ比較的少數ナリシハ遺憾ナリ要スルニ今回出品ノ杉材ハ僅ニ其材種ノ各種ト所産ノ概畧トヲ知ルニ過キスシテ依テ以テ本邦杉材ノ全般ニ於ケル品柄若シクハ其進否ニ關スル詳細ノ現況及各地市場ニ於テ現ニ取引セラル、材種ノ總ヘテノモノハ之ヲ知ルニ由ナク我カ木材界ニ於ケル一大勢力タル杉材ノ出品トシテハ寔ニ懽焉タルヲ免レト雖モ出品ノ各材ハ其品質一般ニ好良ニシテ市場ニ於テ普通賣買セララル、モノヨリモ一等ヲ超出シタルモノ多キノ感アリ殊ニ奈良、三重、京都等ノ諸府縣出品中ニハ各其特色ヲ表顯シテ殆ント遺憾ナキヲ認メタルモノアリ其他愛知縣出品ノ御山杉空板、大阪府鹿兒島縣等ノ出品ニ係ル屋久杉ノ諸板、秋田縣福井縣、鳥取縣、宮崎縣等ノ出品物ニ於テモ亦見ルヘキモノ少ナカラス而シテ特ニ茲ニ賞揚スヘキハ各種ノ材種漸ク器械挽ニ係ルモノ多キニ至リ其人カヲ省キ工程ヲ大ニシ兼テ品柄ノ一整ヲ期シ得又造材製材ノ際ニ失フヘキ材部ヲ減少シテ木材ノ利用上大ニ進歩ノ跡ヲ顯ハシタルハ誠ニ喜フヘキ現象ナリトス希クハ將來益々是等

第二部 建築土木其他工事用ノ木竹材

利用上ノ發達ヲ圖ルト同時ニ一面ニ亦合法ナル人造林若シクハ人工ニ依テ補育セル天然林ノ產出材愈々多量ヲ加ヘ以テ林產物トシテノ保續的供給力富大ニ且ツ其品質ノ益々精良ナラシムコト深ク斯業者ニ向テ留意ヲ求メサルヘカラサル所ナリ今左ニ府縣別出品數授賞數等ヲ表示シ尙ホ其主ナルモノニ就テ細評スル所アラントス

杉材府縣別出品數出品人員及授賞數一覽表

府縣別	出品數	出品人員	授賞數			計
			金牌	銀牌	一等	
東京	一七〇	一六				一七〇
大阪	一八	一				一八
兵庫	一					一
群馬	三三					三三
奈良	七二					七二
三重	一九					一九
愛知	三三					三三
靜岡	二二					二二
滋賀	三					三
岐阜	八					八
巖手	三					三
計	一七〇	一六	一	三	二	一七〇

外ニ土井八郎兵衛ノ出品三十九點アリト雖モ他ト一括トシテ授賞シタルニ付爰ニ記入セス

府縣別	出品數	出品人員	金牌	銀牌	一等	二等	三等	計
青森	四	四						四
山形	三	三						三
秋田	四九	一〇						四九
福島	二五	二〇						二五
鳥根	五	四						五
島山	七	六						七
岡山	八	〇						八
徳島	一	〇						一
愛媛	一	〇						一
高知	一	〇						一
福岡	一	〇						一
大分	一	〇						一
熊本	一	〇						一
宮崎	一	〇						一
鹿兒島	一	〇						一
合計	一七〇	一六	一	三	二			一七〇

内三等、褒狀四ハ他ノモノト合併授賞セリ

秋田縣 能代挽材株式會社、秋田製材合資會社、能代材木合資會社等ノ出品ニ係ル杉材各種ハ其原料ハ主トシテ秋田大林區署所管國有林所產ノモノトシテ出品者ハ其生産ニ對シテハ何等ノ與ル所アルニアラサレトモ然レトモ出品者ハ巨資ヲ投シテ之カ恰當ナル利用法ヲ企劃

第二部 建築土木其他工事用ノ木竹材

シ著々之ヲ實行シテ遂ニ秋田杉材ノ名聲ヲシテ漸ク四方ニ喧傳セシメ材品ノ改善販路ノ擴張等ニ盡瘁セルノ功ヤ著大ナリト謂フヘキナリ特ニ其製材上ニ就テ新式ノ機械ヲ應用シ專ラ動力ヲ蒸氣ニ仰キ産額ヲ大ニシ本業ノ上幾多ノ進境ヲ現ハサシメタルハ多トスヘシ就中天井用薄板ノ如キハ此機械力ヲ待テ始メテ製品スルヲ得タルモノニシテ是等今回ノ出品ハ概シテ其品質好良ニシテ大ニ其特色ヲ發揮セルモノナリ今左ニ其一ニノ解説書ヲ登録シテ以テ業況ノ一斑ヲ示ス

秋田縣秋田市秋田製材合資會社出品杉挽材解説書抄録

製造地 秋田縣秋田市龜ノ丁外張南新町ニ製造所ヲ置ク工場ハ木造亞鉛葺ニシテ其建坪ハ二百八十三坪

原料 秋田縣仙北郡平鹿郡雄勝郡河邊郡由利郡南秋田郡等ノ各山林ヨリ産出スル杉材製造用品ハ左ノ如シ

- 一 内國製八十馬力多管式汽罐 一 臺
- 一 同上長七十尺鍊鐵製烟突 一 臺
- 一 同上ウォーシントン式双汽笛給水唧筒 一 臺
- 一 英國製六十馬力單筒高壓橫置汽機 一 臺
- 一 同上ロール送丸鋸機械 一 臺
- 一 同上平面丸鋸機械 三 臺

- 一 同上蒸氣橫切機械 一 臺
- 一 同上鋸目立機械 一 臺
- 一 同上ロール送大割鋸機械 一 臺
- 一 同上複式小割鋸機械 一 臺
- 一 内國製米國式ラック送丸鋸機械 一 臺
- 一 鋸目振機械 二 臺

右ノ外諸機械修繕用ノ旋盤其他ノ附屬諸機械及鐵工用具等數種アリ

製造方法 先ツ材料ヲ構内ノ積置場ヨリ軌道運搬車ニ依リテ順次ニ工場ニ運ヒ入レ長短ノ定限アルモノハ橫切機械ヲ以テ適宜ニ挽キ切り次ニ挽材ノ種類ニ依リテ大割丸鋸機械ニテ大割ヲ爲シ板類ハ堅鋸大割機械ニテ大割ヲナシタル上小割鋸機械ニ送リテ諸種ノ板ニ挽クモノニシテ小角横板割下見板板類其他ノ丸身挽落等ハ各適應ノ丸鋸機械ニ順次ニ送致シテ挽立ヲ了シタル上皆工場外ニ設置シタル製品各置場へ軌道運搬車ニ依リテ搬出排置シ直ニ干燥ノ手續ヲナシ類別仕譯シテ完全ノ結果ヲナシ各倉庫へ入レ置キテ各地へ輸出スルモノトス

沿革 當會社ハ明治三十四年三月成立ヲ告ケ同年八月中旬ニ至リ機械一部ノ運轉ヲ開始シ同十二月中旬ニ至リ機械全部据付ヲ了シ工事故成ヲ告ケ開業シタルモノニシテ同年中ハ僅カニ試運轉ヲナシタルニ過キサレモ良好ノ結果ヲ得三十五年ニ至リ專ラ挽材ニ從事

シ傍ヲ販路ノ擴張ヲ圖リツ、アリシニ開業日淺キニ拘ハラズ需要日ニ月ニ増加シ東京大阪横濱神戸馬關等ヲ始メ九州地方ヨリ北海道各地ニ至ルマテ意外ニ多數ノ賣行アリ至ル所非常ノ高評ヲ博シ尙ホ續々注文ニ接セシモ當工場現在ノ規模ト同年中ノ原料有高ニテハ到底十分ノ供給ヲ與フルコト能ハサルニ依リ不得止注文ヲ謝絶シタルモノ頗ル多シ故ニ將來益々業務ヲ擴張セントス

製造品ノ數量價格及其販路 明治三十四年八月中旬ヨリ同十二月末日迄製造ノ數量價格ハ左ノ如シ

一挽小角	六三八一 ^本	四千四百貳拾六圓貳拾九錢九厘
一板 割	三九六四 ^四	七千八百九拾參圓八拾九錢七厘
一下見板	六一二三	壹千參拾五圓貳拾四錢
一大 橫	六三六一 ^五	六千百拾圓四錢壹厘
一中 橫	二七二六 ^三	壹千七百七拾貳圓九錢
一三分板	六六五九	拾八圓六拾參錢七厘
一五分板	一三二四 ^{一三}	壹千百五拾六圓七拾壹錢四厘
一敷 居	三三 ^三	拾圓七拾貳錢
一葛 掛	一五三 ^三	七圓七拾貳錢
一垂 木	一二六	拾貳圓四拾壹錢五厘

一小羽根	四〇 ^四	四圓四拾錢
一六分板	二六五五 ^五	百七拾六圓六拾壹錢貳厘

價格合計金貳萬貳千六百貳拾四圓七拾八錢五厘

明治三十五年一月ヨリ同十月マテ製造ノ數量價格ハ左ノ如シ

一三分板	一二四九 ^{八〇四}	四千八百六拾七圓九拾參錢
一四分板	二〇六八 ^{一三九}	九千九百八拾八圓七拾壹錢
一五分板	四四二八 ^{五七〇}	貳萬五千七百七拾九圓參拾錢
一六分板	八六二八 ^〇	五百貳拾八圓八拾八錢九厘
一下見板	五七一四 ^五	八百拾五圓七錢壹厘
一板 割	七四九二 ^{七二}	壹萬四千貳百參拾六圓五拾參錢七厘
一大 橫	六八八九 ^二	五千六百五拾八圓參拾錢壹厘
一中 橫	四四六〇 ^五	貳千八百貳拾五圓五錢貳厘
一小 橫	二五〇一 ^三	八百參拾貳圓貳拾四錢四厘
一挽小角	一七〇九 ^六	壹萬千四百拾壹圓四拾七錢五厘
一小羽根	三三〇 ^三	四拾貳圓拾貳錢五厘
一敷 居	一五九	五拾八圓拾貳錢
一鎌 手	六九	五圓貳錢

一 萬 掛 二、一六〇^本 九拾八圓六拾參錢
 一 垂 木 一、六五〇 百六拾五圓七拾五錢五厘

價格合計金七萬六千四百四拾參圓拾五錢九厘

以上製材ノ販路ハ中國九州地方ヨリ關東諸州及北海道地方ニ亘リ就中其輸出高最モ多キハ東京馬關函館等ノ各地トス

効用 建築上主要ノ材料タルノミナラス一般日常ノ家具諸器物製作ニ必須ナリ
 審査請求主眼 原料ヲ精撰シ最新式ノ機械ヲ以テ一定ニ完全ニ且ツ多數ニ製造スルヲ以テ世間普通ノ板類ノ如ク區々異様ナル不完全ノ品ヲ出スコトナシ又之ヲ使用スルニ當リ通常品ヨリハ著シク人工ヲ省クノミナラス價格頗ル低廉ナルヲ以テ需要者ヲ利益スル最良ノ挽材ナリトス是審査請求ノ主眼ナリ

秋田縣山本郡能代港能代材木合資會社出品杉寸甫及割板類解説書抄録

產地 杉寸甫ノ產地ハ秋田縣ノ北部ニアリテハ山本北秋田二郡ノ國有林ニシテ其中最モ品質ノ良好ナルハ山本郡櫻村大字濁川山同郡檜山町大字母體山及北秋田郡長木村大字長木澤等トス今回ノ出品物ハ即チ濁川山小字烏澤ヨリ出タルモノトス元寸甫ハ重ニ桎目材トシテ使用セラル、モノナルヲ以テ少ナクモ直徑一尺六寸以上ノ立木ニシテ且相當ノ年數ヲ歷タルモノニアラサレハ之ヲ造林スルコト能ハス故ニ現今ニ於テハ專ラ國有林ニ屬スル自然生ノ森林中樹齡百四五十内外ノ良木ヲ撰ミ造材スルモノトス

伐採ノ期節及其方法順序 本縣ニ於テ木材伐採ノ期節ハ夏冬二季トシ夏季伐採ノモノハ五月初旬ヨリ九月中旬頃迄ノ間ニ於テ立木ヲ伐倒シ杉皮ヲ剝取り之ヲ寸甫又ハ角材丸太材等ニ造材シテ小谷筋迄搬出シ降雨出水ノ時ヲ待チテ堤流ノ方法ヲ用ヒ大川ノ落合迄放流シ此處ニ行馬ト稱スル木柵ヲ設ケテ木材ヲ堰止メ置キ夫レヨリ順次ニ木材ヲ拔出シ筏ニ組立テ能代港ニ川下ケスルモノトス又冬季伐採ノモノハ十一月ヨリ翌年一月頃迄多クハ降雪中ニ伐採ヲナシ此季節ニ於テハ皮剝ヲナシ難キヲ以テ皮ノ付タル儘夫々ノ木材ニ造リ雪車ヲ用ヒテ小谷筋迄搬出シ春季融雪ノ際出水ヲ利用シテ川流シヲナシ能代ニ筏下ケヲナスモノトス夏冬二期ノ伐出シニハ各得失アリト雖モ冬季ニ於テハ木材ノ搬出及川流シ共ニ積雪ヲ利用シ得ルヲ以テ夏期ニ比スレハ運材ノ費用ヲ省キ得ルノミナラス場所ニ依リテハ冬季ニアラサレハ伐出ヲ爲シ難キ山林モ少ナカラサルヲ以テ現今ハ十カ八九迄モ冬季ニ於テ伐り出シヲナスコト、ナレリ寸甫造材ノ方法ハ適當ノ立木ヲ見立テ之ヲ伐り倒シ先ツ之ヲ長サ七尺ノ丸太ニ切り詰メ其中ニテ目筋正シク節ノ少ナキモノ即チ立木中最良ノ部分ヲ撰ミ其元口ヨリ尺度ヲ當テ、大本木、中本木、二半等ト夫々寸法ヲ定メ其木口ノ周邊ニ目印ヲ付ケ此目印ヨリ丸太ノ中心迄鉋目ヲ施シ置キ然後イタヤニテ作りタル矢木ヲ此鉋目ニ挿入シ斧頭ニテ五六回強ク之ヲ打込ムトキハ容易ニ割ル、モノナリ而シテ其割リタルモノハ更ニ斧ヲ以テ其腹部ヲ削リ取り多少ノ手入レヲ施ストキハ即チ寸甫トナリタルモノニシテ其造材法甚タ簡短ナリ而シテ其搬出及川下ケノ方法ハ角材及

丸太材ト異ナルコトナシ又寸甫造材ノ際丸太ノ太サ如何ニヨリ二半木ノ寸法ニ滿タサル
 小幅ノ割木ヲ生スルコトアレハ之ヲ四半及突出シト稱シテ寸甫ト共ニ搬出シ別ニ直段ヲ
 定メテ賣買スルモノトス
 柿板棟折及五厘柱ノ類ハ何レモ寸甫又ハ丸太材ヲ以テ製造スルモノニシテ是等ハ皆木材
 ヲ能代ヘ運致シタル後適宜ノ木品ヲ撰ミ夫々専門ノ職工ニテ製造セシムルモノトス
 産出額 當會社ニ於テ既往三箇年間ニ伐出シ又ハ製造販賣シタル寸甫各種及柿板類ノ數
 量及價格左ノ如シ而シテ寸甫ノ販路ハ現今ニ於テ北陸道諸國其十分ノ七ヲ占メ其餘ノ三
 分ハ北海道九州地方及東京大阪等ノ各地ヘ分配セラル、モノトス又柿板棟折ノ販路ハ專
 ラ東京地方ニ限リ五厘柱ハ重ニ北海道ヘ輸出セラル、モノナリ

年次	品名	數量	價格
明治三十三年	杉寸甫大本木	一〇、二〇七	一五、三一〇五〇〇
同	同 本 木	一〇八、三〇八	一〇八、三〇八〇〇〇
同	同 二 半 木	三八、二二五	四四、九七五〇〇〇
同	杉 柿 板	七、〇七四	五、一五六〇〇〇
同	杉 五 厘 柱	三、三四一	七、八六七四〇
明治三十四年	杉寸甫大本木	八、五三八	一七四、五三六八四〇
同	同 本 木	六〇、七三〇	一一、九五三二〇〇
合計			六〇、七三〇〇〇〇

年次	品名	數量	價格
明治三十五年	杉寸甫大本木	一四、六四〇	一四、九七七七七八
同	同 本 木	五八、二二八	三三八七六〇〇
同	同 二 半 木	一〇、二二二	五六〇〇〇〇
同	杉 柿 板	三、二四〇	一、八五四九三〇
同	杉 五 厘 柱	六、三九六	九三、四六三五〇八
合計			二一、九六〇〇〇〇
明治三十五年	杉寸甫大本木	一四、六四〇	二一、九六〇〇〇〇
同	同 本 木	五八、二二八	六四、五八六六六七
同	同 二 半 木	一〇、二二二	一二、七九〇〇〇〇
同	杉 柿 板	三、二四〇	三、〇〇五二〇〇
同	杉 五 厘 柱	六、三九六	一、四五五三三〇
合計			一〇、三七九七一八七

効用 寸甫ノ用途ハ主トシテ柿板類ヲ初メ折箱又ハ曲物等ニ用フル扮板ヲ製造シ又酒桶
 醬油樽ノ類ヲ初メ總テノ桶樽ノ材料トナルニアリト雖モ其上等品ニ至リテハ或ハ建築用
 ノ天井板其他諸般ノ造作用ニ供セラレ又戸障子其他ノ指物用ニモ使用セラル、モノニシ
 テ其應用頗ル廣シ而シテ其用途ハ地方ニヨリテ一様ナラス例ヘハ北海道ニ於テハ重ニ之
 ヲ酒樽又ハ醬油樽ニ造リ九州地方ニ於テハ重ニ之ヲ折箱其他ノ扮物用ニ供シ又北陸諸國
 ニ於テハ十カ八九迄柿板ノ製造ニ用フルカ如シ就中柿板類ニ製造セラル、モノ最モ多額
 ナリトス蓋シ本縣ノ杉材ハ大體ノ材質ニ於テハ大和地方ノ杉材ニ比シテ一等ヲ輸スル所
 アルニモ拘ハラヌ扮物用トシテハ一種ノ特長ヲ有シ他ニ之ニ比スヘキ良品ナキヲ以テ此

方面ノ需要ニ對シテハ殆ント專賣ノ地位ヲ占メ居ルモノ、如シ且ツ本品ハ造材法簡單ニシテ運材モ亦極メテ容易ナルノミナラス販賣ノ點ニ至リテモ角材丸太材等ニ比スレハ賣行遙ニ迅速ニシテ當業者ニ取り資金運用上ノ便益少ナカラス加フルニ其價格モ頻年騰貴シテ角材丸太材等ニ比シ却テ高價ニ賣捌キ得ルヲ以テ現今ニ於テハ本縣杉材中ノ最モ重要ナル輸出品トナルニ至レリ

柿板棟折及五厘柱ハ何レモ家屋ノ屋根葺用ニセラル、モノニシテ東京地方ニ於テハ重ニ之ヲ瓦ノ下葺ニ用ヒ北海道邊ニ於テハ普通ノ晒屋根ニ用フルモノナリ而シテ當會社ノ柿板類ハ現今東京地方ニ於テモ常ニ第一等ノ良品トシテ賣買セラレ居レリ

褒賞 當會社ハ從來博覽會及共進會等ニ物品ヲ出陳シタルコトナシ從テ何等ノ褒賞ヲモ受ケタルコトナシ

審査請求ノ主眼 寸甫ハ古來本縣ノ一產物タリシト雖モ近年ニ至ル迄ハ其販路狹隘ニシテ價格モ亦低廉ナルヲ免カレサリシナリ然ルニ當會社ニ於テ第一ニ其造材法ニ注意シ勉メテ精良ノ品ヲ出シ且各需要地ト直接取引ノ道ヲ開キ銳意販路擴張ヲ謀リタルノ結果近年ニ至リ漸次其輸出額ヲ増シ價格亦從テ上進セリ又柿板類ハ從來專ラ地方職工ノ手ニ成リ其製法不完全ニシテ販路亦一地方ニ限ラレタリト雖モ數年前當會社ニ於テ柿板ノ本場タル三州越後及東京等ヨリ専門ノ職工ヲ雇入レ專ラ東京輸出品ヲ製造セシ以來需要地ノ高評ヲ増シ現今ニ於テハ一廉ノ輸出品トナルニ至レリ而シテ其改良ノ卒先者ハ實ニ當會

社ナリトス是審査請求ノ主眼ナリ

秋田縣山本郡能代港能代挽材株式會社出品杉挽材各種解説書抄録

製造地 秋田縣山本郡能代町ニ製造所ヲ設置ス工場ノ構造ハ耐火ノ目的ヲ以テ土藏造リトシ屋根ハ瓦葺及亞鉛引鐵板葺トス其建坪三百二十五坪外ニ各種ノ附屬建物大小二十四棟アリ其總建坪千四百二十三坪ナリ

原料 原料タル杉材ノ產地ハ重ニ秋田縣山本北秋田二郡ノ國有林及民有林ニシテ能代港ヲ距ルコト近キハ十里以内遠キハ二十里以外ノ山林ヨリ伐リ出シ總テ米白川ニ依リテ能代へ輸送スルモノナリ而シテ此中國有林ノ出材凡ツ十分ノ八九ヲ占メ民林ノ出材ハ僅カニ其二二分ニ過キス原料ノ造材法ハ重ニ丸太材ニシテ時トシテハ運材ノ便ヲ謀リ角材又ハ辨甲材(兩面角)ニ造クルモノアリト雖モ其數僅少ナリ又材料ノ長サハ重ニ七尺及十四尺ノ二種トシ七尺材ハ太サ平均直徑一尺二寸位十四尺材ハ同平均七八寸位トス

製造用品 挽材製造ニ要スル諸機械ハ圓鋸(サーキユラル、ソウ)粹鋸(フレイム、ソウ)及帶鋸(バンド、ソウ)等ノ各種ニシテ大小十五臺ヲ備ヘ其大ナルモノハ直徑二尺迄ノ木材ヲ挽割ルコトヲ得又板類ハ厚サ一分五厘以上如何ナル板ヲモ隨意ニ挽立テ得ルモノトス此等ノ諸機械ハ何レモ蒸氣機關ヲ以テ運轉シ原動機ハ二臺ニシテ實馬力二百馬力トス此外ニ鋸目立機械及修繕用鐵盤其他各種ノ附屬諸機械數臺アリ諸機械ノ中內國製汽罐及二三ノ圓鋸機械ヲ除クソ外概テ英國製ヲ採用セリ

製造ノ方法 原料タル丸太材及角材ハ出材地ヨリ能代ニ川下ケスルトキハ筏ノ儘ニテ工場ノ下ナル掘削ニ乗入レ蒸氣捲揚機械ヲ以テ陸上ケヲナシ夫ヨリ軌道運搬車ニ依リテ一旦構内ノ材料置場ニ送り木材ノ大小長短ト其材質ノ善惡トニ依リ夫々等級ヲ分チテ之ヲ積立テ置キ然ル後製材ノ種類ニ依リ適當ノ材料ヲ工場ニ搬入シ先ツ初メニ横切機械ヲ以テ材料ヲ一定ノ長サニ切詰メ夫レヨリ製材ノ種類ニ依リ夫々適當ノ機械ニ送り挽立ヲナスモノトス例ハ四分板六分板ノ如キ薄板ヲ挽クニハ先ツ大割鋸又ハ大割圓鋸機械ヲ以テ木材ヲ厚サ三寸乃至四寸五分迄ノ板子ニ挽割リ其挽割タル板子ハ幅ノ廣狹ニ應シテ寸尺ヲ定メ小形ノ圓鋸機械ヲ以テ兩耳ヲ挽落シタル後之ヲ小割鋸機械ニ移シ此機械ニテ一挺ノ板子ヨリ六枚乃至十二枚迄ノ薄板ヲ挽立テ其挽上リタル板ノ中丸ミナキモノハ直ニ工場外ナル板仕譯所ニ送り丸ミアルモノハ更ニ一枚毎ニ幅ニ應シテ寸尺ヲ定メ他ノ圓鋸機械ヲ以テ其丸ミヲ挽落シタル後仕譯所へ運送スル者トス但板割及大横中横ノ如キハ大割ノ手續ヲ經スシテ木材ノ儘直チニ挽立ツルヲ常トス此種ノ板ノ丸ミヲ挽落スモ四分板六分板ト同一ノ方法ニ依ルナリ而シテ材料ノ搬入ヨリ板類ノ搬出迄工場内外ノ運搬ハ總テ軌道運搬車ヲ用フルモノトス儲又挽上リタル板類ハ仕譯所ニ送りタル後一枚毎ニ丁寧ニ検査ヲナシ四分板六分板ノ類ハ先ツ之ヲ赤身及耳白ノ二種ニ大別シ雙方共更ニ之ヲ無節上小節並小節及並板ノ四種ニ區別シ又横類ナレハ赤味白タ付或ハ丸身ナシ丸ミ付等ノ區別ニ依リ一番次一番二番次二番又ハ上赤次赤二赤次二赤等ノ各種ニ分チ板割ノ如

キハ單ニ丸ミノ有無ニ依リ極摺間摺及上摺等ニ區別シ此際腐入蟲喰抜節及割レ疵等アル粗惡品ハ一切之ヲ勿除ケテ通常ノ賣品中ニ加ヘサルヲ以テ無節小節ノ如キ優等品ハ勿論並板ト雖モ實際使用ニ堪ヘサル粗惡品ハ一枚モ混濬スルコトナシ次ニ其仕譯ケタル板ハ夫々部類ヲ分チテ屋外ニ出シ(ハサ)掛ケ(地上ニ高サ六尺位ノ枕ヲ建列子其上ニ丸太ヲ以テ笠木ヲ架ケ渡シ其兩側ヨリ笠木ヲ枕トシテ×字形ニ板ヲ立テ掛ケ日光ト空氣ノ流通トニ依リ板ヲ乾燥セシムルノ法アリ)又ハ棧取トナシテ四五日間乾燥シタル上之ヲ倉庫ニ取入レ荷造ヲナシ各地へ積出スモノトス荷造方ハ通常ノ板ナレハ藁繩ニテ四箇所縛ケニ束取スルノミナレトモ無節小節ノ如キ上等品ハ運送中ノ割レヲ防クタメニ特ニ頭尾兩端ニ横板ヲ當テ、更ニ藁繩ニテ二箇所ヲ束子又板割ノ類ハ小幅物ヲ除クノ外一枚毎ニ頭尾ノ小口ニ横棧ヲ打付ケ積出スヲ例トセリ

柿板及檜木取ノ類ハ重ニ材料中ノ疵木ニテ板類ニ挽立ツル能ハサルモノヲ撰ミ別ニ機械ヲ用ヒス夫々専門ノ職工ヲシテ製造セシムルモノトス
製材方法ハ創業ノ際機械ノ購入及其据付等ニ付テハ専門技師ノ意見ヲ聽キ且内外先進者ノ經驗及考案ヲ利用シタルモノ少ナカラスト雖モ其後自家ノ實驗上ヨリ種々ノ工夫改良ヲ施シ以テ今日ニ至リタルモノニシテ其目的トスル所ハ專ラ製造ノ迅速製品ノ改善生産費ノ節約及材料消耗ノ輕減等ニアリ是等ノ點ニ於テ逐年進歩ノ成績ヲ見ツ、アリト雖モ現今ノ設備上尙ホ多少不完全ノ廉ナキニアラサルヲ以テ今後漸ヲ逐ヒ之カ改良ヲ謀ルヘ

キ見込ナリ
沿革 當會社ハ去ル明治三十年一月ノ創立ニ係リ同年中ニ工場ノ建築及ヒ諸機械ノ据付ヲ終リ其年十二月ヲ以テ始メテ開業シタルモノナリ創業ノ當時ハ舊商法ニ依ル合資會社ノ組織ニシテ其資本金額モ五萬圓ニ過キサリシカ其後漸次業務ヲ擴張シ去ル明治三十三年ノ歳末ニ於テ組織ヲ變更シテ株式會社トナシ同時ニ資本金ヲ拾萬圓ニ増額シ翌明治三十四年三月ニ至リ更ニ資本金ヲ増加シ貳拾萬圓トナシ同三十五年六月末日ヲ以テ悉皆其拂込ミヲ終リタリ此ノ如ク創立後次第ニ業務ヲ擴張シタルヲ以テ諸機械其他一般ノ設備モ年々完備シ來リ現今ノ製造力ハ之ヲ創業當時ニ比スレハ殆ント二倍以上ニ達スルニ至レリ

製造品ノ數量價格及其販路

當會社ノ製造品ハ其種類甚ク多ク今回出品シタルモノハ僅カニ其一部分ニ過キスト雖モ今單ニ出品物ト同一種ノ板類ニ就キ既往三箇年間ノ製造高及其價格ヲ擧クレハ左ノ如シ但此價格ハ當會社所在地ニ於ケル賣買價格ナリトス

年次	品名	製造高	價格
明治三十三年	杉四分板	一九四、六〇〇	九四、一九七
同	杉六分板	三七、七一七	二四、三二八
同	杉板割	一〇、二四三	二四、四八〇

明治三十三年		明治三十四年		明治三十五年	
杉大貫	五〇、九六二	杉大貫	四六、三五〇	杉大貫	六、一一五
杉中貫	四六、三五〇	杉中貫	三八五	杉中貫	三、二四五
杉下見	三八五	杉下見	五、三三三	杉下見	一〇、四
杉櫛	一五五、四六九	杉櫛	一三三、四七	杉櫛	二、三四七
杉櫛	八三、一五	杉櫛	二六、四三	杉櫛	一、三二六
杉櫛	一五八、七八五	杉櫛	一三、二二	杉櫛	一、五八七
杉櫛	一一〇、七一四	杉櫛	二、九一一	杉櫛	二、九一一
杉櫛	二九、一一一	杉櫛	八、三二〇	杉櫛	一、二七七
杉櫛	五、八七四	杉櫛	三、三四三	杉櫛	三、九三九
杉櫛	五、五七二	杉櫛	一、二七七	杉櫛	一、八三四
杉櫛	六、三八四	杉櫛	七、一六二	杉櫛	一、八九四
杉櫛	七、一六二	杉櫛	一一、三九三	杉櫛	一、八三五
杉櫛	一一、三九三	杉櫛	一〇、四六〇	杉櫛	一、七六三
杉櫛	一〇、四六〇	杉櫛	二五五、七九五	杉櫛	一、六五九
杉櫛	二五五、七九五	杉櫛	三三、二九四	杉櫛	一九、三七二
杉櫛	三三、二九四	杉櫛	三三、二二〇	杉櫛	六、一八二
杉櫛	三三、二二〇	杉櫛	七四、〇七七	杉櫛	七、四〇八
杉櫛	七四、〇七七	杉櫛	五三、三二四	杉櫛	三、一九九
杉櫛	五三、三二四	杉櫛	三、五八三	杉櫛	五、七三
杉櫛	三、五八三				

第二部 建築土木其他工事用ノ木竹材

明治三十五年	杉板	三八九七	一九四九
同	杉角	一一二二九二	一七九七
同	杉油	四二二〇	七二八〇
同	杉櫛		〇〇〇〇
小計			一五七八〇六〇〇〇

七三

(備考) 明治三十三年及三十四年ハ全一箇年分ニシテ同三十五年ハ同年一月ヨリ九月迄

九箇月間ノ調査ナリ

表中數量ノ單位ニ間トアルハ延幅六尺ヲ云フ

右ハ出品物ト同種ノ板類ナレトモ此外ニ本會ニ出陳セサル各種製材ノ數量ヲモ加算スル時ハ現今一箇年間ノ製材高ハ約七萬石(一石トハ一尺立方十箇ヲ云フ)ニ上リ其價格凡ソ貳拾六萬圓トス而シテ其販路東京地方及關東諸州凡ソ十分ノ四北海道地方凡ソ十分ノ三畿内以西中國九州地方凡ソ十分ノ二ヲ占メ殘餘ノ一分ハ本縣内及青森地方ニ於テ消費セラレ、モノトス現在ニ於ケル販路ハ右ノ如クナリト雖モ當會社製造品ノ需要ハ年一年ニ増加スルヲ以テ今後數年ヲ經過スルトキハ其販路ハ廣ク全國ニ行キ涉リ獨リ内地ノミナラス海外ヘモ多ク輸出セラル、ニ至ルヘキ見込ナリ

- 第一、板ノ長サ定尺ヨリ短カ、ラサル事
- 第二、板ノ幅正寸ヨリ二三分宛ノ延ヒアル事

- 第三、板ノ丸ミ又ハ挽尻ナキ事
 - 第四、板ノ厚サ均一ナル事
 - 第五、板ノ挽肌平滑ニシテ美麗ナル事
 - 第六、板ノ仕譯嚴密ニシテ粗惡品ノ混淆ナキ事
 - 第七、板ノ乾燥及束取ニ注意セル事
- 以上ハ何レモ當會社製造品ノ特色ニシテ蓋シ現今本邦ニ於テハ他ニ比類ナキ良好ノ杉板ナルヲ信ス而シテ當會社カ特ニ本邦ノ木材業ニ對シ聊カ貢獻スル所アリト自信スル事柄ハ左ノ各項ナリトス

第一、本邦ニ於テ始メテ完全ナル機械挽ノ薄板ヲ製出シタル事

理由

本邦ノ板類ハ古來專ラ木挽ノ手ヲ以テ製造シタルカ故ニ多額ノ生産費ヲ要シタルノミナラス其製品モ長短厚薄一様ナラスシテ極メテ不完全ノ品タルヲ免カレザリシニ近年ニ至リ各地ニ於テ人力ノ代リニ挽材機械ヲ使用スルモノ増加シ爲メニ板割及攢類ノ如キ厚板ハ稍々完全ナル機械挽キノ製品ヲ見ルニ至レリ然レトモ四分板ノ如キ薄板ハ世間在來ノ機械ヲ以テ完全ナル良品ヲ製造スルコト能ハサルヲ以テ各地共ニ今尙ホ木挽ノ手ヲ以テ之ヲ挽立ツルヲ常トス然ルニ當會社ニ於テ始メテ斬新ナル機械ヲ以テ完全ナル薄板ヲ製出セシ以來世上在來ノ手挽板ハ全ク其聲價ヲ失ヒ現今ニ於テハ當會社製造ノ機械挽四分

板ノミ專ラ世間ニ賞用セラル、ニ至レリ是本邦ノ製材事業上大ナル進歩、一ニシテ當會社ハ實ニ其先鞭者タルノ榮譽ヲ擔フモノナリトス

第二、板類見本賣買ノ習慣ヲ創始シ其取引ヲ便利ナラシメタル事

理由

從來本邦ノ板類ハ其何地ノ産タルト何種ノ板ナルトヲ問ハス製造及仕譯トモ區々ニシテ一様ナラサルヲ以テ之ヲ賣買スルニ當リ一々現品ニ付キ其品質ヲ吟味セサレハ價格ヲ定メテ取引ヲナス事能ハサルノ煩累アリ故ニ遠隔ノ地ニアリテハ見本ニ基キ賣買約定ヲナスカ如キハ殆ント不可能ノコトニ屬シ偶々之ヲナスモノアレハ現品授受ノ際ニ至リ動モスレハ見本品ト相違シテ種々ノ苦情ヲ惹起シ兎角圓滑ニ其取引ヲ結了スル能ハサルヲ常トセリ然ルニ當會社製造ノ板類ハ第一ニ原料ヲ精撰シ次ニ製造ヲ慎ミ其仕譯干燥取ニ至ルマテ特別ノ注意ヲ加ヘ通常手挽ノ板ニ免カレ難キ粗惡品ノ混濬ナキヲ以テ板類ノ品位一定シテ一々現品ヲ檢査スルヲ要セス一東ノ見本ヲ以テ幾萬東ノ取引ヲナスモ買受人ニ於テ毫モ品質相違ノ恐アルコトナシ故ヲ以テ當會社ト各地取引店トノ間ニ於テハ常ニ書信及電信ヲ以テ多數ノ賣買取引ヲナスノミナラス東京其他ノ重立チタル都會ニ於テハ當會社ノ商標アル板類ニ限り商人間ニ於テ互ニ電話ヲ以テ現品ヲ見ス賣買取引ヲナシツ、アリ爲メニ商賣ノ手數ヲ省キ取引ヲ便利ナラシメタルコト甚大ナリト云フヘシ是當會社ノ製造品カ木材取引上ニ善良ナル一新例ヲ創始シタルモノニシテ本邦商業上著シキ進歩ノ一ニ數フヘキ事柄ナリトス

第三、本縣林産物ノ販路ヲ擴張シ其價格ヲ増進シタル事

理由

秋田縣ハ古來杉材ノ產地トシテ有名ナル土地柄ナリト雖モ今日ヨリ數年前迄ハ本縣ヨリ他府縣ヘ輸出セラレタル杉材ハ重ニ杉割木及角材ノ如キ原材料ノミニシテ比較的人工ノ加ハリタル板類ニ至リテハ只僅カニ北海道地方ニ輸出セラレタルニ過キス而カモ其板ノ製方ハ極メテ不完全ニシテ北海道以外ニ販路ヲ見出シ能ハサリシハ勿論唯一ノ得意タル北海道ニ於テスラ漸ク需要者ノ不信用ヲ招キ其販路年々減縮ノ傾キアルヲ免カレサリキ是實ニ當會社創設前ノ狀況ニシテ當時ニアリテハ割木以外ノ木材即チ板類ノ原料タル丸太材ノ如キハ他ニ輸出ノ途ナキカ爲メニ其價格頗ル低廉ニシテ且ツ動モスレハ販路ノ梗塞ヲ來タシ營業者ヲシテ其處分法ニ困難セシメタルコト尠ナカラス隨テ山林立木ノ如キモ需要ノ範圍甚々狹小ニシテ其賣買價格モ常ニ低位ニアリテ林業ノ發達甚々遅々タルノ有様ナリキ然ルニ當會社創立以來板類ノ産額ハ俄然從前ニ數倍シ其販路大ニ擴張セラレ從テ其原料ヲ要スルコト甚大ナルノミナラス一方ニ於テハ板類ノ生産費從前ニ比シテ大ニ減少シタルヲ以テ其結果ハ自然ニ原料ノ價格ヲ引上クルコト、ナリ之カ爲メニ近來ニ至リ本縣山林ノ收益ヲ増加シタルコト幾許ナルヲ知ル可カラスは一ハ時勢ノ進歩ニモ因ルモノナリト雖モ當會社カ大ニ製材事業ヲ起シテ盛ンニ秋田杉材ノ眞價ヲ世上ニ表白シ

タルノ一事亦與ツテ大ニカアルコトヲ信スルモノナリ
 △△東京府 四谷丸太青梅丸太等ノ特稱ヲ以テ古來賞用セラル、所ノ長丸太材ハ同府下ノ名産
 ニシテ建築用足場材トシテハ寔ニ缺クヘカラサル必要材ナリ尙ホ之ヲ以テ杭木小柱等ニモ
 應用シ得ヘク其需要常ニ甚ク多量ニシラ産額亦少ナカラサルナリ此種丸太材ノ將來ハ逐年
 各種建築ノ益々増加スルニ從ヒ殊ニ洋風家屋ノ如キ地上高ク聳立スル建築ノ頻起スルニ伴
 ヒ之ニ要スル足場材ハ益々其需要ノ急ヲ告クヘク其他諸般ノ工事用建築用材トシテ最モ使
 用シ易キ材種ナルカ故用途甚ク繁多ナルヘシトス加之此種ノ丸太材ハ對岸清國ノ建築用材
 亦ハ電柱用材トシテモ漸次輸出ノ望ミナキニアラス要スルニ本材ハ將來ニ向テハ其用途益
 々廣ク大ニ好望ナル販路ヲ有スルモノトナサ、ルヘカラサルナリ而シテ本材ヲ產出スヘキ
 森林ハ伐期短ク資本ノ回收早クシテ林業經濟上最モ利益アルモノニシテ民業トシテハ最適
 ノ作業ナルカ故將來ニ於ケル此種産材ノ造林ハ漸ク盛ンニ行ハル、ニ至ルヘク即チ供給力
 ニ於テモ大ニ其増加ヲ見ルヘキナリ然ルニ今回此材種ノ出品ハ僅ニ十數點ニ過キスシテ其
 品質概シテ適良ナルヲ見ルト雖モ多クハ木材商ヨリノ出品ニ係リ生産者ノ出品トシテハ甚
 タ罕ナリシハ稍々遺憾トナサ、ルヘカラサルナリ左ニ參照ノタメ出品解説中ノ一部ヲ抄録
 シテ以テ本材ノ仕立方及經濟ノ一斑ヲ示ス

東京府西多摩郡戸倉村萩原角左衛門出品青梅南川杉丸太解説書抄録

土質 礫質壤土ニシテ母岩ハ秩父古世層ニ屬スル粘板岩ナリ

山地造林 本地方ニ於ケル植樹季節ハ春彼岸五六日後ナルヲ以テ其前ニ於テ地拵ヲナシ
 地拵ハ可成丁寧ニナス是後日下草刈ノ便ヲ測レハナリ地拵ヲ終レハ苗圃ヨリ其日ニ植栽
 スル丈ケノ數ヲ掘取り來リテ植栽ス其方法ハ三角形植樹法ニシテ其穴中ニ雜草等ヲ入レ
 サル様ニス之レ活著ノ上ニ大關係アレハナリ一町步約四千五百本植トス
 手入及間伐 植栽後ハ其年ヨリ四年間年二回即六月八月ノ二期ニ於テ下草刈ヲ行フ其後
 三箇年間ハ夏土用中ニ一回宛行フ其後二箇年間ハ只莖切ノミ枝卸ハ植付後十五年乃至十
 七八年ニ至リ樹冠ヲ鬱閉シ下枝ノ枯死スルニ至リテ行フ其度合ハ大抵親枝迄トス其後二
 十三年迄ニ至リテ尙ホ一回ヲ行フ間伐ハ枝卸ト同時ニ行ヒ非常ナル優生木ト劣等木ト
 ヲ閉鎖ノ状態ニ應シテ間伐ス大抵全林ノ二割五分位ヲ以テ度トス但風ノ來ル方面ニ於テ
 ハ林ノ周圍ハ枝卸及間伐ヲナサシテ林衣ヲ造リ以テ林地内ノ乾燥ヲ防ク
 伐採 伐期ハ三十年已上三十四五年ナリトス伐採ハ秋彼岸前後ニ於テ行ヒ直ニ剥皮シ以
 テ市場ニ輸出ス

收支計算 一町步ニ對スル收支計算ヲ掲クレハ次ノ如シ

支出	
一金八圓拾錢	杉苗四千五百本代
一金四圓八拾錢	地拵費
一金七圓貳拾錢	植付費

一本ニ付 金壹圓六毛
 一反步ニ付一人二分ノ割
 一人十二人一人金四拾錢
 一人ニ付二百五十本植
 一人十八人一人ニ付同上

一金參拾貳圓	下刈費	一反歩一人ノ割年二回四箇年分 人夫八十八人一人金四拾錢
一金拾貳圓	同	一反歩一人年一回三箇年分 人夫三十人同上
一金四圓八拾錢	莖切費	一町歩六人年一回二箇年分 人夫十二人同上
一金貳拾四圓	枝卸費	一反歩三人二回分 人夫六十八人同上
一金六圓	間伐費	一反歩一人五分ノ割 人夫十五人同上
一金四拾五圓	伐木費	一人二付三十本切 人夫百人一人金四拾五錢
一金五拾四圓	皮剥費	一人二付二十五本割トス 人夫百二十人同上
合計金百九拾七圓九拾錢		

收入

一金八拾八圓	間伐木
一金四百九拾五圓	杉皮
一金壹千九百五拾圓	杉丸太
合計金貳千五百參拾參圓	

千百本代
一本二付金八錢
千九百八十束五間入一束二付 金貳拾五錢
三千本
一本二付金六拾五錢

收支差引

金貳千參百參拾五圓拾錢

利益

尙ホ東京市ニハ古來本所深川兩區ニ木材市場ノ盛大ナルモノアリ其林産物タル木材ノ採取
苦シクハ製造又ハ特殊ノ製造等ニ從事シ或ハ參與セルモノ少ナカラサルヘキニモ拘ハラヌ

一ノ出品ヲ見サリシハ太々遺憾ナリトス
静岡縣 大横中横小横等ノ横材ハ建築用材トシテハ最モ必要缺クヘカラサル材種ニシテ産
地及品等別并ニ製材者ノ記號別等ニ依テ之ヲ分ツトキハ其種類甚タ多ク而シテ其年々ノ消
費力極メテ少ナカラヌ將來ニ於ケル需要亦必ス多量ナルヘキヲ信ス從來遠州物トシテノ横
材ハ板割材ト共ニ聲譽甚ク高キモノナルニモ拘ハラヌ今回此材種ノ出品ハ誠ニ少數ニシテ
獨リ本縣ニ於テ僅ニ數點ノ見ルヘキモノアリシニ過キサレハ太々遺憾ナリ唯此種ノ製材ニ
向テ近來器械挽ヲ用フルコト漸ク多キヲ加フルニ至リシハ斯業ノ一進歩ニシテ大ニ著目ス
ヘキノ點ナリトス左ニ參照ノ爲メ解説書ノ一部ヲ抄録シラ業況ノ一斑ヲ示ス

静岡縣磐田郡龍川村松本源三郎出品杉大横解説書抄録

種植及採收 原質材ハ概シテ人造林ニシテ伐採季節ハ春秋ノ二期トス且ツ製材方ハ水力
木挽機械ヲ用フ

産出額 明治二十年以來年々六萬挺以上 附記近年需要者著シク増加シ從テ水力火力等
ノ木挽機ノ年ト共ニ増加スルヲ見テモ其産額ノ増加スルハ明カナリ
審査請求主眼 近來世ノ進歩ニ伴ヒ製材方ノ如キモ從來ノ手挽ト稱スル人力ヲ以テスル
如キハ務メテ改良ヲ爲サ、ルヘカラス是火水力木挽器械ノ有用ナル所以ナリ而シテ此出
品ハ水力五馬力人夫四人ニテ實ニ一日ノ仕事高八百五十挺餘ヲ製造スルニモ拘ハラヌ品
質善良ニシテ尙ホ且ツ木質ハ地方有數ノ地タルヲ以テ木理ノ緻密木色等需要者ヲシテ望

ヲ充タスニ餘リアリ而シテ販路ノ如キハ内外ノ建築上缺クヘカラサルモノニ付年ト共ニ
産出ノ増加スル事明カナリトス云々

静岡縣濱名郡中ノ町寺田幸太郎出品杉大横解説書抄録

審査請求主眼 (上巻) 總テ人力ヲ借り造材スルトキハ費用多額ニシテ收支相償ハサルニ依
リ蒸氣力公稱十五馬力ヲ應用シ製材器械三臺ヲ据付以テ人工ト費用トヲ省キ廉價ヲ旨ト
シ需要満足ヲ得セシムル方針ヲ取り從業者日々苦心ノ結果地方ハ勿論帝國各都會及各地
ヨリ續々注文ヲ受ケ業務繁盛ヲ來タシ(下巻)

尙ホ同縣出品中ニハ神代杉ノ佳良ナルモノ若シクハ其産出ノ少ナカラサルモノ數點アリテ
他ノ二三府縣ヨリ出品セル同材ニ超逸セルヲ認ム由來同材ハ生立木ヨリ採レル木材トハ大
ニ其産出ヲ異ニスルモノニシテ地中ヨリ掘探シテ世ノ需要ニ供スルモノナルカ故人力ヲ以
テ其繁殖ヲ企圖シ得ヘキモノニアラス偶々其産出ノ尠少ナラサル地方ノモノ若シクハ好質
ノ材品又ハ採取ノ良法等アレハ以テ僅カニ一ノ産業トシテ見ルヲ得ヘキノミ此材ハ古來貴
重ナル用材トシテ顧客多ク亦其産出ノ箇所モ少ナカラスト雖モ色澤木理等眞ニ佳良ナルモ
ノハ甚タ得易カラサルモノナリトス左ニ本縣出品中ノ解説書ヲ登載シテ參照ニ資ス

静岡縣富士郡袖野村田中文助出品神代杉解説書抄録

産地土質及反別 静岡縣富士郡袖野村上稻子ハ富士山ノ西麓ニ在ル村落ニシテ大宮町ヲ
去ル僅カニ二里東西二山相迫マル其土地狹長ニシテ人家二百戸餘アリ稻子川其中央ヲ流

ル埋木工場ハ同地ノ字根岸ニアリ土質ハ青色粘土ナルヲ以テ埋木ノ色澤極メテ高雅加之
地形斜面ナルヲ以テ採掘ノ費用僅少ナリ埋没豫測反別約十五町步

埋木ノ原因 古代我地球ハ植物ノ著シク成長繁茂シタル時アリキ此時ニ當リ土地ノ噴火
震動或ハ洪水等ノ作用ニ因リ山岳ヲ毀崩シ植物ヲ地中ニ埋没セシメタリ其永ク地中ニア
ルノ間木材本來ノ色澤ヲ失シ別ニ一種高雅ナル淡黒色ノ光澤ヲ有スルモノ之ヲ埋木ト云
ヒ或ハ埋没セル時期ノ悠遠ナリシ意味ヲ以テ之ヲ神代杉ト稱ス

埋木ト其土質トノ關係 富士山麓ハ所々埋木ヲ採掘セル所アリト雖モ多クハ土質火成岩
ナルヲ以テ木材ノ色澤高雅ヲ缺キ随ツテ外觀ノ美ヲ損ス蓋シ色澤ノ良否ハ其土質ニ至大
ノ關係ヲ有スルコトハ實ニ爭フヘカラサル事實ニシテ色澤ノ高雅品質ノ良好ハ決シテ青
色粘土ノ外ニ求ムヘカラサルナリ

効用 建築用トシテハ重ニ天井板欄間及長押等建具用ニハ障子格子腰板入側杉戸木連格
子戸裝飾用ニハ寫眞掛暖爐隱シ屏風等器具用ニハ机本箱硯函箆笥置戸棚等ニシテ茶寮向
ニハ最モ雅致ヲ極ム

産出額 一箇年ノ採掘高約十五萬才以上但一才ト稱スルハ一寸四方長サ六尺ノ積ヲ有ス
ルモノ

三重縣 同縣ハ從來杉檜材等ノ産出地トシテ其名太々著シク且ツ其人造林ノ盛ニ行ハル、
コト最モ久シキカ故從テ其材品ニ於ケルモ亦見ルヘキモノ少シトセス然レトモ今回ノ出品

ハ其特産ノ全豹ヲ表現スルニ於テハ未タ十分ト稱スル能ハス只タ土井八郎兵衛出品ノ各種板材及角材等ハ同地方ノ特産ヲ示シ其造林保護利用及經理一切ニ關聯シ林業上實ニ好模範タルニ背カス同縣飯南郡小津芳藏出品ノ杉二間板及横材ハ品質良好ニシテ其製材法亦甚タ進境アルヲ認ム左ニ其産額及製材上ノ規模ヲ明ニスル爲メ解説ノ一部ヲ抄録ス(但土井八郎兵衛出品ニ關スル解説ハ林業方法ノ部ニ抄録セラルヘキヲ以テ此ニ掲ケス)

三重縣飯南郡松阪町小津芳藏出品杉二間板及横ノ解説書抄録

製造方法 實馬力六十二馬力ノ蒸氣機械ヲ以テ立鋸挽材機械一臺九鋸挽材機械三臺材木陸揚ケ用ウエンチ一臺ヲ運轉シテ製材ス而シテ汽罐ニ使用スル燃料ハ日々挽材ノ爲メニ生スル切レ端及オガクズ等ノ木屑ヲ用ヒ立鋸挽材機械ハ原料材ノ大小ト製品ノ如何ニヨリ幅六吋長サ五呎ノ鋸二十枚以上三十枚ヲ一時ニ運轉シ九鋸挽材機械三臺ノ内二臺ハ圓徑三呎ノ鋸ヲ用ヒ一臺ハ一呎六吋ノ鋸ヲ用ヒ立鋸ハ板製造ノ用ニ供シ九鋸ハ横小割類製材ノ用ニ供ス

製造品ノ數量價格及其販路 一箇年ノ製造高ハ板七萬二千五百坪横小割類七十六萬五千八百挺此金額拾壹萬參千六百圓ナリ販路ハ大阪名古屋最モ多ク東京京都及縣下之ニ次キ滋賀岐阜兩縣ヘモ販賣ス

大阪府 同府ハ出品點數モ少ナカラス其品質亦何レモ精撰シタル好良品ニシテ見ルヘキモノ多シト雖モ出品者ハ何レモ材木販賣業者ニシテ所謂採取製材ニ參與シタルモノ、出品ノ

ミニ屬ス而カモ惜ムラクハ其採取製材ニ於ケルモ別ニ特種ノ方法トシテ著シキ進境アルヲ見ス由來大阪ノ地タル木材生産地ノ各方面ニ對シ交通ノ便最モ宜シク木材集散地トシテ將來亦益々殷盛ニ赴クヘキノ地ナルカ故之カ採取製造ニ付テモ亦徒ニ只姑息ナル舊慣ニ染マズ益々生面ヲ開テ進境ヲ發展センコト希望ニ耐ヘサルナリ今回ノ出品中ニ就キ其解説書ニ依リ製材量及販路營業沿革等ノ著シキモノ二三ヲ抄録シテ參考ニ資ス

大阪府大阪市西區阿波堀通五丁目市田彌兵衛出品日向杉辨甲解説書抄録

製造方法 本材ハ最初立木ヲ撰擇スルニ最モ苦心シタルモノニシテ原產地ニ於テ挿技ヲ爲シ培養シ凡ソ百箇年ヲ經テ周圍目通り四尺乃至一丈ニ至ルヲ俟テ伐採シ之ヲ長サ二十尺乃至六十尺末口一尺ヨリ二尺位ニ製材ス是原木ノ該年數ニ達セサレハ赤身少ナク又年數過クレハ腐朽シ易キ虞レアルヲ以テ最モ適切ナル年限ヲ撰ミタルモノニテ又特ニ該地産ヲ好ム所以ハ土質氣候等ノ關係ヨリ他ノ地方ト異ナリ繁茂著シク一年二層ノ輪目ヲ生シ木質緻密ナルニ依リ該地ヘ出張シ充分原木ヲ撰定シテ其方法ヲ指示シ之ヲ製材セシム製造品ノ數量價格及販路 明治三十三年度ニ於テ百三十五萬才ヲ製シ九萬四千五百圓ノ收入ヲ得翌三十四年度ニ於テ百六十萬才ヲ製シ九萬六千圓ノ收入ヲ得翌三十五年度ニ至リ優ニ二百萬才ヲ製シ拾萬圓ノ收入ヲ見ルニ至ル

但一才ニ付三十三年度ハ七錢三十四年度ハ六錢三十五年度ハ五錢ノ價格トス販路重ナル處ハ吳鎮守府初メ臺灣及各造船所其他會社橋梁請負業者等ナリ

大阪府大阪市西區立賣堀南通四丁目尾崎清兵衛出品鹿兒島縣屋久島産
杉空天井板杉空落掛解説書抄録

製造額

明治三十二年	金貳萬圓	七百二十九箇
同 三十三年	金貳萬貳千四百圓	八百十五箇
同 三十四年	金貳萬四千圓	八百九十五箇
販路ノ擴張	明治三十二年ヲ單位トシ其増加ノ率左ノ如シ	
明治三十二年	一〇〇	一〇〇
同 三十三年	一一二	一一二弱
同 三十四年	一二〇	一二二弱

大阪府大阪市西區西長堀南通三丁目喜多河榮助出品鹿兒島縣熊毛郡
屋久島宮ノ浦岳薩摩杉空板解説書抄録

製造方法 該材ハ人モ知ル如ク入皮目廻蟲腐蝕等極メテ多キモノニシテ一度製材ノ法ヲ
誤ラハ殆ント廢棄ニ歸スヘシ依テ熟練ナル技師ヲ產地ニ派遣シ以上ノ諸難ヲ避ケ空目柱
目ヲ正シク挽割リタルモノナリ

製出額

自明治三十五年七月 至同 三十五年十二月	金拾貳萬圓	一萬二千枚
-------------------------	-------	-------

明治三十五年七月以前ニハ製材ニ著手セサルヲ以テ記載スルコトヲ得ス

大阪府大阪市南區横堀七丁目水谷清兵衛出品奈良縣奈良春日山産杉

天井板同縣吉野郡天川村大字洞川産梅柱解説書抄録

沿革 弊店ハ享和二年六月此業ヲ開始セルモノナリ當時一般ニ建築物ハ重キヲ其構成材
料ノ品質ニ置キタルヲ以テ從テ各製材業者モ各地ニ來往シ一方ニ良材ヲ探索スルト共ニ
製材方法ニ改良ヲ加ヘ工夫研究スルモノアリタレトモ一時需要者ノ嗜好野卑ニ走リ毫モ
其構成材料ノ良否如何ヲ問ハス單ニ外形ヲ以テ第一要素トスルニ至リ自然簡便ナル請負
經營流行セルヲ以テ自家製作ニ係ル良材ハ自カラ衰頽ニ傾キ非常ニ販路ヲ縮少セント雖
モ近來再ヒ其嗜好ヲ高メ漸次需要ヲ増加シ大ニ販路ヲ擴張スルニ至レリ近頃其柱或ハ空
目ノ珍奇ナルヲ以テ歐米人士ノ嗜好ヲ喚起スルニ至リ漸次増加ノ兆候ヲ呈シ來リタルヲ
以テ尙ホ海外ノ販路ヲ得ルニ至ラハ一層其製作額ヲ増加スルナラン

和歌山縣 同縣新宮材ハ古來其名高ク杉材ノ各種ヲ通シテ從來其產出太タ多大ナル聞ヘア
ルニモ拘ハラス今回ノ如キハ其出品點數多カラス唯板及挽材ニ於テ僅ニ若干點ノ見ルヘキ
アリシノミ左ニ解説中著シキモノ一二ヲ抄録ス

和歌山縣東牟婁郡新宮町田垣内富吉出品杉大木舞効用建築用壁ノ下
地ニ用フ同中板同極木同摺角解説書抄録

製造用品 公稱馬力三十馬力コンバウンドインジンコンデンス付

沿革 明治十七年東京淺草職工學校ニテ圓鋸器械ヲ製作シ其後三十三年ニ改築増大セリ

杉大木舞ハ弊工場器械設置スル迄ハ凡テ人力ノ他製方法ナキモノ、如ク人力ノミニテ製造シ來リシカ弊工場新設以來當地木材商ハ凡テ當工場ニテ器械ヲ以テ製造スルコト、ナレリ又中板ハ近來迄人力ヲ以テ挽立テ居リシモノナレトモ人力ニテハ實ニ高價ナル質ヲ要スルコト、ナリ且又販路次第ニ増加セルタメニ到底人力ヲ用ヒテハ入用丈ケノ品ニ應スルコト能ハサルニヨリ器械ニテ多額製産ス杉榿木ヲ器械力ヲ以テ製方ヲナスニ至リタルハ弊工場ヲ以テ當地ニテハ初メトス目今臺灣行キ最モ弊工場ニ注文多シ摺角ナルモノハ近年迄當地ニナカリシモノナレトモ近來臺灣地方諸建築用材注文次第ニ増加シ初メ人工ヲ以テ挽キ居リシカ人工ニテハ高價ニ付クヲ以テ弊工場圓鋸摺角用器械設置以來目今器械挽重モノナリ

和歌山縣東牟婁郡新宮町植松新十郎出品杉中板同中橫解説書抄録

製造用品 鋸鋸蒸氣機械

製造品ノ數量價格及販路 既往十箇年平均一箇年製造數量中板ハ二萬三千束中橫ハ一萬二千束販路ハ東京、神戸及臺灣等ヲ主トス

審査請求主眼 (前畧)中板及橫トシテ一般ノ需要ニ適合スル様漸次改良ヲ施シ云々横ハ丈ヲ一丈三尺五寸即チ普通ノモノヨリ五寸長クセシハ特ニ連結スルニ



圖ノ如ク

互ニ交錯セハ自然家屋ノ堅固ナルヲ思ヒ(中畧)十年前迄ハ我新宮地方ヨリノ産出ハ僅少ノ物ナリシカ追々需要ヲ増シ販路ノ擴張ヲ來セシモ尙ホ進テ愈々販路ヲ擴張セントス

鳥取縣 同縣ハ出品點數少カラス又良好ナル品質ノモノ比較的多キニ出テタルハ喜フヘシ

就中八頭郡大呂甚平出品ノ杉丸太ハ品質劣惡ナラス而カモ其解説ニ依ル時ハ祖先寛永ノ頃傳來專ラ造林事業ニ熱中シ多年自家所有ノ森林ヨリ木材ヲ産出セシカ明治初年ニ至リ更ニ一步ヲ進メテ自カラ實生苗ヲ栽培スルコトニ努力シ併セテ之ヲ他ニ向テモ誘導シ(同方ニテハ從來多クハ挿苗ノミニシテ實生苗ニ依ル造林ヲ行ハス)尙ホ進ンテ原野ヲ開キ細民ヲ使役シ是等ニ向テ造林方法ヲ教ヘ遂ニ今日ニ至リテハ實生苗ノ得策ナルコトヲ地方民ニ會得セシムルニ至レリト云フ以テ其事業ニ對スル一篤志家タルヲ知ルニ足ルヘシ又同縣日野郡白根覺治郎出品ノ杉洗丸太材各種ノ如キモ自家所有林ノ産材ニシテ品質甚タ良好ナルヲ見ル而カモ其産出額毎歲數萬本ニ及フト云ヘリ以テ其適地ニシテ將來ニ有望ナルヲ知ルヘシ

宮崎縣 同地方産出杉辨甲材ハ船舶用材及橋梁用材トシテ從來其名高ク一種ノ特用材トシテ需要亦少ナカラサルモノナルカ今回出品中同縣宮崎郡谷口正次郎出品ノ如キハ其材質造材共ニ太々好良ナルヲ見ル由來如此巨材ハ伐採運材共ニ容易ナラサルカ故徒ニ舊習ヲ墨守セシテ適宜其用途ニ應シタル造材ヲナシ若シクハ運材上ノ便宜ヲ計リ世ノ趨勢ニ伴ヒテ益々其特質上ノ價值ヲ維持シ特ニ本材ニ就テ生産者ノ注意ヲ要スヘキハ本材ノ用途ニ向テハ「ラレゴン」バイン所謂亞米利加松ノ好敵手ナルヲ以テ毎ニ伐採運材其他ノ生産費ヲ節約シ及フヘキ丈ケ價格ヲ低廉ナラシメテ外材ノ輸入ヲ排斥スルハ勿論更ニ進テ對岸清國ニ販路ヲ擴張センコト是ナリ

鹿兒島縣 同縣鹿兒島市淺田清八郎出品屋久杉材各種ハ大阪市ニ於ケル出品ト等シク鹿兒島大林區署所管國有林產出ニ係ル杉材ニシテ品質好良製材法亦佳適ナルヲ見ル其製造額一箇年四千五百箇此價格貳萬七千圓販路全國ニ普シト云フ以テ其斯業上ニ盡瘁スル處アルヲ見ルニ足ルナリ

高知縣 出品物中數點ノ良質ナルモノアリト雖モ惜ムラクハ材トシテノ品質及產額ニ於テハ秀逸ナルモノアルヲ見ス

德島縣 同縣ノ出品モ亦其佳良ナルモノハ主トシテ材木商ノ出品ニ係ルモノニシテ何レモ器械挽ニ依レルモノ多ク其木質材品共ニ見ルヘキモノアリ產額亦甚タ多大ニシテ且製材ノ改良ニ付テハ大ニ企圖スル所アリト云ヘルカ故能ク之ヲ保續シ得タランニハ一方ノ產地トシテ將來一大生面ヲ開クニ至ルヘシ左ニ其一二ノ解説ヲ抄録シテ參照ニ資ス

德島縣那賀郡平島村玉置幸三出品杉六步板解説書抄錄

製造用品 汽罐汽機立鋸機械目立機
製作品ノ數量價格及其販路

明治三十二年	一萬二千圓	價格	八千圓
同 三十三年	一萬四千圓	同	壹萬貳千圓
同 三十四年	一萬三千圓	同	九千八百圓
同 三十五年	一萬五千圓	同	壹萬五千圓

販路ハ主トシテ清國其他各國ヘモ擴張セリ

德島縣那賀郡平島村薩摩藤三郎出品杉四步板解説書抄錄

製造用品 汽罐汽機立鋸機械目立機
製造品ノ數量價格及販路

明治三十二年	一萬五十圓	價格	九千圓
同 三十三年	二萬圓	同	壹萬八千圓
同 三十四年	一萬五千圓	同	壹萬千參百圓
同 三十五年	二萬圓	同	壹萬參千圓

販路ハ主トシテ清國其他各國ヘモ擴張セリ

奈良縣 同縣吉野地方ハ杉檜人造林ヲ以テ名聲夙ニ全國ニ冠絶シ其木質及材品并ニ造材種類等一種ノ特色ヲ備ヘ產額亦甚大ニシテ應サニ木材界ニ於ケル一大勢力タルヲ失ハス即チ吉野森林トシテノ業況及其成績ハ殆ント他ニ比肩スヘキモノナキ價値ヲ有ス然リト雖モ其產出古來多クハ各種ノ丸太材及桶樽材等材種稍々單調ニシテ其用途ハ或方面ニ局限セラレ隨テ著シキ販路ノ擴張ヲ望ムヘカラサルモノ、如シ故ニ吉野森林ノ生産高ヲシテ現狀ニ止マサラシムルノ消極的方針ニ依ルトスルモ尙ホ輓近我國杉林業發達ノ狀況ヨリ推ストキハ漸次他地方ニ於テ第二第三ノ吉野ヲ生シ之カ爲メ供給上ノ競争者ヲ見ルニ至ルモ遠キ未來ノコトニアラサルヘシ況ンヤ吉野林業自身ノ發展ニ伴ヒ生産力ノ増加スルハ自然ノ結果ナ

奈良縣吉野郡上市町北村又左衛門出品杉丸太二小サシ、二小、三小サシ、二小中、三小、二中、三中、三小中、細十、八、六、四、解説書抄録

産地土質及反別 大和國吉野郡川上村大字神ノ谷土質砂質ノ壤土適潤ニシテ肥沃石灰ヲ含ム

反別二小サシ三町五反歩二小三小サシ五町一反歩二小中、三小五町一反歩二中、三中六町九反歩三小中、六町九反歩畑十、八、五町六反三畝歩六、二十三町四反歩四、十五町六反歩

種類及保護 種子ハ八十年生ノ母樹ヨリ採收シタルモノヲ三月下旬ヨリ四月上旬迄ニ苗圃ニ播種シ床換スルコト二回三箇年ヲ經タル後其苗木ヲ一町歩一萬本ノ割合ニテ三月頃植付タリ出品材二小サシハ明治三十五年四月上旬之ヲ間伐シ直ニ皮ヲ剝キ枝葉ヲ殘シテ水分ノ氣燥ヲ助ケシメ六月上旬之ヲ二間玉ニ小伐リ節打ヲナシ修羅及木馬ニ依リ山出シ土場ニテ筏ニ柵ミ水運ス出品材二小三小サシハ明治三十五年四月上旬之ヲ間伐シ直ニ皮ヲ剝キ枝葉ニヨリ水分ヲ蒸發セシムルタメ殊更ニ之ヲ剪ラス六月下旬頃ニ枝葉ヲ剪リ之ヲ二間又ハ三間ニ小伐リ節打ヲナシ之ヲ修羅又ハ木馬ニ依リ山出シ土場ニテ筏ニ柵ミ水運ス出品材二小中、三小ハ明治三十五年四月上旬之ヲ間伐シ直ニ皮ヲ剝キ枝葉ニヨリ水分ヲ蒸發セシムルタメ殊更ニ之ヲ剪ラス六月下旬頃ニ枝葉ヲ剪リ之ヲ二間又ハ三間ニ小伐リ節打ヲナシ之ヲ修羅又ハ木馬ニ依リ山出シ土場ニテ筏ニ柵ミ水運ス出品材二中、三中ハ明治三十五年四月上旬之ヲ間伐シ直ニ皮ヲ剝キ枝葉ニヨリ水分ヲ蒸發セシムルタメ殊更ニ之ヲ剪ラス六月上旬枝葉ヲ切リ之ヲ小切り二間又ハ三間ニ小切り節打ス(間伐木中優木ハ三間ニ劣木ハ二間トス)之ヲ修羅又ハ木馬ニ依リ山出ヲナシ土場ニテ筏ニ柵ミ水運ス本出品材二中、三中ハ明治三十五年四月上旬之ヲ間伐シ直

ニ皮ヲ剝キ枝葉ニヨリ水分ヲ蒸發セシムルタメ殊更ニ之ヲ剪ラス六月上旬枝葉ヲ伐リ之ヲ小伐リ節打ヲナス本材ノ如キ全長十二間ヨリ九間ニ至ル其木材ヲ或ハ二間又ハ三間ニ小伐リシ修羅又ハ木馬ニ因リ山出シヲナシ筏ニ柵ミ水運ス出品材三小中ハ明治三十五年四月上旬之ヲ間伐シ直ニ皮ヲ剝キ枝葉ニヨリ水分ヲ蒸發セシムルタメ殊更ニ之ヲ剪ラス六月上旬枝葉ヲ伐リ之ヲ小伐リ節打ス本材ノ如キハ全木ノ長サ十五六間若シクハ七八間アレハ其全長ニヨリ元木ハ三間ニ小伐リ木材トナシ末木ハ二小中トナス出品材細十、八ハ明治三十五年四月頃之ヲ間伐シ直ニ皮ヲ剝キ枝葉ヲ殘シテ水分ノ蒸發ヲ助ケシメ七月上旬始メテ枝葉ヲ拂ヒ二間玉ニ小伐リ節打ヲナシ修羅及木馬ニヨリテ山出シ土場ニテ筏ニ柵ミ水運ス細トハ吉野木材中酒造ニ適スル木材中ノ最小ナルモノニシテ其筏ヲ組織スルトキニ於テ第一ニ必要ナル木材ナリ細ト稱スルハ酒造容器ヲ製作スルノ木材中最小ナルトノ意味ヨリ商習慣上一般ノ稱呼トハナレリ又價格モ本材ヲ標準トシ(十)ハ本材ノ通常ニ倍ノ價格トナルカ如シ十二本ヲ柵ミ一床トスルモノナリ(十)ハ細ニ次キ太キモノニシテ十本ヲ柵ミ一床(八尺床)トナスヲ以テ名アリ(八)トハ一床ニ八本柵ムヲ以テ八ト稱ス出品材六ハ寛政年中雜木林ヲ更新シ植付ケタルモノナリ苗木ハ滿三年ノ良種ヲ一町歩ニ一萬本ノ割合ニ植付ス間伐ハ既ニ十三回行ヒタリ出品材ハ明治三十五年四月上旬之ヲ間伐シ直ニ皮ヲ剝キ枝葉ハ材中ノ水分ヲ蒸發セシムルタメ殊更ニ剪ラス夏ノ土用ヲ經過シテ木材ノ乾燥ヲ充分ナラシメ八月上旬始メテ枝葉ヲ拂ヒ二間玉ニ之ヲ小切り節打シ修羅木馬

ニ依リ山出シヲ行ヒ後ニ柵ミ水運ヲナス本材ヲ(六)ト稱スルハ六本ヲ柵ミ八尺幅ノモノ一床ヲ作ルヲ以テ商習慣上此名アリ本出品四ハ寶曆年間雜木林ヲ更新シテ植付タルモノナリ苗木ハ滿三箇年ヲ經タル良種ヲ撰ヒ一町步ニ一萬本ノ割合ニ植付ケ間伐ハ已ニ十三回行ヒタリ本材ハ明治三十五年四月上旬之ヲ間伐シ直ニ皮ヲ剝キ枝葉ハ其伐材中ノ水分ヲ蒸發セシムルタメ殊更ニ之ヲ剪ラス夏ノ土用ヲ經過シ木材ノ乾燥ヲ充分ナラシメ八月中旬始メテ枝葉ヲ拂ヒ剪リ之ヲ二間丸太ニ小伐リ節打ヲナシ修羅木馬ニ依リ山出シヲナシ後ニ柵ミ水運ヲナス本材ノ四ト稱スルハ四本ヲ柵ミ一床(幅八尺)トナスヲ以テ商習慣上此稱呼アリ

培養及保護 出品材二小サシハ植付後三箇年間毎年初夏及初秋ニ二回雜草ヲ刈取り其後二箇年間ハ毎夏ノ土用中下刈ヲナシ植付後七八年ニシテ始メテ枝打(ヒボ打ト稱ス)ヲ行ヒ十一二年目ニ再ヒ枝打シ十七八年ニ至リテ始メテ間伐ヲ行フ間伐ノ季節ハ毎年四月トス本材ハ第一次間伐中ノ優木ナリ出品材二小三小サシハ同上十七八年頃ニ初度ノ間伐ヲ行ヒ其後三年ヲ隔テ、又間伐ス本材ハ第二回間伐材中ノ主要ナルモノナリ本出品材二小中三小ハ同上十七八年頃初度ノ間伐ヲナシ其後三年ヲ經テ間伐シ又三四年ヲ經テ間伐ス本材ハ第三次間伐中ノ主要ナルモノナリ本出品材二中三中ハ同上ニシテ十七八年頃初度ノ間伐ヲナシ三年ヲ隔テ、間伐ヲ行フコト三回其後五箇年毎ニ二回之ヲ行フ本材ハ第五回間伐木中ノ優木ナリ本出品材三小中ハ同上ニシテ十七八年頃初度ノ間伐ヲ行ヒ其後三年

ヲ隔テ、三回之ヲ行フ本材ハ第四次間伐材中ノ主要ナルモノナリ本出品材細十ハ八同上ニシテ十七八年頃初度ノ間伐ヲ行ヒ其後三年ヲ隔テ、三回間伐ヲナシ樹木ノ優劣ヲ少ナクシ以テ整一ヲ計リ其後三回間伐ヲナシタルモノニシテ(十)ハ其七回間伐材中ノ優木ニシテ(八)ハ八十年生ノ木材ナリ出品材六ハ同上ニシテ十七八年頃始メテ間伐ヲ行ヒ夫ヨリ三箇年ヲ隔テ、三回五箇年ヲ隔テ、三回其後七八年又ハ十年毎ニ間伐ヲ行ヒ木材ノ優劣ヲ少ナカラシメ以テ木材ノ整一ヲ計リ樹冠ヲ均整ニシ徒ラニ枝ヲ張ラシメサル等以テ直幹良材ヲ得ルコトニ勉メリ出品材四ハ同上ニシテ十七八年頃始メテ間伐ヲ行ヒ其後三箇年ヲ隔テ、三回五箇年ヲ經テ三回夫レヨリ七八年又ハ十年毎ニ間伐ヲナシ木材ノ優劣ヲ少ナクシ以テ整一ヲ計リ樹冠ノ閉鎖ヲ均クシ木材ノ生長ヲシテ均一ナラシメ枝ヲ張ラシメス直幹良材ヲ得ルコトヲ勉メタリ

効用 出品材二小サシハ建築用材中樅木又ハ間柱トシテ使用ス出品材二小三小サシハ建築用材中樅木又ハ間柱ニ用フ出品材ハ二小中三小ハ建築用材中樅木又ハ足場丸太トシテ用フ三間ノ如キハ最多ク足場丸太其他建築用材トシテ主要ナルモノトス出品材二中三中ハ建築用材トシテ柱等ニ用フ出品板ハ三小中ハ建築用材トシテ用フ出品材細十八ハ酒造容器殊ニ樽丸ヲ製造スルニ用フ本材ハ木理通直硬軟宜シキヲ得ルヲ以テ割レ易ク且ツ酒造容器トシテ酒ノ浸入ヲ防クコト著シク又其材色淡紅色ニシテ適當ノ木香ヲ有スルヲ以テ酒香ト合シテ酒味ヲ醇良ナラシムルハ化學者及實地家ノ證言スル處ナリ該材中ヨリ赤

味ト白太ノ帯合スル部分(一部ハ邊材タリ一部ハ心材タル部分)即チ内稀ト稱シテ樽丸ノ隨一ナル物品ヲ製作スルコト多キヲ以テ灘其他ノ酒造家ハ競テ使用ス本出品材六ハ酒造容器殊ニ酒樽ヲ作ルニ最モ適當セリ本材ヲ以テ酒樽ニ製作スル時ハ其色淡紅色ニシテ適當ナル木香ヲ有スルヲ以テ酒味ヲ醇良ナラシメ其酒色ヲシテ酒固有ノ色ヲ保存セシメ又木理整然材質堅キヲ以テ酒液ノ滲出スルコトナシ出品材四ハ酒桶ノ蓋ヲ作ル原料トス酒造家ニ於テ如何ニ良好ノ酒樽ヲ以テ大桶ヲ作り酒ヲ貯藏スルモ其蓋ニシテ良好ナラサレハ酒味ヲ損スルニ至ルヘシ故ニ酒造家ハ桶ノ蓋ノ善良ナルヲ調製セントス而シテ大桶ノ口徑ハ大抵七尺六寸位ニシテ大抵ノ木材ナレハ其内狹マキヲ以テ繼合セ(ハギ)多ク從テ間隙ヲ生シ外氣浸入シ酒味ヲ損スルニ至ル然ルニ本材ヲ以テ板ヲ挽キ二枚又ハ三枚ハギトシ蓋ヲ作ルトキハ以上ノ如キ弊害ヲ除却シ得ルヲ以テ本材ハ大抵桶蓋ノ原料トシ又上等ナル四斗樽ノ栓トシテ使用シ或ハ上等ノ菓子箱ノ原料トシテ板板ヲ作ル

産出額 二小サシハ明治三十三年度二萬四千八百本同三十四年度二萬三千五百本同三十五年度二萬六千三百本二小明治三十三年度一萬六千八百本三十四年度一萬四千五百六十五本三十五年度六千二百本二小中ハ明治三十三年度六千二百本三十四年度五千三百三十二本三十五年度四千四百八十本三小ハ明治三十三年度一萬五千六百本三十四年度一萬二千二百八十本三十五年度一萬三千五百本二中明治三十三年度三千六百八十二本三十四年

度三千二十六本三十五年度二千七百六十五本三中明治三十三年度八千二百二十四本三十四年度一萬八十一本三十五年度七千二百三十六本三小中明治三十三年度一萬五百六十本三十四年度一萬二百八本三十五年度一萬五百二十八本細三十三年度三千五百八十四本三十四年度四千七百二十五本三十五年度四千八百二十五本(十)三十三年度四千五百五十三本三十四年度五千三百六十本三十五年度六千四百四十本(八)三十三年度一千七百二十八本三十四年度二千六十本三十五年度二千九百八本六、三十三年度一千三百五十三本三十四年度千九百九十七本三十五年度二千三十一本四、三十三年度百八十本三十四年度百六十本三十五年度二百四十本

審査請求主眼 二小サシハ吉野ニ於ケル間伐木中ノ最モ小ナルモノニシテ建築用極木トシテ其價格ノ低廉ナルニ因リ到ル處ニ賞讃セラレ

二小三小サシハ間伐木材ノ利用ナルヲ以テ建築用材トシテ需要セラレ、コト多ク殊ニ運搬法ヲ改善セシヨリ販路ヲ擴張シタル等ノ點

二小中三小ハ建築用材トシテ其價格ノ低廉ナルヲ以テ需要多キ點

二中三中ハ建築用材トシテ價格低廉ナルヲ以テ需要廣ク殊ニ殖林方法良シク間伐適度ニ行フタメ生長十分ナルヲ以テ元末ノ差少ナキ點

三小中ハ建築用材トシテ其價格ノ低廉ナルコト及殖林方法良シキタメ生長充分ナルヲ以テ三間丸太ハ元末ノ差少ナキ點

細十八、工藝的性質、特ニ樽丸トシテ木材ノ材質、年齡、木理、材色及木香ノ諸點及間材ノ整頓シタルヲ以テ木材ノ割裂シ易ク爲メニ樽丸ヲ製作スルニ便利ナルコト、其他材木ノ方法宜敷伐採後枝葉ヲシテ氣燥方法ヲナサシメタルヲ以テ木材ニ澁氣ヲ含ム等少ナク爲メニ酒味ヲシテ醇良ナラシムル點

六、酒造器殊ニ酒桶トシテ木材工藝的性質間伐良シキタメ其年輪整一ニシテ滲出ノ患ナキコト又伐採及小伐リノ時期宜敷タメ木材ニ所謂澁氣ナル水分ヲ含マサルヲ以テ酒味ヲシテ醇良ナラシムル點

四、木理ノ状態頗ル均整且ツ鮮美ナルハ殖林方法及間伐方法ノ善良ナルニ因ル等ノ點

奈良縣吉野郡龍門村阪本仙次出品吉野杉同材鑑同寫真自十四一解說書抄錄

產地土質及反別 產地大和國吉野郡小川、高見、龍門ノ三村、土質砂質壤土約十分ノ八ヲ占メ粘質壤土約十分ノ二ヲ混ス、反別百四十二町六反二畝歩但土地臺帳面ノ反別ニヨル實測反別不詳

種植及採取 移植三年乃至四年生ノ苗木ヲ苗圃ヨリ林地ニ移植シタルモノニシテ其植付ハ春四月之ヲ行ヒタリ採取本出品材ハ前記所有山林ニ於テ間伐材ヨリ採取シタルモノナリ而シテ明治三十五年四月之ヲ伐採シ外皮ヲ剝キ故ラニ枝葉ヲ存シ林中ニ乾燥シ同年十一月一定ノ長サニ切斷シタルモノナリ

培養及保護 培養最近ノ培養ニ係ル(第一號)山林ハ一町步約八千本ヲ程度トシ重ニ三角植

樹法ヲ採用シタリ移植後五箇年間ハ毎年二回下刈ヲナシ其後二箇年間ハ毎年一回下草及藤蔓ノ類ヲ刈リ取リ(第十二號)參看)十二年目ニ下枝ヲ打卸ロシ十五年目ヨリ間伐ヲ初メタリ其方法ハ病害樹又ハ枝葉ノ缺乏根株ノ組織不完全ナルモノ間隔ノ配置及鬱閉ノ適否ヲ精査シ間伐ヲ行ヒ年輪ノ整正材幹ノ無節通直ナランコトニ留意シ終始人工ニヨリテ以テ天然ヲ助ク(五十年林木寫真參看)保護野火類燒ノ危險アルモノハ防火線ヲ旋シ害獸ノ豫防ニハ稱樹ニアリテハ毛髮ヲ樹冠シ中樹ハ楡皮ヲ以テ幹部ヲ纏ヒ之ヲ防遏シ間伐ノ運用ト補付作業(假令ハ杉ノ純林ニトニヨリテ多少ノ風雪害ヲ豫防シ若シ之ニ罹リシ時ハ翌年樹液ノ流動期ニ先チ十五年生以內ノ林木ハ藥繩十五年以上ノ林木ハ亞鉛線ヲ以テ直ニ傾キタル林木ヲ原形ニ復シ保護ヲ全フセリ但第十號杉丸太全長百二十尺第五號杉丸太全長七十二尺アリ他ハ類推スヘシ

効用 出品材第四號マテハ重ニ建築用材ニ適シ五號以上ハ日本酒ノ容器ヲ造ルニ缺クヘカラサル効用ヲ有シ或ハ建築用ニ供スルモ其効決シテ渺ナカラス

產出額 毎年四千尺メヲ下ラス
褒賞 嘗テ博覽會又ハ共進會ニ出品シタルコトナシ依テ褒賞ヲ受ケシコトナシ
審査請求主眼 毎年一定ノ材積ヲ產出シ且其材ハ適當ナル間伐作業ノ結果ニヨリ年輪整正材幹無節ニシテ而モ通直色澤ノ淡紅ナル(出品材ノ橫斷面)即吉野杉タルノ名ニ耻チサルコト并ニ最近毎年二十萬本ヲ下ラサル杉楡苗ヲ林地ニ移植シテ以テ產額ノ増加ヲ畫策シ之

カ植付ヲナスヤ重ニ雜木林ヲ更新シ面積ヲ實測シ施業ノ方法ヲ立テ專ラ林業上ノ元費ヲ省キ山道ヲ開修シ以テ運搬上ノ勞力ヲ減シ森林經濟ト相待ツテ倍々斯業ノ改良發展ニ進メツ、現今ノ如キ比較的好良ナル成績ヲ得タリ是審査ヲ仰キ度主眼ナリ

京都府[△] 同府北山杉丸太材ハ古來特種ノ造林法ニ依ルモノニシテ丸太材トシテ其形狀及色澤并ニ筋ヲ包、メル一種肉付キノ具合等他ニ其比ヲ求ムヘカラサル佳點アリテ其妍麗ニシテ高雅ナル好ク裝飾的柱材等ノ用途ニ向テ賞用セラル、所ナリ今同ノ出品何レモ優良ニシテ其特色ニ於テハ殆ント遺憾ナキモノナルヲ認ム今左ニ其解説書ノ一二ヲ抄録シテ參照ニ資ス

京都府愛宕郡鷹峰材木商組合出品北山丸太北山小丸太一號ヨリ十五號

ニ至ル解説書抄録

産地土質及反別 京都府山城國愛宕郡鷹峰村所屬山林ニ栽培ス其土質ハ山地中ノ最沃土ニシテ濕氣深ク且ツ砂質ヲ帶ヒタル土地ヲ以テ最適當ノ培地トス其栽培反別通シテ凡ハ十五町餘歩トス

種植并ニ採收 本品ハ尋常播種法ニ依ラス大率子挿枝ノ法ニ依リ先ツ同種木二十年以上ノ最モ生氣滿々タル三四桑ヲ梢頭ヨリ一尺位ニ伐リ取り赤土ヲ以テ切り口ヲ包ミ梢頭ヲ切り棄テ五月中旬之ヲ畑地ニ植付ケ然ル後一回乃至二回尿水肥料ヲ施シ培養スルコト三年而シテ適當ノ山地ニ移植ス長押及桁ノ如キハ凡五十年乃至七十年床柱ノ如キハ四十年

小丸太ノ如キハ十五年乃至二十年位ヲ以テ伐材スルヲ適當トス其伐採期節ハ八月中旬ヨリ九月中旬トス但シ第十三號乃至第十五號ニ至リテハ八月上旬ヨリ三週間位ヲ伐採期トス

培養及保護 本品ノ培養法タル前項ノ如ク山地ニ移植スルヤ三年間ハ毎年二回其後五六箇年間ハ毎年一回雜草木ヲ刈除シ以テ生育力ヲ養助シ而シテ其後六七年ニシテ發育力最モ充分ナル下層ノ四五枝ヲ存シ置キ夫レヨリ以上ノ枝ヲ銳利ナル鎌ヲ以テ伐リ拂ヒ頂上數枝ヲ存スルノミトス其時期ハ四五月ノ候トス爾後三年毎ニ一回必ス枝伐リヲ爲スモノナリ而シテ殘留ノ下枝ハ支幹トシ本幹ト伴ヒ漸次發達シ其支幹ヨリ更ニ支幹ヲ生シ其用材ニ適合スルニ至ルモノニシテ幾十年ニ至ルモ同種ノ盡ルコトナク漸次伐採スルコトヲ得其材眞直正圓ナル喬木ニシテ長キハ十數間ニ至ルモノアリ是本品培養法ノ特長ナリトス而シテ第七號床柱(絞リ)ノ如キハ本品ノ別種ニアラスシテ全ク同種中ノ變性ニ係ルモノナリ

前項ノ如ク伐採期ニ達シタルトキハ其年一二月ノ候水氣ノ吸收ヲ防塞スルタメ枝縮ト稱シ梢頭ノ幾枝ヲ殘シ其他ノ枝ヲ悉ク伐リ拂ヒ材質ヲ硬固ナラシメ且ツ變色ヲ豫防スルニアリ而シテ八月中旬ヨリ九月中旬迄ニ伐採シ直ニ外皮ヲ剝キ取り梢頭ノ枝葉ヲ存シタル儘日光ニ曝スコト凡一週間許ニシテ用材適合ノ長サニ切斷シ而シテ其乾裂ヲ防クタメ鋸(前挽ト云フ)ヲ以テ木材ノ幹背ニ脊割ヲ施シ水氣ヲ除去セシメタル後細砂ヲ以テ洗滌シ以

第二部 建築土木其他工事用ノ木竹材

テ製造ヲ終ルモノナリ而シテ第一三號乃至一五號ノ小丸太ノ如キハ脊割ヲ用セサルモノトス

本品ハ長細幹真直ナル圓材ニシテ十數間ノ長キ毫モ屈曲セス木理精通材質堅緻且ツ本末細大ノ差異極メテ少ナク第一號二號ハ長押ニ第三號乃至第六號ハ桁ニ第七號乃至第一二號ハ床柱ニ第一三號乃至第一五號ハ掉縁又ハ垂木ノ用材トス其色澤美麗鮮白ニシテ幾年ヲ經ルモ變色セサルノミナラス朝夕手入ヲ怠ラス綿布ノ類ヲ以テ常ニ拭淨スレハ逐年光澤ヲ増ス建家用材中高尙優美雅致ノ上位ヲ占ムルモノト云フヘシ是本品ノ特色ナリ故ニ逐年需要ヲ増加シテ販路大ニ擴張シ内地全國ニ輸出スルニ至レリ

產出額數量及價格 本品ト同種ノ物品產出額量及價格

明治三十三年產出總額

七萬本

此價格金四萬貳千八百圓

內譯

第一號乃至第二號	三百本	此價格金壹千八百圓
第三號乃至第六號	三千八百本	同 壹萬壹千四百圓
第七號	四百本	同 貳千四百圓
第八號乃至第一二號	三萬五千五百本	同 貳萬壹千五百圓
第一三號乃至第一五號	三萬本	同 五千七百圓
明治三十四年產出總額	九萬一千本	此價格金五萬四千九百圓

內譯

第一號乃至第二號	三百五十本	此價格金貳千參百圓
第三號乃至第六號	四千本	同 壹萬參千圓
第七號	四百五十本	同 參千圓
第八號乃至第一二號	三萬八千二百本	同 貳萬五千六百圓
第一三號乃至一五號	四萬八千本	同 壹萬壹千圓
明治三十五年產出總額	十萬五千本	此價格金七萬五百圓

內譯

第一號乃至第二號	三百五十本	此價格金貳千五百圓
第三號乃至第六號	五千本	同 壹萬八千圓
第七號	五百五十本	同 四千圓
第八號乃至第一二號	四萬四千本	同 參萬貳千圓
第一三號乃至第一五號	五萬五千本	同 壹萬四千圓

褒賞 明治二十八年七月第四回內國勲業博覽會ニ於テ褒賞受領ス

審査請求主眼 本品ハ長細幹ニシテ真直正圓不撓本末細大ノ差異少ナク且品質堅緻美麗優雅ノ特色ヲ有シ逐年產額ヲ増加シ需要供給ノ途大ニ擴張セシ等ノ點ニ於テ特ニ審査アラントヲ望ム

第二部 建築土木其他工事用ノ木竹材

京都府葛野郡小野鄉村日下部大助出品北山丸太、北山垂木丸太解説書抄録

産地土質及反別 産地ハ京都府山城國葛野郡小野鄉村大字小野地勢ハ二十五度乃至三十度ノ傾斜地土質ハ花崗岩質埴土ノ濕氣アル肥沃ナル地ニシテ反別百餘町歩種類及苗木培養并ニ手入保護法 種類ニハ本白(ほんじろ)峯山白(みねやまじろ)及鬼灯白(おにぢり)等(うづきじろ)ノ三ツアリ而シテ之カ苗木ノ培養手入保護法ハ別冊説明書ノ如シ造林ノ特色林木ノ効用并製材法 苗木ハ主トシテ挿木ニ因リテ作ルモノニシテ其挿穂ハ品質良好ナル生氣ノ最モ盛ナル親木ノ枝ヲ切取り玉挿法ニ因リテ苗木ヲ仕立テ林地ハ肥沃ナル濕氣アル處ヲ撰ヒテ植付ケ六七年ヲ經過セシ時臺株トナスヘキタメ地上二尺内外ニ生セル下枝ノ强健ナルモノ數本ヲ殘シ夫ヨリ上部二尺許リノ間ニアル枝ヲ打チ拂ヒ而シテ爾後垂木材トナスヘキモノ亦ハ隔年ニ柱材トナスヘキモノニアリテハ四年毎ニ二三枝ツ、打チ下シヲナシ尙ホ上枝中過大ニ繁茂セルモノアルトキハ材幹偏圓屈曲シ且ツ枝痕ノ快癒容易ナラサル處アルヲ以テ枝打ヲナス毎ニ枝振りノ如何ニ注意シ若シ如斯偏大ノ枝アルトキハ之ヲ中途ヨリ切斷シ以テ枝條ノ擴張ヲ平等ナラシメ眞直正圓ニ成育ヲ期スル如クナシ又臺株トナス可キタメ下部ニ殘存セシムル下枝ハ餘リ伸長スルトキハ其萌芽力ヲ減殺スルノ恐アルヲ以テ其梢頭ヲ切り去リ以テ新芽ヲ盛ンニ萌生セシムルカ如クナス等懇切周到恰モ園藝的林业ヲ施スモノナリ爲メニ其林木眞直ニシテ末口ノ下ラサル細長正圓無節ノ良材トナリ而カモ年輪緻密ニシテ材質固ク之ヲ洗ヒテ木肌白ク永久不變

ノ光澤アル此故ニ床柱茶室柱軒樞其他裝飾的建築材トシテ世ニ貴重愛用セラレツ、アル所以ノモノナリ而シテ其作業タルヤ一株ノ臺株ヨリ十數本萌生セシメ順次擇伐更新セシムルヲ以テ連年之カ收穫ヲ見ル事ヲ得小資本主ト雖モ能ク之ヲ經營シ得ルノ利アルモノナリ

製材法ハ別冊説明書ニ在リ

産額 一箇年柱材用丸太二千本垂木材丸太二千本價格金貳千七百圓

褒賞 明治十五年大日本山林協進會ニ北山白杉丸太培養ノ説明書ヲ提出シ時ノ農商務大臣西郷從道閣下ヨリ褒賞トシテ銀杯一箇金參圓授與セラレタリ

審査ノ主眼 木肌ノ純白ニシテ變色セサルコト

眞直ニシテ末口下ラサル細長正圓無節ノ加カモ年輪緻密ニシテ材質固キ丸太材ナルコト福井縣 同縣出品ハ板材角材及挽割材等ノ諸種ニ於テ其點數甚タ多ク佳良ナルモノ少ナカラス殊ニ板材ハ總ヘテ能ク品種ノ整備スルヲ見ル就中赤無地板白柰板耳白板材等ノ如キハ各其所要ノ用途ヲ有スルモノニシテ品質ノ適良ナル製板ノ好當ナル寔ニ賞揚スルニ足ルヘキナリ而カモ亦産額太タ少ナカラサルモノアリト云ヘリ以テ是等産地ノ大ニ杉材ニ適當ナルヲ認ム將來益々造林ニ盡瘁シテ佳良ナル産材ノ愈々其多キヲ加ヘンニハ杉林业トシテ一方ニ窮タルコト難カラサルヘシ

官廳出品 同出品中ニ於テ最モ注目ヲ要スルハ秋田大林區署ノ出品ニ係ル幅廣榿盤三方榿

角柱板寸甫等ニシテ同署所管ノ杉林ハ數十萬町歩ニ涉リ其蓄積未タ詳ナラスト雖モ年伐量約五十萬尺メヲ下ラサルヘシト云フ以テ其無比ノ大材源タルヲ知ルニ足ルヘシ而シテ同所管杉林ハ概千百數十年生ニシテ密立鬱茂眞ニ天然林ノ美觀ヲ極メ幹圍一丈ニ及ヒ長サ三十間枝下十餘間ニ達スルモノ少ナカラス販路全國ニ普ク用途亦太々廣ク如何ナル材樣トナスモ之ニ適セサルナシ其木理ノ密直ニシテ色澤ノ美麗ナルハ以テ高尚ナル建築用材ニ賞用セラル、所ナリ今回ノ出品ハ其解説ニヨルニ殊更ニ良材ヲ撰フコトヲナサス普通ノ品質ヲ示シ以テ供給上ノ見本トナスニアリト云ヘリ故ニ其木理色澤等必スシモ好良偉ヒ稀レナルモノニアラスト雖モ秋田杉ノ特色ハ其大森林中ニ密立セルモノナルヲ以テ選材少ナク木理直通ニシテ材質硬惡ナラサルハ好ク各種ノ用途ニ適スル所以ニシテ本出品ハ其主ナル特質ノ一斑ヲ示シタルモノトシテ佳良ナルヲ認ム

青森大林區署出品ノ杉四方柱柱外數點ハ材質秋田大林區署出品材ト伯仲ノ間ニアルモノニシテ其生産ノ地亦相距ル甚ク遠カラス林相殆ント相如ケリ當署所管杉林ノ占領面積ハ約九千町歩ニ涉リ蓄積約八百萬尺メ年伐量約八萬尺メヲ供給シ得ヘシト云ヘリ是亦良好ノ杉產地タルヲ失ハサルナリ

宮城大林區署出品杉柾板ハ鬼首ノ自生杉ト稱シ同地方ニ於テハ良質ヲ以テ著名ナル字須金嶽園有林所産ノ材ニシテ樹齡約三百年目通直徑三尺長サ九十六尺ノモノヨリ資レリト云フ同林ハ約四十町歩ノ間ニ群生若シクハ點生シテ約其三分ノ一面積ヲ占領スト云フ故ニ其産額敢テ著シキモノアルニアラスト雖モ材質ハ極メテ美麗ニシテ木理色澤共ニ甚ク佳良ナリ誠ニ特産タルノ名ニ背カス建築器具等總テ高尚ナル用途ニ向ツテハ頗ル其適材タルヲ認ム

東京大林區署出品杉柾材外數點ハ同地方杉材用途ノ一斑ヲ示シタルモノニシテ其品質適良ニシテ材樣亦不可ナラサルヲ認ム

岡山大林區署出品杉柾目板外數點ハ同地方ニ於テ但馬ノ妙見杉ト稱シテ最モ貴重スル處ノ同署所管字妙見山園有林所産材ニシテ樹齡約三百四十年目通徑五尺五寸長サ二十五間尺四ノモノヨリ探レリト云フ同林ノ總材積ハ約六十萬尺メアリ尙ホ他ニ十數萬尺メヲ有スル美林アリト云フ本品ハ其色澤木理ノ美良ナル殆ント他ニ其比ヲ見サル所ニシテ天井板柱帶戸(帶戸トハ板戸ニテ横棧木ナク其中央ニ帶狀ノ横木ヲ入レ板ヲ嵌メ込ミタルモノナリ)鏡板其他特殊ナル建具器具等ニ用ヒテ殊ニ適材ナルヲ認ム

廣島大林區署出品杉柾板外數點ハ同署所管惠下山園有林所産材ニシテ産額甚ク大ナラス品質亦特色アルニアラサレトモ好良ナル材品ニシテ中國地方緒山禿峰ノ間ニ此良材所産ノ美林アルハ大ニ注目ノ價値ヲ有スルナリ

大阪大林區署出品杉柾角材ハ紀州方面所産材ノ品質トシテハ普通ノモノニ屬シ種々ノ挽割物若シクハ板等ノ資材トシテ不可ナラサルヲ認ム

熊本大林區署出品杉丸太材ハ其挿穂杉タルノ品質ヲ示スモノニシテ木理色澤等特ニ美良ナ

ルニアラスト雖モ普通材トシテ十分其用ニ適シ敢テ缺點アルヲ見ス

高知大林區署出品杉柾天井板外數點ハ同署所管魚梁瀨國有林所産ニシテ樹齡約二百八十五年目通徑四尺二寸全長七十八尺ノモノヨリ資リ土佐産杉材ノ品質及用途ノ一端ヲ示スニアリト云フ本品ハ材質極メテ好良ニシテ木理ノ直通セルハ割剝ニ便ナルヘク色澤ノ美麗ナルハ各種裝飾的用料トシテ頗ル適當ナルヲ認ム同署管内杉總材積約千四百七十七萬尺メ年伐量十一萬尺メニ出ツヘント云ヘリ亦以テ其著シキ材源タルヲ失ハサルナリ

鹿兒島大林區署出品屋久杉板材及角材ハ頗ル長大ナルモノニシテ同材ハ同署所管屋久島宮浦國有林内ニ於テ天然ノ雜木林中ニ混生シ其蓄積約十萬尺メヲ有シ樹齡ハ凡ソ三千年以上ヲ經タルモノ少ナカラス本品ハ樹齡約二千五百年直徑六尺全長七十三尺ノ資材ヨリ採レリト云フ本材ハ一ノ著名ナル特産ニシテ他ニ其類ヲ見ス材質最モ美麗ニシテ品位高尚且ツ保存久シキニ耐ユルヲ以テ種々ノ用途ニ適スヘント雖モ特ニ貴重材トシテ粧飾用ニ需要多シ本品ハ屋久杉材トシテ特ニ優良ナルモノニアラスト雖モ其大材ナル點ニ於テ逸品タルヲ失ハス

屋久杉板



鹿兒島大林區署出品



皮毛陳列ノ光景

北海道産品



ルニアラスト雖モ普通材トシテ十分其用ニ適シ敢テ缺點アルヲ見ス
高知大林區署出品杉柾天井板外數點ハ同署所管魚梁瀨國有林所産ニシテ樹齡約二百八十五
年目通徑四尺二寸全長七十八尺ノモノヨリ資リ土佐産杉材ノ品質及用途ノ一端ヲ示スニア
リト云フ本品ハ材質極メテ好良ニシテ木理ノ直通セルハ割剝ニ便ナルヘク色澤ノ美麗ナル
ハ各種裝飾的用料トシテ頗ル適當ナルヲ認ム同署管内杉總材積約千百四十七萬尺メ年伐量
十一萬尺メニ出ツヘシト云ヘリ亦以テ其著シキ材源タルヲ失ハサルナリ

鹿兒島大林區署出品屋久杉板材及角材ハ頗ル長大ナルモノニシテ同材ハ同署所管屋久島宮
浦國有林内ニ於テ天然ノ雜木林中ニ混生シ其蓄積約十萬尺メヲ有シ樹齡ハ凡ソ三千年以上
ヲ經タルモノ少ナカラス本出品ハ樹齡約二千五百年直徑六尺全長七十三尺ノ資材ヨリ採レ
リト云フ本材ハ一ノ著名ナル特産ニシテ他ニ其類ヲ見ス材質最モ美麗ニシテ品位高尚且ツ
保存久シキニ耐ユルヲ以テ種々ノ用途ニ適スヘシト雖モ特ニ貴重材トシテ粧飾用ニ需要多
シ本品ハ屋久杉材トシテ特ニ優良ナルモノニアラスト雖モ其大材ナル點ニ於テ逸品タルヲ
失ハス

屋久杉板



鹿兒島大林區署出品



皮毛陳列ノ光景

北海道廳出品

扁柏 松材

扁柏材ハ從來本邦重要材中ノ大宗トシテ其材質ノ鞏密ニシテ強堅ナル其木理ノ直通ニシテ順和ナル其色澤ノ淡白ニシテ鮮麗ナルハ寔ニ木材品位ノ上乘ニ位スルモノニシテ即チ高尙優雅ナル建築器具等ノ總テニ向テ最モ其用ニ適シ又其加工ニ輕易ニシテ且能ク久シキニ堪ユルノ特性ハ如何ナル用途ニ向テモ幾ント適セサル所莫シ然レトモ從來多クハ之ヲ貴重ナル用途ニノミ使用シ他ノ材ヲ以テ代用シ得ル場合ノ如キハ濫リニ之ヲ使用セサルカ如キハ以テ本材ノ如何ニ重用セラレ、乎ヲ推知スルニ餘リアリト云フヘシ而シテ本材ハ本邦森林植物帶上所謂溫帶ニ於テ其郷土ヲ有スルカ故本州ノ大部ハ一般ニ其適產地タルニモ拘ラス近來著シク其産材ヲ減シ纒ニ二三地方ニ於テ人造林所産ノモノアルニ過キス然モ其額必スシモ少カラサルニアラスト雖モ多クハ所謂小角類ニシテ長大ノ良材ハ殆ント皆無ト云テ可ナリ古來重用材トシテ最モ多クノ需要ヲ有セシ所謂丸太材等ノ好良ナルモノニ至テハ何レノ木材市場ニ於テモ逐年其形影ヲ止メサラントスルニ至レリ此間ニ在テ僅ニ其産材ノ佳良ト保續トニ於テ躰擧ヲ専ラニスルハ木曾御料林ノ外一二ノ國有林アルニ過キス今ヤ需要益々増加シ用途愈々其多キヲ加フルノ時ニ當リ此好簡材種ヲシテ斯ノ如キ寂寞タル光景ニ在ラシムルハ極メテ歎惜ニ耐ヘサル所ナリ今回ノ出品ノ如キモ即チ端ナク此悲況ヲ表出シタ

ルモノニシテ出品點數ニ於テ極メテ少數ナリシノミナラス其材種材質共ニ甚ク見ルヘキモノナク偶々二三ノ好良ナルモノアレハ即チ御料林園有林ノ所産ニ係リ民林産出材ノ良品トシテハ僅ニ三重奈良地方ニ於ケル丸太材、小角材ノ若干點アルノミ本邦有用材中ノ重要ナルモノトシテハ寔ニ其不振ナルヲ嘆スルト同時ニ斯業者ノ一顧ヲ望マサルヲ得サルナリ

松材ハ全國到ル處殆ント之ヲ産出セサルノ地ナク山岳林ニ平坦林ニ將々天然林ニ人造林ニ最モ多ク此樹種ヲ有シ本邦産材中其蓄積ノ大ニシテ又年々ニ於ケル増殖量ノ尠ナカラサルハ殆ント他ニ比肩スヘキモノアラサル所ナリト雖モ若シ夫レ其好良ナル林相ヲナセルモノ若シクハ大面積ニ涉リテ鬱生セルモノ等ヲ求ムレハ是亦殆ント指ヲ屈スルニ過キス從テ其材品ノ優位ニアルモノ少ナク産額モ亦或ル纏リタル數量ヲ得ルコト難シ而シテ翻テ木材ノ用途如何ヲ顧レハ他ノ材種ニ比シテ最モ多端ナルモノニシテ例ヘハ棟梁ノ大材ヨリ土工杭木等ノ粗材及建具器具ノ挽材板材ニ至ルマテ一トシテ之カ適セサル所ナリ從テ其需要亦極メテ多大ナルモノアリ而カモ木材ノ如キハ材品ノ高下ニ依リテ各別ニ其用途ノ適スル所ヲ有スルモノナルカ故單ニ材質ノ如何ノミヲ以テ直ニ其産物トシテノ價值ヲ定ムヘカラス再言スレハ松材ハ其如何ナル用途ニモ關スヘキ良質ヲ有スルモノハ勿論其然ラサルモノ即チ材質粗惡堅剛ニシテ優麗ナル建築材、器具材等ニ適セサルモノト雖モ棟梁材若シクハ土工用材トシテ適スルモノナルトキハ必スシモ之ヲ擯斥スヘカラス或場合ニ於テハ反テ之ヲ以テ松材ノ特色トシテ重用スルコトナキニアラス故ニ木材ニ就テノ要點ハ成ルヘク其之ヲ須用

スルコトノ多額ナル用途ニ向ツテ適スヘキ材品ヲ可ナリトナサ、ル可ラサルナリ而シテ近來是等ノ適材若シクハ其如何ナル用途ニモ適スヘキ好良材ハ漸ク其供給力ヲ減シ之カ需要者ヲシテ轉々浩歎ニ禁ヘサラシムルモノアリ此現象ハ林業界ニ於テモ將々木材界ニ於テモ大ニ留意ヲ要スヘキ所ニシテ今回ノ木材出品ニ於テモ其出品數甚ク尠シテ而カモ其特ニ好良材ト目スヘキモノハ極メテ少ナク材樣ノ如キモ多クハ板子及板類等ニシテ適良ナル角材若シクハ挽割材等ノ頗ル稀少ナリシハ甚ク遺憾トスル所ナリ

檜松材今回ノ出品中奈良、三重、靜岡、京都等ニ於テハ各其特色ヲ顯ハシ若干ノ優良ナルモノヲ出セリ故ニ已上一府三縣トモ今回各一名二等賞格ニ入り其他大阪ニ茨城ニ長野ニ巖手ニ廣島ニ和歌山ニ宮崎ニ何レモ優品ヲ出陳シ三等賞格ニ入りタルモノ七名ヲ出セリ尙ホ愛知、青森、福井、島根、徳島、愛媛、高知、大分等ノ各縣ニ於テ若干ノ褒狀受領者ヲ出セリト雖モ此須要ナル扁柏、松兩種材ニ於テ如此ノ成績ニ過キサリシハ頗ル遺憾ナリトナサ、ルヘカラス希クハ次回ニ於テハ益々其發達進歩ノ成績ヲ顯著ナラシメ此種ノ有用材ヲシテ長ヘニ其利用ノ途ヲ啓發セシメンコトヲ切望ニ堪ヘス左ニ今回出品セシ各府縣別出品點數并ニ授賞數ヲ掲ケ尙其主ナル點ニ就テ細評スル所アルヘシ

扁柏松材府縣別出品點數出品人員及授賞數一覽表

府縣別	出品點數	出品人員	授賞數			計	備考
			金牌	銀牌	牌		
京都	一五	七七				二	
大阪	一二	七七				一六	
茨城	一一	七				四	
奈良	四	三				二	
愛知	三五	二二				一〇	
滋賀	三	二				一	
長野	三	二				一〇	
岐阜	八	七				二	
山形	一	三				〇	
福島	一七	四				二〇	
鳥根	三	四				〇	
島根	六	三				一	
廣島	二	六				一	
和歌山	四	一				一	
徳島	三	四				二	
愛媛	四	一				一	

高知	五	三				一	
大分	四	四				二	
宮崎	九	四				四	
合計	一六五	九四	三	九	二	四五	

奈良縣 著名ナル同縣人造林中ニハ扁柏モ亦太ク少シトセス杉材ト共ニ大ニ世ノ賞讃ヲ博スル所ナリ今回同縣船津彌八郎出品ノ楡丸太數點ハ即チ自家人造林所産ノモノニシテ人造林ニ依テ此種ノ材品ヲ産出シ得ルコト先ツ以テ推賞スルニ足ルヲ見ル材質太ク佳良ニシテ材様亦之ヲ挽材トナシテ各種ノ高等建築材等ニ適スヘシ唯惜ムラクハ材ノ大サ此種ノ材様トシテハ稍々未タ小ナルヲ免カレス爲メニ用途ノ上ニ限ラル、所ナキヲ保セサルナリ同人ノ解説書ニヨレハ産地ハ大和國吉野郡小川村大字鷲家口ニシテ土質ハ肥沃ナル小石交リノ黒土ニ少量ノ石灰分ヲ含ミ反別二十五町歩ヲ有ス種子ハ約一百年生ノ母樹ヨリ十月中旬ニ之ヲ採取シ三月下旬ヨリ四月初旬マテノ間ニ苗圃ニ播種シ三年若シクハ四年ヲ經テ能ク發育シタルモノヲ撰擇シテ三月頃山林ニ移植スルモノトス而シテ山植ハ一町歩ノ面積ニ約一萬本ノ苗ヲ植付概テ十箇年間ハ每年下草及蘆草等ヲ刈取ルモ十年以後樹木ノ繁茂スルニ隨ヒ下草ヲ刈取ルノ必要ナク只二十年生ニテ二三回枝葉ヲ拂ヒ蘆草ヲ除クヲ以テ足レリトス其後ハ年々適宜ニ間伐ヲ爲シ百十年ニ至リ最初植付ケタル一萬本カ減シテ三百本乃至四百本ノ立木ニ過キササルヲ以テ適度トスト云ヘリ同人最近三箇年間ノ産額ハ明治三十三年ニ八

百本同三十四年ニ六百五十本同三十五年ニ六百本ナリトス同人ハ今回二等賞ノ賞格ニ入り扁柏材出品中ニ於テハ無上ノ優賞ヲ博シタリ右ノ外今回褒狀ヲ受領セシ同縣吉野郡下市村前山五平ノ檜床柱ハ天然ノ形體ヲ損セサル一種ノ磨丸太材ニシテ雅趣アル床柱用等ニ適スヘク品質不可ナラス最近三箇年間ノ産額ハ明治三十三年ニ五千本同三十四年ニ七千本同三十五年ニ一萬二千本ナリト云フ又同縣同郡上北山村本郷組合總代奥田利平及同縣宇陀郡寶生村稻田春吉ノ出品ハ共ニ檜板ニシテ最佳品ナリ殊ニ後者ハ幅廣ク質美ニシテ檜板トシテハ幾ント缺點ナキ材品タルヲ認ム前者ハ最近五箇年平均一年七百束後者ハ三十五年ニ四百駄ヲ産出セリト云フ以上三人共ニ植栽培養等ハ前キニ記セシ所ト大同小異ナルヲ以テ之ヲ省畧スヘシ希クハ將來益々人造林ノ盛況ヲ致シ好良ナル扁柏材ノ産出多大ナランコトヲ切望ニ耐ヘサルナリ

三重縣 同縣北牟婁郡地方ハ奈良縣吉野地方ト共ニ良林ニ富ミ殊ニ多年人造林ノ良績ヲ以テ名アリ就中其産材檜小角ハ所謂尾鷲材等ノ稱アリ夙ニ世ノ賞用ヲ博スル所ニシテ其産額亦甚タ多ク本邦建築用材中一種ノ有名ナルモノナリトス今回二等賞ノ優等賞格ニ入りシ同縣北牟婁郡船津村松永忠兵衛出品ノ檜小角材ハ品質太々適良ニシテ即チ同地方産材ノ特色ヲ表ハシテ遺憾ナキモノタルヲ認ム磨丸太材モ亦頗ル佳良ニシテ著シキ缺點ナキモノナリ又同人出品赤松皮付磨丸太モ太々好良ニシテ柱材等特殊ノ用途ニ向ツテ極メテ適品タルヲ認ム以上何レモ數點ノ出品アリテ出品上ノ選擇亦太々其當ヲ得タルヲ見ル同人出品解

説書ハ植伐培養保護ヲ初メ間尺種別運搬法産額價格等詳記セルモノニシテ參考ニ資スヘキ點少ナカラサルカ故左ニ之ヲ掲載スヘシ尙ホ該解説書ハ扁柏松ノ外杉ニ關スルコトヲモ併記シアルヲ以テ特ニ其儘茲ニ轉載ス看者幸ニ之ヲ諒セヨ右ノ外同縣ヨリ出品シテ褒狀ヲ受領セシハ員辨郡十社村川瀬助右衛門ノ檜板ニシテ其材質色澤共ニ太々佳良ナルニアラスト雖モ一種ノ用途ニ向テ亦必スシモ適セサルニアラストヲ認ム同人ハ其先享保年間ヨリ植林ニ從事シ爾來銳意之ニ盡瘁シ爲メニ附近ニ於ケル林相ヲ更メ大ニ用材ノ供給ヲ増シ一面ニハ之ヲ以テ土砂ノ崩壞水源ノ涸渴ヲ防止シ又地方ニ育苗ノ事ヲ誘獎セシ等其効績洵ニ少ナカラサルモノアリ其産材額ノ如キハ敢テ多カラスト雖モ多年致々トシテ斯業ニ精勵セルノ點ハ又以テ大ニ推賞スルニ足ルナリ同人ハ明治十五年大日本山林共進會ヲ初メ前回及前々回ノ博覽會ニ出品シ共ニ受賞ノ榮ヲ負ヒ其他斯業上ニ關スル功勞ニヨリテ受賞セシコト少ナカラスト云ヘリ尙ホ將來益々奮勵努力シテ以テ愈々其効績ノ顯著ナランコトヲ希望ニ耐ヘサルナリ

三重縣松永忠兵衛出品檜杉角檜杉松丸太及檜杉皮解説書抄録

部	類	番	號	品	名
二	九	二	一	檜	七尺四寸角
二	九	二	二	檜	十尺四寸角
二	九	三	三	檜	十四尺四寸角

三重縣伊勢國北牟婁郡尾鷲町

大字尾鷲南浦地内反別八町九畝歩

大字尾鷲中井浦地内反別一町四反三畝八歩

採取反別ニ至リテハ樹ノ生長度合ト年ノ景氣良否トニヨリ一定スルコトナシト雖モ毎年春秋兩期ニ於ケル伐採ノ面積ハ少ナキ時ニ於テ二町歩ヲ下ラス多キ時ニ於テ八町歩ヲ超ヘス

種植及採取 杉檜ハ毎年三四月ノ頃松ハ毎年二三月ノ交ニ於テ前年伐採シタル跡地或ハ新規開拓地へ苗木ヲ移植スルニアリテ凡ソ四十年間ヲ一期トナシ伐採ス其順序等左ノ如シ

杉檜及松ノ種子ハ毎年秋季最モ發育ノ完全ナル四十年乃至五十年生ノ立木ニ就キ成熟セル實ヲ取リテ日光ニ乾スコト一週日間位ニシテ其毬果ヨリ脱出スルモノヲ收メ精撰ノ末濕氣ナク大氣ノ流通宜シキ所ニ貯ヘ置キ翌春彼岸ノ候ニ至レハ畑地ニハ南北幅三尺東西長サ適宜ノ苗床ヲ設ケ一坪ニ付杉檜ハ三四合松ハ二合内外ノ割合ヲ以テ撒ラシ蒔トス杉檜ノ苗ハ第二年目及ヒ第三年目ノ春彼岸ノ候ニ於テ床替ヲナシ其大小ニ應シテ第二年ハ三四寸方中ニ一本若シクハ二本ツ、第三年ハ根先ヲ截リ去リテ六七寸方中ニ一本ツ、ヲ植ヘ第四年目ノ春ニ至リテ山地ニ移植ス松苗ノ床替ハ杉檜ヨリモ其列間ヲ廣クスルノ

第三年目ノ苗ノ成長優レタルモノハ直チニ山地ニ移植スルコトアリ第四年目ノ苗ノ成長劣レルモノハ第三年目ノ分ト同一ニシテ苗床ニ植替ス

苗圃ハ膏腴ニ過キス瘠薄ナラサル地味ヲ撰ミ陽光適宜ニ當リ大氣ノ流通ヨキ南面ノ位置ニ設ケ毎年甲乙轉換シ且ツ前年ノ秋季ニ於テ深ク鋤キ返シ置クナリ

杉檜松植付ノ季節ニ至レハ毎朝苗床ヨリ直チニ若シクハ前日取寄セ假植ヲ爲シ置キタル畑地ヨリ一人一日ノ植込二百本乃至三百本ノ標準ヲ以テ山林ニ持運ヒ上部ヨリ始メ次第ニ植下ルモノナリ其法右手ニセル鋤ニテ穴ヲ一尺以上ノ圓形ニ掘リテ十分ニ搔キ碎キ左手ニテ苗木ノ中央ヲ持チテ穴ノ内ニ入レ根ノ屈曲セサル様又苗床ニアリシ丈ケ埋マル程ニ土ヲ入レ鋤ニテ敲キ付ケ或ハ足ニテ踏ミ付ケ置クモノトス但苗ハ百本毎ニ藪ニテ括リタルヲ植付毎ニ一把ヲ持チ鬚根ヲ適度ニ切り去リ溜レ莖ヲ以テ之ヲ包ムナリ

杉ハ概シテ溪間陰濕ノ地ヲ撰ミ檜ハ之ニ反シテ稍瘠薄ナル高燥ノ地ヲ撰ミテ植込ヲナス松ハ杉檜ニ適セサル最モ劣等ノ位地ニ於テ高卑ニ拘ハラズ砂礫交リノ所ヲ撰フニアリ杉檜植込ノ距離ハ土地ノ肥瘠ト遠近トニ依リ疎密ノ別アリテ素ヨリ一様ナラスト雖モ伐木數ニ對スル凡三倍若クハ現實反別一反歩ニ對スル凡一萬本ノ標準ヲ以テシ其植付方ハ從來正方形或ハ長方形ナリシカ近年三角法植ヲ施シツ、アリ松ハ杉檜ヨリモ其距離ヲ遠クスニ杉檜松共ニ植付後年ノ旱濕其他ノ障害ニ依リ枯損ヲ免レサルモノ凡一割乃至二割ニシテ或時ハ三四割ニモ達スルコトアリ其枯損シタル苗木ハ翌春引去リテ補植ヲ爲スコト三年

間ヲ繼續ス

植樹成長シテ四十年前後ニ達シ或ハ其年數ヲ經サルモ丸太トシテ仕出スヘキ迄ニ成育シタルモノハ伐採ヲ行フ既ニ四十年ヲ經過シタルモノニアリテハ間伐以外ニ於ケル枯損亡失等尠ナカラスシテ殆ント植付ノ三分ノ一ニ相當スル伐木ヲ得ルノ比例ナリトス立木ヲ數フルニハ葉百本ヲ一把トナシ十把ヲ一束トナシテ豫シメ所要ノ數ヲ定メ置キ各自ニ一把宛ヲ携帶シテ一本毎ニ木ニ結ヒ付ケタル後殘餘ノ葉數ヲ調ヘ以テ其幾何ナルヤヲ知ルニアリ春秋伐採ニ際シテ行フ之ヲ葉付ケト云フ此法下木間伐ノ時ニモ之ヲ行ヒ其數ヲ知ルト同時ニ伐ルヘキ木ノ目標トモ爲スナリ

杉檜成長シテ伐採シ得ヘキノ時期ニ至レハ毎年春秋兩季ニ於テ慣行ニ依リ山林所屬ノ大字住民ヲシテ一人當リ凡一百本(木ノ大小ニ依リ同シカラス)ノ標準ヲ以テ人員ヲ限リ區劃ヲ設ケ等差ヲ附シ伐採ニ著手セシム之ヲ山入リト云フ

杉檜伐採ノ法ハ斧ヲ以テ株ヨリ伐リ倒シ枝ヲ打チ拂ヒ梢ノ處二三尺ヲ殘ス但木ノ乾燥ヲ早カラシムルニアリ枝打チ終リテ後皮鎌普通ノ鎌ノ前半身ヲ斜ニ切り落シタル如キ刃先ノ尖リタルモノヲ以テ元ノ方ヨリ間竿ニテ計リ五尺七寸目ノ所ニ於テ廻シ切りヲナシ皮ノ堅ニ鎌目ヲ入レ置キテ篋ニテ剥キ取り順次梢ノ方ニ及ホシ圓形一寸位ノ處ニ至リテ止ム

皮剥キ終リタル木ハ山地ニ在リテハ支柱株ヲ二三尺高ク切り殘シタルモノヲ設ケテ積ミ

重子平地ニ在リテハ井ノ字形ニ配置シ皮ハ船積若シクハ車積便宜ノ地ニ持出シテ一區劃毎ニ皮長ケ平方面ニ并列シ縱横交々ニ積ミ重子總坪數ヲ計算ス

皮ハ五尺七寸ヲ以テ普通一間ノ長サトナシ幅五尺七寸ニ并列シタルモノ亦一間トス即チ一坪ナリ四間ヲ以テ一束ト爲ス舟車ノ便ニ據リテ海岸ニ搬出シタル後更ニ輸出先ニ應ジテ適宜ニ結ヒ方ヲ爲ス

皮一間ヲ剥キ得ヘキ木ヲ間木ト唱ヘ皮四間ヲ剥キ得ヘキ木ヲ束木ト稱ス間木ハ二十年生前後ニ於テモ稀ニ見ルコトアルモ概子三十年以上四十年生ノモノニ多ク束木ハ四五十年生以上ノモノナリ間木以下ヲ九分廻リ或ハ八分五厘廻リト云フ三十年以下ニ屬シ春秋丸太トシテ需要最モ多シ

伐リタル木ハ乾燥ノ時機ヲ計リ搬出ノ最モ便利ナル位地ニ於テハ長木ノ儘海岸ニ移スコトアルモ概子山地ニテ木ノ大小曲直ニ應ジ適宜ニ切り放ツモノトス是ヲ間尺ト云フ間尺シタルモノ即チ丸太ナリ間尺ノ種別ヲ臚列スレハ左ノ如シ

元切り(元返シ) 元腐リ元歪ミノ類

槍六尺二寸 口徑六七寸以上ニシテ元太リ若シクハ元歪ミノ甚シキモノ或ハ損傷等ノ場合間尺等ノ都合等ニ由リ戸棧玉トス

杉六尺二寸 口徑六七寸以上ニシテ(同前)板玉トナス

槍七尺 三寸角乃至五寸角トナスヘキモノニシテ(同前)十尺マテ直通セサルモ

檜一丈

長サ十尺二寸五分角以上トナルヘキモノニシテ正直ナルヲ角木トシ
其外及口徑二寸七八分以下六七分迄ヲ丸太トス

杉一丈

長サ十尺三寸角以上トナルヘキモノニシテ正直ナルヲ角木トシ其外
及口徑三寸二三分以下六七分マテヲ丸太トス

杉檜丈四

長サ十尺三寸五分角以上トナルヘキモノニシテ正直ナルヲ角木トシ
其外口徑三寸二三分以下一寸マテヲ丸太トス

杉檜丈六

長サ十六尺四寸角以上トナルヘキモノ
六尺間三間ナリ長サ十八尺口徑一寸五分乃至四寸ノ丸太トス

杉檜丈九

長サ十九尺四寸五分角已上トナルヘキモノ
七尺間三間ナリ長サ二十一尺口徑二寸乃至五寸ノ丸太トス

杉檜二十二尺

五寸角以上トナルヘキモノ
長サ二十四尺五寸六寸角已上トナルヘキモノ

杉檜三半

長サ二十八尺七寸角已上トナルヘキモノ

杉檜四間

凡ソ木材ノ價值ハ其曲直ニ由リテ高卑アルハ自然ノ數ナリト雖モ間尺ノ巧拙ニ依リテモ亦夫レニ影響スル處尠ナカラシテ從テ全部ニ及ホス所得ニ關係スルモノナルカ故ニ間尺ニ方リテハ角木ト丸太トニ於ケル時價ノ比較ヲ取り一々其木ニ就キテ角木トナスヘキ

モノハ尺ノ最モ多カラシコトヲ期シ丸太トナスヘキモノハ格付代價ノ最モ高カラシコトヲ計リ定メタル後ニ於テ伐リ放ツモノニシテ常ニ尺ノ及格付ヲ記憶シタル熟練ノ者ヲ以テ之ニ當ラシムルモノトス其間尺ニ必要ナル事項ハ左ノ如シ
角材ノ賣買ハ通常尺ノ以テシ又四寸五分角以下ハ尺ノ由ラスシテ直チニ現品ノ價ヲ定ムルコトアルモ丸太ニ至リテハ各種一定ノ價格ヲ設ケアリテ時價ノ變動ニ依リ其價格ノ一倍八分或ハ二倍ヲ以テ實價トナスニアリ是ヲ格付ニ對スル十八掛ケ或ハ二十掛ケト云フ

三重縣北牟婁郡引本港内丸太格付表

符合	末	口	一丈丸太	丈四丸太	下三丸太	上三丸太
ン	七寸乃至七寸五分					
サ	六寸五分乃至七寸					
ク	六寸乃至六寸五分					
コ	五寸五分乃至六寸	拾七錢				
イ	五寸乃至五寸五分	拾四錢五厘				四拾錢
タ	四寸五分乃至五寸	拾貳錢五厘				參拾六錢
一	四寸乃至四寸五分	拾錢六厘				貳拾貳錢
二	三寸五分乃至四寸	九錢				貳拾七錢五厘

三	三寸乃至三寸五分	七錢四厘	拾壹錢五厘	拾參錢	貳拾參錢五厘
四	二寸五分乃至三寸	五錢七厘	九錢	拾壹錢	拾七錢五厘
五	二寸乃至二寸五分	四錢參厘	六錢八厘	七錢五厘	拾參錢
六	一寸五分乃至二寸	貳錢八厘	四錢八厘	四錢五厘	拾錢
七	一寸乃至一寸五分	壹錢六厘	參錢貳厘	貳錢七厘	
ム	一寸以下	壹錢			

七尺以上十尺ニ滿タサルモノヲ末木ト云フ一本ノ格付ハ五厘ナリ

二印以上格付ノ表記ナキモノハ丈四一才九厘五毛ノ率ヲ以テ其格ヲ算出ス但普通丸太ノ賣買ニ於テ實地應用スルコト稀ナリ

因ニ記ス丸太ニ一定ノ格付ヲ設ケシハ明治十年頃三重縣伊勢國北牟婁郡引本町大字引本浦木材商故芝原新助ノ創案ニ係リ爾後引本港内ハ勿論尾鷲港及長嶋港内ニアリテモ時勢ニ應シ組合ニ於テ其幾分ヲ變更シツ、兼用シ來リシモノニテ尾張、三河等ノ諸國取引モ專ラ此格付ニ依ルモノナリ

杉ノ皮付丸太ヲ仕出スコトアリ春秋彼岸前ニ於テ其年伐ルヘキ材木ノ中ニ付キ最モ佳良ナルヲ撰伐シ間尺シテ名古屋或ハ東京ニ輸出ス磨キ丸太是ナリ

松ハ皮ノ剝脱セサル時即チ初冬ヨリ初春マテノ檜ニ於テ杉檜ノ如ク山入りヲ爲シ斧ト鋸トヲ以テ伐採ス伐採終レハ直チニ間尺ニ著手シ丈四末口五六寸以下ノモノ及ヒ末木ハ其

場ニ於テ長サ二尺一寸乃至二尺二寸宛ニ鋸ニテ玉切り又斧ニテ小割シテ薪用ノ松材トナスニアリ丸太ノ間尺モ亦杉檜ノ如ク一丈丈四、上三、下三ノ四種ニ分チ末口五六寸以上ノモノヲ取ル

杉檜松ノ間尺ヲ終ヘタルモノハ左記ノ方法ニ據リテ豫テ最寄ノ港灣ニ近キ所ニ設ケアル木場ニ移ス

- 一 人ノ肩ニ擔ヒテ持運フモノ
- 一 木馬ニ積ミテ挽ク木馬ハ檜ノ木ニテ造リタル長サ八九尺幅一尺七八寸高サ六七寸ノ梯子形ニシテ挽キ出スヘキ丸太ヲ以テ又梯子形ニ線路ヲ設ケ或ハ地上二三尺目毎ニ丸太ヲ横タヘ其上ヲ挽クナリ荷車ノ通セサル所ニ於ケル出シ方ニシテ荷車ニ對スル殆ント三倍ノ數量ヲ積ミ得ラル、モノトス
- 一 普通ノ荷車若シクハ牛馬車ニ積ミテ挽クモノ
- 一 しゆらニテ挽キ出シ又ハ自然ニ下降セシムしゆらハ搬出スヘキ木ヲ以テ橋形ニ之ヲ架ケ又ハ地上ニ船底ノ如ク木ヲ并ヘ綴シタル線路ナリ嶮難ナル場合ニハ飛ヒしゆらトテ傾斜ノ度モ強ク自然ニ下降セシメ嶮難ナラサル場合ハ挽キしゆらトテ傾斜ノ度モ弱ク木ノ三四本又ハ五六本ノ梢ヲ纏メ綱ニテ挽キ出スナリしゆらヲ用フル時ハ長木ノ儘ヲ宜シトシ人車通行セス又木馬ヲ使用シ得ラレサル所ニ於ケル出シ方トス
- 一 やゑんニ據リテ釣リ下クルモノやゑんハ鐵線二條ヲ張り線ノ上部適宜ノ距離ニ滑車

各二箇ヲ掛ケ釣モ亦各二箇ヲ垂ラシ雙方ノ滑車ハ綱ニテ連絡セシメ置キテ丸太ニ結ヒ付ケタル綱ヲ釣ニ掛ケ各線交々自然ニ下降セシム遠距離ノ高山等ニアリテハ極メテ便利ナリ線ノ延長ト山ノ形状等ニ依リ屈折ヲ施シ所々ニ次キ場ヲ設クルモノトス

一 船積スヘキ港ニ遠キ位地ニアリテハ前項ノ諸法ニ依リ最近ノ河端ニテ安全ナル位地ニ併ヘ置キテ積ミ累ヌルコト適度ノ出水ニ際シ海岸ノ木場マテ流下セシム下川之ナリ管流ハ間尺ノ丸太ヲ其儘放流スルモノニシテ川下ニテハあば(椽欄)ノ太キ綱ヲ張リテ散逸ヲ防キ川上ヨリ漸次濤口ヲ以テ之ヲ扱ヒ殿リノ舟附隨シテ一所ニ纏メ終レハあばヲ締メテ水上ヲ爲ス又筏ニ組ミ或ハ舟ニ積ムコトアリ少數ナル時ニ於テ之ヲ行フ水利ノ便ニ據ルコト克ハサル地ハ荷車又ハ牛馬車ニテ木場マテ運搬ス

本村所屬ノ森林ハ川下ナル引本港ヲ距ルコト最モ遠キ所ニ於テ三里ニ過キス其近キ所ハ僅カニ十町ヲ隔ツル而已ニシテ總テ河水ヲ利用スルノ便益アリ本村以外ノ所屬ニ係ル森林ハ概シテ海岸ニ接近シテ運搬ニ費ス所少ナク從ヒテ船積モ亦便利多シ

木場ニ著シタル木材ハ角木ト丸太トヲ區別シテ併ヘ置キ丸太ハ鉈或ハ斧ニテ節ヲ削リ元切リヲ直ス等夫々ノ手入ヲ施シ四種各別ニ末口ヲ揃ヘ幾箇所ニモ併ヘ列ヘタル後丸太尺度(格付)ノ符ヲ記シタル尺度ニテ先キニ五分位ノ釣アルモノニテ一本毎ニ當テ、格付ノ符ヲ記シ置クナリ之ヲ丸太作り又寸書ト稱ス

角木ハ柚(職)木ヲ削(削)職ナリ方言ニ從フヲシテ木ノ大小ニ應シ豫メ五分削リ七分削リ或ハ

八分削リ等ノ標準ヲ定メテ四方角ニ削ラシム其法斧ヲ以テ(斫)斫ヲナシ次テ及廣斧ヲ以テ仕上ヲナス五分削リトハ口徑四寸五分ヲ四寸角ニ削ルノ謂ニシテ口徑ニ對スル角面ノ定メ方ナリ角面ハ二寸五分以上遞次五分上リニシテ尺角以上ニ至リテハ一寸上リナルモ削ルコト稀ニシテ材ノ太キモノニ至リテハ木挽職ヲシテ四方ヲ挽キ落サシムルコト多シ

角材ハ階段形ニ併ヘテ元ノ方表面ニ二尺位ノ間ニ商標ヲ印シ杉檜ノ區別并ニ長サト角ノ寸法ヲ書記ス是角ノ寸書ナリ角ノ寸間ヲ計リテ尺メヲ算出ス

角材ハ專ラ東京市ニ輸出ス時ニハ名古屋市ニ送ルコトアルモ其數僅少ナリ是ニ反シテ丸太ハ專ラ名古屋市ニ輸出ス又三河地方ニモ送ルコトアリ共ニ帆船ノ便ニ賴ルナリ松丸太ニハ一定ノ格付モナク亦角材トナスコト稀レナリト雖モ扱方杉檜ニ準ス

元切リハ取纏メ損傷ナキモノニシテ口徑四寸以上ノ分ハ燃寸軸製造ノ材料ニ供シ其殘餘ハ勿論末木其他一切ノ木片ハ總テ薪用トス柚ノ削リタル木端モ薪用トナシ木挽ノ挽キタル脊板ハ建物ノ外圍ヒ若シクハ其他ノ用ニ供ス

杉ノ葉ハ線香粉ノ材料ニ供シ及杉檜松ノ枝葉ハ薪用トス

杉檜松共ニ伐採若シクハ間尺ノ後搬出ノ前ニ於テ必ス伐リ口ニ極印ヲ打込ミ置キ他日下川等ノ時錯雜ノ場合ニ於テ撰リ分クルノ便ニ供スルト自家ノ商標ヲ示ストニアリ

杉檜ノ間伐シタルモノハ皮ヲ剝キ若シクハ削リ木ノ大小良否ニ依リテ長木ノ儘なるトシテ仕出スモノト丸太或ハ角材トシラ仕出スコトアリ其法皆伐ノ扱ヒト異ナルコトナシ松

ハ薪用ニ仕出スモノトス
 培養及保養 杉檜ノ苗床ニ於ケル養護ハ播種ノ後輕鬆ナル山土ヲ篩ヒ掛ケ板ニテ壓ヘ尙
 ホ杉檜ノ枝葉若シクハ藁ヲ以テ之ヲ覆ヒ發芽ヲ見ルニ至レハ其覆ヲ取り去リ雜草ヲ除キ
 更ニ一尺五六寸ノ高サニ四方ニ杭ヲ打チ込ミ竹又ハ木ヲ横ニ架シテ其上ニ杉檜松ノ枝葉
 或ハ簀ヲ置クヘキ棚覆ヲ南方低ク北方高キ様ニ造リ朝ハ之ヲ覆ヒ夕ハ之ヲ除キテ日光ノ
 直射ヲ防キ大雨ノ時ハ取除カスシテ漸ク降雪ノ候ニ近ツケハ棚覆ノ方面高低ヲ反對ニ作
 リ替ヘテ陽光ヲ受クルニ便ナラシメ且ツ霜害ヲ防クモノトス霜覆ハ第二年生ノ苗ニモ之
 ヲ施ス

松ハ杉檜ト異リ能ク害暑ニ堪ユルヲ以テ棚覆ヲ施サス

苗圃ハ常ニ雜草ノ除去ヲ怠ラスシテ乾燥ニ過クレハ水ヲ施シ濕潤ニ過クレハ排水ヲ行ヒ
 殊ニ夏季土用前ニハ藁ノ細カク刻ミタルヲ散布シテ乾燥ヲ豫防スルコトアリ毎朝苗圃ヲ
 見廻リテ蟲害獸害等諸般ノ注意ヲナス

苗圃ニハ濃厚ナル肥料ヲ施スコトナシ元來森林ニハ何種ニ拘ハラス時ニ肥料ヲ施スコト
 ナキヲ以テ膏腹ノ畑地ニ毎年植替ヲナシ尙ホ其上ニ肥料ヲ施スコトアレハ苗ノ成育良好
 ナリト雖モ山地ニ移植スルニ方リテハ土質ノ異ナルカ爲メニ凋衰枯死ノ多キヲ免レス故
 ニ成育ノ如何ニヨリテ稀糞一二回ヲ施スコトアルノミニテ努メテ鬚根ノ多キ幹ノ太キモ
 ノヲ仕立ツルコトヲ目的トナス

山地ノ植付前ニ當リ荆棘雜草ノ繁茂セル所ハ必ス刈拂ヲ怠ラス又新タニ植林トスヘキ所
 ニアリテハ刈拂ヲ爲スノ外其柴草ハ谷間ヘ捲リ込ミ靜穩ノ日ヲトシテ燒棄ツル等ノ準備
 ヲ爲ス

苗木ヲ山地ニ移植シタル後ハ地味ノ肥瘠ニヨリ自カラ其養護ヲ異ニスト雖モ中等ノ地位
 ニ在リテハ植付タル年ノ夏期土用前後ニ於テ荆棘葛藤等ノ雜草ヲ芟除シ刈草ハ其儘樹間
 ニ叩キ付ケ置キテ他ニ持出スコトナク又別ニ肥料ヲ施スコトモナシ之ヲ下刈ト云フ其法
 鎌ヲ以テ相當ノ距離ヲ保チ相并ヒテ下方ヨリ上方ヘ次第ニ刈リ上クルナリ毎年同時期ニ
 於テ下刈ヲ爲スコト七八年間ヲ繼續ス七八年後ニ至レハ漸ク成長シテ枝葉大ニ繁茂シ自
 然雜草ノ發生劣ルヲ以テ是ヨリ適宜年ヲ隔テ、下刈ヲ爲スコト十四五年ニ至ルコトアリ
 十四五年目以後ハ雜草ノ程度ヲ見計ラヒ臨機下刈ヲ爲ス

枝葉繁茂シテ鬱閉ヲ來タシ林内空氣ノ通セサル程ニ至レハ必ス枝打ヲ行フ枝打ハ鎌鉈ノ
 類ヲ以テ幹ニ接スル枝ノ下部ヲ傷ツケ置キテ又其上ヨリ切落シ力枝以下皆取卸スナリ之
 ヲ行フハ晩冬ヨリ初春ノ間ニ於テ樹皮ヲ剝カサルノ注意ヲ要ス又繁茂ノ程度ニ應シ時
 々之ヲ行フナリ

松ハ杉檜ヨリモ疎植ナルカ故ニ雜草ノ發生モ多ク從ヒテ杉檜ヨリモ下刈ノ後ル、コトア
 リト雖モ元來松ハ最モ瘠地ヲ撰ミテ植付タルモノナレハ杉檜地ノ如ク雜草ノ發生盛シナ
 ラサルニ反シテ比較的松ノ發育早キヲ以テ實際杉檜程ニハ下刈ヲ要セス

植付後四五年間雜草繁茂シテ杉槍ヲ掩フ程ニ至ルヘキ處ハ初夏初秋ノ候ニ於テ年内二回ノ下刈ヲ行フ發育一層快速ナリ

植付後六七年ヲ經過シタルモノニシテ全ク發育ノ見込ナキモノハ下刈ノ際之ヲ伐リ棄テ十二三年ヲ經過スレハ三年若シクハ五年目毎ニ發育不良ノモノヲ間伐ス其數一回毎ニ現在木ノ一割ヲ標準トシ主林木ノ皆伐迄ニ凡ソ六七回之ヲ行フ

森林ノ管守ハ各大字ニ支配人ヲ置キ植付下刈及伐採ノ任務ニ當ラシメ日常各方面ヲ巡視シテ異狀ナキヤヲ檢察セシメ若シ異狀アルコトヲ認知シタルトキハ直チニ本店ニ報告セシメ指揮ニ應ジテ其事ヲ處理セシム事故ニ依リ支配人會議ヲ開キテ其處分ヲ決スルコトアリ又毎年春秋兩季ニ於テ支配人共同各山林ヲ巡回シテ發育ノ狀勢ヲ視察シ下刈スヘキ箇所間伐或ハ皆伐スヘキ箇所等ヲ見定メ且ツ四方ノ立木ニハ必ス本店ノ家標ト支配人ノ巡視ノ事ヲ書キ記シテ境界ノ錯雜ヲ防クニ備フル事ヲ爲ス

山林巡視ノ時ハ必ス鎌或ハ鉞ノ如キ及物ト大墨斗トヲ携帶シ幼樹ノ障害トナルヘキモノ又ハ中木伐木ニ卷キ付タル藤葛ノ類ハ見當リ次第ニ伐リ除キテ發育ノ害ナカラシムルコトニ努メ若シ他人ノ伐リ取りタル木アルヲ發見スル等ノ時ハ其木ヲ持去ルコトナカラシムル様ニ書キ記シ又境界ニ屬スル立木ニハ見廻リノ事ヲ記スナリ

鳥獸ノ害ハ大ニ稀ナル方ナレトモ兔ノ幼樹ノ芽ヲ嚙ミ切り鹿猪ノ中木以上ノ皮ヲ傷ツケ根ヲ掘ル等ノ如キ獸類ノ害ハ位地ニ依リ多少免レサル所アリ然レトモ全山ノ力ヲ爲ニ生立

セサルコト無ク所々點々其害ヲ被ルモノナレハ幼樹ノ間ハ時々相當ノ苗ヲ以テ是ヲ補フナリ中木以上ニ至リテハ止ムヲ得ス其儘ニ附シ置カサルヲ得ス此等ノ被害豫防ニ就キテ種々方法ヲ試ムルコトアルモ四隣ノ境域甚タ廣ク且ツ各所ニ點在シ周ク實行シ得ラレサルモノアルヲ以テ未タ全ク其効ヲ見ルコト能ハサルヲ遺憾トス但兔ノ害ヲ禦クニ於テ稍稍實功ヲ認メタルモノハ幼樹ノ傍ラニ理髮所ヨリ得タル髮切レヲ少量ツ、配置シタルモノニアリキ

大雨強風洪水及劇震等ノ後ニハ必ス所屬支配人巡視ヲ遂ケ其災害ニ罹リシ狀態ニ應ジ相當ノ手入ヲ施ス殊ニ幼樹ノ倒レタルカ如キハ之ヲ起シテ添木ヲ爲シ根元ヲ踏ミ固メ又崩潰ノ箇所ニハ切り芝ヲ立テ、之ヲ防キ或ハ河水ニ添フ所ハ石垣ヲ積ミ若シクハ柵ヲ設ケテ之ヲ護リ等閑ニ附スルコトナシ

火災ノ防禦ハ從來其設備ナカリシモ輒今新タニ植樹スヘキ面積ノ廣大ナル位地ニアリテハ必要ノ方面ニ對シ幅十尺位ノ空地ヲ存シテ毎年雜草ノ芟除ヲ懈ラス又人ノ交通頻繁ナル位地ニ當レルモノハ毎年冬期ノ初ニ於テ殊ニ下刈ヲ爲シ苧草ヲ除外シテ清掃シ置キ萬一ノ危険ニ備フルノミナラス消防ニ要スル一切ノ器具人夫ヲモ設備ス

山林ノ出火ヲ認ムルトキハ郡内何レノ町村ニ拘ハラス附近ノ消防組ハ勿論以外ノ男子モ概子鎌鉞斧ノ類ヲ携ヘ現場ニ馳セテ消防ニ盡力スルノ美風アルヲ以テ爲シ得ラル、限リノ方策ヲ施シ大事ニ至ラスシテ鎮靜ノ効ヲ奏スルコトヲ得ルニアリ其火災ニ罹リ恢復ノ

見込ナキモノハ直ニ伐採シ皮ノ剥キ得ヘキ見込アルモノハ季節ヲ待テ伐採ス天災地變ニアラスシテ人爲ノ加害ニ於ケル盜伐及各種ノ採掘ハ最モ取締リ難キ事ニ屬ス山林ニハ素ヨリ墾垣ノ設ケナク又各所ニ見張ヲ置クコト實際行ハルヘキコトニアラサルノミナラス方今尙森林警察ノ周密ナラサルカ故ニ日常支配人ノ注意怠ラスト雖モ到底之ヲ禦クコト能ハス殊ニ運搬便利ノ地ニ於テ其害最モ多カリシカハ數年前ヨリ各林主ノ合議ニ於テ團體的監守若干ヲ設ケ部署ヲ定メテ警邏セシメ今尙ホ實行シツ、アリテ漸次被害ノ減小スルト時々未遂ニ防クノ効アルヲ認ムルニ至レリ

効用 杉檜丸太及杉檜角ハ總テノ建築材料ニ供シ其質堅ク能ク永久ニ堪ヘ夙ニ能野丸太熊野角ノ稱アリテ東京及名古屋附近ニ賞用セラル松丸太ハ建築用ノ外各種ノ土木事業ニ使用セラル杉檜皮ハ建物一切ノ屋根下地或ハ建物外部ノ圍ヒ板代用トナスヲ普通トシ其他天井ニモ使用セラルヘク又一時ノ假小屋屋根及牆覆等ニ用ヒテ最モ便利ナリ當國熊野地方ノ如キ中流以下ノ人家ニアリテハ藁葺ノ屋根實ニ僅少ニシテ概テ此兩種ノ皮ヲ以テ之ヲ葺クナリ

杉檜皮ハ冬期霜雪ノ凍害甚タシキ位地ニ於ケル建物ノ屋根トシテ適當ノ材料ナリ

産出額 年々産出スル數額ハ伐採スヘキ山林ノ廣狹ニ依リテ多少アリ又時勢ニ依リテ酌量スヘキモノアルヲ以テ素ヨリ一定スル所ナシ左ニ明治二十七年以後ノ産出額ヲ録ス

丸太一萬九千九百本

明治二十七年中杉檜

角尺 〆四百二十一本

皮一萬三千二百十八間

丸太二萬四千三百八十本

角尺 〆五百二十八本

皮一萬六千六百九十八間

丸太二萬一千六百二十八本

角材尺 〆六百四十九本

皮一萬六千四百十九間

丸太二萬三千三百九本

角材尺 〆七百二十一本

皮一萬八千八百七十三間

松丸太百八十七本

丸太二萬八千七百七十七本

角材尺 〆七百〇八本

皮二萬百十八間

松丸太二百三十一本

丸太二萬八千六百六十二本

明治三十一年中杉檜

明治三十二年申杉槍

角材尺 \times 六百三十七本
皮一萬九千八百八間
松丸太五百六十本

明治三十三年申杉槍

丸太三萬千六百二十七本
角材尺 \times 六百七十五本
皮二萬一千八十五間
松丸太四百十九本

明治三十四年中杉槍

丸太三萬三千四百三十一本
角材尺 \times 七百六十一本
皮二萬三千六百二十一間
松丸太八百二十六本

褒賞 杉槍、松丸太及杉槍角ノ出品ハ今回ヲ以テ嚆矢トシ杉槍皮ハ第四回内國勸業博覽會ニ出陳シタルノミニ止マルモノナリト雖モ山林全部ニ對シテハ明治十五年三月東京山林共進會ニ於テ五等褒賞銀杯一箇并ニ金參圓ヲ受ケタルコトアリ但其事由ヲ發表セラレサルヲ以テ爰ニ明記スルコト能ハス

審査請求主眼 方今伐採シ得ラル、所ノモノハ概子先代ノ經營ニ屬スルモノニシテ先代ノ林業ニ勵精セシ結果ニ外ナラサルハ前項產出額ノ年々増加シツ、アルニ照シテ明晰ナ

ルハ勿論伐採ノ曉ハ必ス其跡地ノ植付ヲ怠ラス又獲ルニ從ヒテ新規ノ造林ニ努メ毎年植付最モ少ナキ時ニ於テ六萬本多キ時ニ於テハ二十萬本或ハ年ニ依リテハ三十萬本ニ達スルコトアルヲ以テ漸次成育スルニ從ヒ倍々多數ノ產出ヲ爲シ得ラル、ノミナラス現ニ杉槍松ノ三種ニアリテハ建築材ノ外船艦、橋梁、電機柱等ノ用材ヲモ產出シ得ラル、ナリ
善良ノ木材ヲ得ンニハ地味ノ適合ヲ誤ラス養護ノ周到ヲ怠ラサルトニアリ苟モ地味ノ適合ヲ誤リ養護ノ周到ヲ怠ルトキハ其損失一家ニノミ止マラス延テ國產ニ影響スル所亦尠少ニアラス而モ尙ホ三四十一年間ノ長期間ニ亘ルノ甚タシキニ至ルハ最モ見易キノ道理ナリトス自分夙ニ覺ル所アリ世襲以來先代ノ遺示ニ倣ヒ數年ノ經驗ニ徴シ又方今ノ學理ニ聞キ努メテ改良ノ方策ヲ施シツ、アルモ年尙ホ淺クシテ伐採ノ年齡ニ達スルコト遠ク從ヒテ自分ノ養成ニ係ル林木ノ出品ヲナスコト能ハサルヲ遺憾トス今爰ニ出品スルモノハ先代ノ養成ト自分ノ保護トニ依リテ生育シタル林木ノ仕出シニ係ルモノニシテ殊ニ審査ヲ求ムル程ノ事モナシト雖モ其杉ノ三十年生槍ノ五十年生ニ於ケル生長ノ度合間尺ノ適否并ニ杉槍角ノ調材改良ノ事等ハ聊カ一瞥ヲ煩ハスニ足ルヘキモノアルヲ覺ユルナリ
漫リニ養護ノ費ヲ節スレハ成長ヲ促カスコト能ハサルノミナラスシテ却テ成長ヲ沮害スルニアリ生長緩漫ナレハ林相醜惡ニシテ自然伐採ノ期ヲ遲延ナラシムルニアリ林相ヲシテ美ナラシメス伐採ヲシテ後ラシムルカ如キノ節約ニ過クルハ策ノ得タルモノニアラスシテ從ヒテ佳良ノ木材ヲ望ムヘカラサルト同時ニ所得ノ上ニ於テ著シキ減少ヲ見ルノ結

果ヲ生スルヲ以テ事情ノ許ス限リハ寧ロ養護ニ費スヲ吝マサルニアリ而シテ成ルヘク其費ヲ節スヘキハ養成後ニ於ケル産出ノ諸費ヲ省クノ一途ニアリテ産出ニ要スル諸費ノ中ニ於テモ最モ收利ニ影響スルモノハ運搬ノ遠近ト難易トニ關スルモノナルカ故ニ前項ニ錄スル搬出ノ方法中ノ適切ナルニ據ルノ外臨時若シクハ常用ノ道路ヲ開設シテ運搬ヲ容易ナラシメ努メテ其費ノ減少ヲ計リツ、アリ

杉檜材皮共ニ東京及名古屋附近ニ輸送スルヲ專ラトシ時トシテ諸國廻船ノ需メニ應スルノ外大阪地方ニ直接輸出シタルコト無カリシカ漸次交通ノ便ヲ得ルニ從ヒ近來同地方ニ向ヒテ販路ヲ擴張シツ、アリ

木材ノ品格ヲ左右スルハ間尺ト削リ方ノ巧拙如何ニ存スルコト前項ニ説ク所ノ如シ故ニ本店仕出ノ木材ニアリテハ殊ニ間尺ニ注意シ削リ方ヲ改良シテ益々品位ヲ優等ナラシメシコトニ勉メシカハ夙ニ需要者ノ好評ヲ博シ賣行最モ迅速ナリ

松ハ概子慣行ニ依リ松才(松才トハ直徑四五寸ノ松ヲ薪材ニ供スル爲メ長サ一尺五寸ニ切リタルモノナリ)トシテ薪用ニ仕出スモノナリシカ輓近搬出ノ方法漸ク簡便ナルヲ得ルニ至リテモ尙ホ松材トシテ削リ崩スノ不利ナルヲ察シ丈四末口五六寸以上ノ元木ヲ丸太トシ其以下末木ヲ松才トナスコトニ改メツ、アリ

静岡縣 同縣磐田郡龍川村青山善右衛門出品ノ赤松正四分板ハ今回幾多ノ松材出品中ニ於テ獨リ本品ノミニ二等賞ノ優等賞格ニ入りタルモノニシテ材質丸太々佳良ニシテ木理ノ色澤

鮮麗ヲ極メ赤味勝チノ幅廣板ニシテ所謂何等ノ用途ニ向テモ最モ其適材タルヲ認ム加之其解説書ニ據ルトキハ本材ハ出品人所有森林ノ産出ニ係ルモノニシテ其林地反別百八十四町歩餘ノ廣キニ鬱生シ年々ノ伐採額平均木數一萬本尺一萬二千本ニ及フト云ヘリ其蓄積量及保續ノ如何ハ之ヲ知ルニ由ナシト雖モ寔ニ松材トシテノ好產品タルヲ失ハサルナリ且ツ同人祖先以來播種育苗植樹栽培ニ從事シ依テ以テ今日ノ産材ヲ得ルニ至レリト云ヘリ又以テ其斯業ニ盡瘁セル所ノ尠少ナラサルヲ知ルヘキナリ尙ホ將來此種良材ノ産出ヲシテ益々大ナランコト切望ニ堪ヘサルナリ

京都府 同府愛宕郡鷹峯村材木組合出品ノ赤松床柱數點及檜出節床柱材ハ共ニ佳良ニシテ一種雅致アル柱材トシテ甚タ其適良ナルヲ認ム産地ハ兩種共同村附近ノ山林ニシテ其解説書ニ據ルニ赤松床柱材ハ直幹ニシテ技節ナキモノヲ撰擇シ伐採搬出ノ後脊割リト稱シ幹背ヨリ中心ニ達スル迄幅七分乃至一寸三四分位ニ挽キ鑿ヲ以テ刻リ抜キ以テ其乾裂ヲ防キ而シテ剝落スヘキ外皮ヲ篋ヲ以テ剝キ取り日光ニ曝スコト六箇月間ニシテ充分水分ヲ除去シ乾燥シタル後荒繩又ハ綿布ヲ以テ之ヲ磨キ出スモノナリト云ヘリ其産額明治三十三年ニ五千本此價額四千圓同三十四年ニ五千本此價額四千五百圓同三十五年ニ六千本此價額六千圓ニシテ販路ハ全國ニ涉リ就中京坂名古屋北陸地方中國九州等最モ其主ナルモノナリト云ヘリ檜出節柱材モ亦脊割リヲナシテ乾裂ヲ防キ細砂ヲ以テ洗滌スル所ナリト云フ産額ハ最近三箇年間毎年三千本乃至五千本此價額壹千貳百圓乃至貳千五百圓ニシテ販路畧ホ前者ニ同